

財政学	秋 週2回 4単位
担当者：正上 常雄	
講義の目標及び概要	
カリキュラム上の位置づけ 専門選択科目であり、経済学を履修後、1年次秋～2年次に履修するのが望ましい。	
目的 財政は我々の税金にかかわる事柄です。我々はなぜ税金を納めなくてはならないのか、財政は何に使われているのか、財政赤字があると何が起きるのかなど、様々な疑問があると思います。我々にとって身近なようでよくわからない財政、新聞では、ギリシャの財政危機とか日本の税と社会保障の一体改革など財政にまつわる様々なトピックが取り上げられています。現実を理解するには、財政の仕組みと本質を理解しなくてはなりません。 そこで、この授業ではわかりやすいテキストを使って財政を基礎から学んでいこうと思います。教科書に書いてあることを学ぶだけでなく、現在の財政に関する現実の問題についても色々議論してみたいと思います。	
評価方法	
大学の規定にある出席日数に足りていることを前提に、中間試験、期末試験、および平常点で評価する。評価の割合は中間試験40%、期末試験50%、平常点10%とする。出席点は考慮しない。	
教科書	
神野直彦『財政のしくみがわかる本』岩波書店	

埼玉地域政策研究	秋集中 2単位
担当者：大塚 健司	
講義の目標及び概要	
(1)内容 本講座では、国の制度や施策と地方分権（地域主権）と言われながらも、地方自治体としての埼玉県が、その狭間で各分野において、どのように政策決定してきたか、またますます厳しさを増す財政状況のなかでどう政策展開を図るべきなのか、具体的なケース 事例等を通して、実践的な視点から埼玉県を研究対象にし、問題解決の糸口を探すことを狙いとしている。 なお、本講座では、県及び市町村等から講師を招くオムニバス方式で実施する。	
(2)カリキュラム上の位置づけ 行政系統の専門科目で大学院開設科目である。	
(3)学びの意義と目標 地方行政がどう動いているか、行政を担当している人等に講師に来てもらうので基本的なことから実践的なことが理解できる。	
評価方法	
毎回の講義内容等について、原則、次回レポート提出。	
教科書	
プリントを配布する	

産業心理学	春集中 2単位
担当者：真船 浩介	
講義の目標及び概要	
1. 内容 産業心理学は、生産性の維持向上から、労働者の健康や幸福の保持増進まで、仕事に関する幅広い範囲に心理学の知見を応用する分野である。本講義は、働くことと人を動かすことの2つの視点から、仕事において活用されている心理学の知見を整理する。特に、どのように生産性を高めるのか、どのように健康を守るのか、活発に働くためにはどのようなことが必要か、どのように能力・スキルを伸ばすのか、人を動かすリーダーにはどのようなことが求められるのか等、職場において活用されている心理学の知見を具体的に明らかにする。講義はスライドを使用し、随時、受講生の意見を求める。	
2. カリキュラム上の位置づけ 産業分野に応用されている心理学の知見を学ぶ入門的な位置づけである。	
3. 学びの意義と目標 産業分野で応用されている心理学の知見を学び、産業心理学で用いられる用語や方法論を理解できること。健康に働くことに加え、働くことにより、満足や活力を得るための方法の概略を説明できることになること。	
評価方法	
レポート70%、出席30%、授業への参画が積極的な場合は加点を行う。	
教科書	
プリントを配布する	

算数	春 秋 週1回 2単位
担当者：佐藤 逸子	
講義の目標及び概要	
(授業目標) 算数は、その後の数学教育への重要な導入部分となる。従って数や量の概念などに特に留意し、正確かつわかりやすさを指導目標とする。また図形概念については、具体物を通してかなり早期に身につける必要があるため慎重に指導することを目標とする。 (授業の概要) 小学校算数学習指導要録に準拠した内容を、項目別に教える。理解を深めるために、発展的な内容を随時取り入れる。関心・意欲を高めるために実験や体験学習も導入する。	
評価方法	
出席状況・期末試験・中間レポート・授業時に課せられる小テストを総合して評価する。	
教科書	
文部科学省『小学校学習指導要録解説 算数編』東洋館	

算数科教育法	春 週1回 2単位
担当者：小関 照純	
講義の目標及び概要 すぐれた算数の授業の追究をテーマとする。授業目標は、小学校算数科の目標、指導内容、指導方法についての理解を深め、算数教育の実践力を育成する。	
評価方法 出席を大変重視する。期末試験、レポートの他、出席、授業中の小テスト、授業中の意見発表も評価の対象になる。	
教科書 『新編 算数科教育研究』学芸図書 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館	

ジェンダー論(女性学)	春 週1回 2単位
担当者：田中 俊之	
講義の目標及び概要 ジェンダー研究は〈女らしさ〉／〈男らしさ〉が、社会・文化的に形成されたものであることを明らかにした。女性学とは女性が女性であるがゆえに抱える「女性問題」を、ジェンダーの視点から問う学問である。講義では現代の日本社会を中心に、女性をめぐる諸問題について考察する。各種の調査データや映像資料などを参照しながら、いかにして女らしさが社会的・文化的につくられていくのかを検討していく。学術的な議論に終始するのではなく、仕事や恋愛といった身近なテーマを取り上げることで、受講者一人ひとりが自分の問題としてジェンダーを考えられるようにしていきたい。	
評価方法 出席20%、授業内小レポート20%、学期末レポート60%	
教科書 プリントを配布する	

視覚文化	春 週2回 4単位
担当者：畠山 宗明	
講義の目標及び概要 1) 内容 今日の社会では、情報メディアの多様化が進行している。私たちは、映画やテレビなどの視覚メディア、インターネットやipodなどのデジタル・テクノロジーのように、多様なコミュニケーション・ツールに取り囲まれている。本講義は、今日のメディア文化のあり方を、歴史的な広がりと共に学んでいきたい。 2) カリキュラム上の位置づけ 本講義は、文学研究や美術研究、映像文化や社会学など、様々な分野との接点を持っています。本講義は多様な分野に跨がる共通の問題意識を「メディア」という観点から考えます。 3) 学びの意義と目標 本講義の目的は以下の2つである。 1. 今日のメディア文化を作り出している様々なメディア装置の歴史を知る。 3. 多様化するメディア文化を読み解く力を身につけ、総合的なメディア・リテラシーを高める。	
評価方法 中間テスト (20%)、期末レポートもしくは期末試験 (60%)、ミニッツ・レポート(期間中5回程度実施、20%)	
教科書 授業の中で指示する	

試験対策英語(英検2級)	秋 週2回 2単位
担当者：行森 まさみ	
講義の目標及び概要 1. 内容 英検は英語の技能を総合的に判定する資格試験である。最近では大学では入学や単位認定、企業では就職や昇進の評価資料とされることも多くなっている。2級合格には高校卒業程度の英語力が必要とされ、職場で使う英語や社会的な内容の長文読解等の力を身につけることが求められている。この授業では、一次試験(筆記・リスニング)および二次試験(面接)の試験対策を行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科「外国語」専門科目群の選択科目である。 3. 学びの意義と目標 2級に合格することは、基本的な文法、語彙等を知っており、円滑なコミュニケーションに必要なリスニング能力およびスピーキング能力を持っているということである。よって、試験合格のみを目指すのではなく、総合的な英語力の向上を目標とする。	
評価方法 積極的な授業参加(出席回数、宿題への取り組みを含む)(30%)、3回の模擬試験(30%)、2回の模擬面接試験(20%)、語彙テスト(20%)によって算出する。	
教科書 旺文社 編『英検2級総合対策教本』旺文社 旺文社 編『英検 文で覚える単熟語2級 改訂版』旺文社	

試験対策英語(英検準2級)	春 週2回 2単位
担当者: 行森 まさみ	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 英検は英語の技能を総合的に判定する資格試験である。最近では大学では入学や単位認定、企業では就職や昇進の評価資料とされることも多くなっている。準2級合格には高校中級程度の英語力が必要とされ、語彙、文法、会話、長文読解等の基礎的な力を身につけることが求められている。この授業では、一次試験(筆記・リスニング)および二次試験(面接)の試験対策を行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科「外国語」専門科目群の選択科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 準2級合格はその審査基準である「日常生活に必要な英語を理解し、また使用することができる」能力を身につけるということである。よって、試験合格のみを目指すのではなく、日常的な英語コミュニケーション能力を培い、総合的な英語力の向上を目標とする。</p>	
評価方法	
積極的な授業参加(出席回数、宿題への取り組みを含む)(30%)、3回の模擬試験(30%)、2回の模擬面接試験(20%)、語彙テスト(20%)によって算出する。	
教科書	
旺文社 編『英検準2級総合対策教本』旺文社	

時事問題演習	春 週1回 1単位
担当者: 大森 達也	
講義の目標及び概要	
<p>本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための時事力を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式テキスト、問題集を解く形式で身につけていく。</p> <p>時事力とは、「(社会的な)様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身につくことにより備わっていく能力」とされている。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけることである。したがって、コミュニティ政策学科における専門的な講義を理解するために必要とされる基礎的な知識である。</p> <p>ニュース検定は、政治、経済、暮らし、国際問題、社会・環境という5つのテーマから出題され、時事力を6段階で認定するものである。本演習における単位認定条件は、ニュース検定準2級合格、もしくは同等の力を有すると認められた場合とする。</p>	
評価方法	
(1)課題(80%) (2)総合課題(20%)	
教科書	
授業の中で指示する 日本ニュース時事能力検定協会(監)『2011ニュース検定「時事力」発展編』毎日教育総合研究所 日本ニュース時事能力検定協会(監)『2011ニュース検定公式問題集 1・2・3級』毎日教育総合研究所	

死生学	秋 週1回 2単位
担当者: 横澤 義夫	
講義の目標及び概要	
<p>(1)内容:死生学はまだ歴史の浅い領域ですが、ターミナル・ケアの問題などから必然的に生まれた現代的課題そのものです。現代日本人は社会機構や日常生活のパターンに至るまでヨーロッパ化された環境の中で生きていますし、医療技術の発展とともに旧来の生命観や死の観念では対処できない状況に立たされています。そこでこの講義では、ヨーロッパの伝統的な生命観から生と死の問題に入ってゆきます。そこから現代日本人の死生観の混迷に少しでも明かりをあててみます。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ:死と生という問いは医療と生命科学にも当然関係してきますから、生命倫理学とも共通する課題です。共通基本科目のひとつとして、信仰を含めた人間福祉の対象である生命の意味の理解を目標にします。</p> <p>(3)学びの意義と目標:現代では戦国の侘茶はもう成り立たないともいわれます。明日は知れぬ一期一会の中で生死を決しなければならなかった人たちの、その死生学そのものが侘茶でした。しかし現代でもわたしたちは突然に脳死状態の家族をもったり、自身が死への告知を受けたりします。これに対処すべく、わたしたち自身の生と死の意味を打ち建て、生死を自身で自身のために決定できる死生観を探ってみたいのです。</p>	
評価方法	
1回のレポート(80%)および出席率(20%)をあわせて総合評価します。	
教科書	
授業の中で指示する	

自然地理学概説	春 週1回 2単位
担当者: 秋山 秀一	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) 世界の各地では色々な人々がその土地に根ざして工夫しながら暮らしています。この授業では世界の各地、特に日本、アメリカ、スイスを中心としたヨーロッパ諸国における自然を、具体的に取上げ、学びます。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 自然地理学の知識を身につけると、国際理解度を高めることに大きく寄与します。地理歴史の教職科目としても重要です。</p> <p>(学びの意義と目標) 卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を深めることは意義があり、重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た自然地理の映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。</p>	
評価方法	
日頃の授業への貢献度(30%)、出席状況(30%)、小レポート、それにまとめたレポート(40%)等から総合的に評価します。	
教科書	
秋山秀一『スイス道紀行』芦書房	

<p>児童英語教育(インターンシップⅠ) 春集中 秋集中 2単位</p>
<p>担当者：東 仁美</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 児童英語教育の観察実習をする。公立小学校での英語活動及び放課後居場所事業「おもしろ英語クラブ」での英語活動を見学し、必要に応じてアシスタントとして授業に参加する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童英語科目2科目以上履修済みであることが履修条件である。「児童英語教育(理論)」「児童英語教育(ワークショップA・B)」「児童英語教育(インターンシップⅠ)」を履修する事により、小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)より、小学校英語指導者認定資格が授与される。</p> <p>3. 学びの意義と目標 児童対象に実際に行われている英語の授業を見学することにより、指導者としての自覚を促す。</p>
<p>評価方法</p> <p>評価は、各学生の実習態度・成果に、提出された報告書の内容を加味した上で行う。</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

<p>児童英語教育(インターンシップⅡ) 秋集中 2単位</p>
<p>担当者：東 仁美</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 児童英語教育の授業実習をする。さいたま市立小学校での英語活動及び放課後居場所事業「おもしろ英語クラブ」での授業を担当する。週1回の授業実習のほかに、指導案作成、教材作り、模擬授業など週2～3回の事前指導がある。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童英語教育(インターンシップⅠ)のステップアップ科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 児童英語教育科目の集大成として、英語のみで1時間の授業を指導する力をつけていく。</p>
<p>評価方法</p> <p>評価は、各学生の実習態度・成果等を指導担当者と検討し、提出された報告書の内容を加味した上で行う。</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

<p>児童英語教育(カリキュラム・デザイン) 春 週1回 2単位</p>
<p>担当者：東 仁美</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 新学習指導要領では、5・6年生で年間35時間の外国語活動が必修化された。学校英語教育が大きな転換期を迎えている中で小学校で英語を教える指導者が益々求められている。この授業では、公立小学校での英語活動の基礎知識を身につけ、カリキュラム作りに必要な学習目標、学習内容、指導方法などを研究していく。「英語ノート」の教材研究を通して、実際に単元計画と1時間の指導案を作成することを課題とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の2年生以上対象の専門科目である。インターンシップⅡ履修希望の学生はこの科目を履修することを推奨する。</p> <p>3. 学びの意義と目標 公立小学校での外国語活動必修化への動きに対して、最新の動向を把握しつつ、指導者として今何をすべきかを検証していく。</p>
<p>評価方法</p> <p>授業への出席、参加 30% レポート 30% 学期末課題 40%</p>
<p>教科書</p> <p>樋口 忠彦『小学校英語教育の展望 よりよい英語活動への提言』研究社 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社</p>

<p>児童英語教育(教材研究) 秋 週1回 2単位</p>
<p>担当者：A. クラウス</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>Students will learn to evaluate textbooks used in private and public schools. They will compare them and learn how to make their own evaluations. They will do class simulations using these textbooks, as well as books used in Sogo classes.</p> <p>We will talk about educational materials that you can buy and how to evaluate them. This will include audio-visual materials, videos, picture books, and realia. We will find out which are most efficient in English activities in elementary school. Each class we will introduce an English song and read and listen to an English picture book that goes along with it.</p> <p>We will also learn about making your own materials, with a theme in mind. Students will make presentations of materials they produce which will be useful in an activity. By presenting to each other in the class, you'll be able to share and understand different ideas about how to use and make materials.</p>
<p>評価方法</p> <p>出席及びクラスの参加 50% アクティビティーのプレゼンテーション 50%</p>
<p>教科書</p> <p>Aleda Krause 『SuperKids 1 Teacher's Manual』 Longman 文部科学省『英語ノート1』教育出版株式会社 文部科学省『英語ノート2』教育出版株式会社</p>

児童英語教育(理論)	秋集中 2単位
担当者: 横田 玲子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 小学校英語活動やそれ以外の児童英語教育についての概要や背景となる理論を学ぶ。また実施に関わる様々な要素や教育環境についても理解を深める。授業は講義のほか、経験的に学んでいくグループワークを実施する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童英語教育科目の中の入門的な講座である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 児童英語の概要と共に、英語運用力、および正しい発音についても学ぶ。幼い子供たちを教えるという観点から、「自分の学び」とともに「教える」という視点と責任感が求められる。時間にルーズだったり、適当にことを済ませようとする人には向かない。</p>	
評価方法	
出席 50% ExitCard 30% プレゼンテーションと項目別自己評価 20% テストはしない代わりに、出席点と授業参加への記録により自己評価を行う。	
教科書	
プリントを配布する	

児童英語教育(ワークショップA)	秋 週2回 4単位
担当者: A. クラウス	
講義の目標及び概要	
<p>Teaching English to children is different from teaching English to older learners. Teachers need techniques and methods specifically for children. In this class, you will learn about these methods and the theories behind them. You will also have a chance to polish your classroom language and your teaching skills by preparing activities, songs, and picture books to present to classmates. Halloween and Christmas activities will also be included, as well as online resources.</p>	
評価方法	
出席及びクラスの参加 40% アクティビティのプレゼンテーション 40% Other Assignments 10% Quizzes 10%	
教科書	
松香洋子『諸学生は英語が大好きー72 Activities』松香フォニクス研究所 奈良橋陽子『英語で遊ぶ25のゲームと15のダイアログ集』Longman	

児童英語教育(ワークショップB)	春 週2回 4単位
担当者: 阿部フォード恵子	
講義の目標及び概要	
<p>コミュニケーションの手段として、「外国語としての英語(EFL)」又は「世界語としての英語(WE)」をどのように児童に指導したらよいか?長年にわたって研究されているこの分野は、下降することなくつねに実践され開発を続けている。英語を母国語としない国々では的確な能力と知識と指導力を備えた教師を求める要望がさらに増大している。これは主体的に英語を使える人間の育成が緊急の課題となっているからである。この講義ではこれらを加味し、児童英語指導の原点からスタートし児童英語教育の基本をさまざまな角度から具体的に捉え、言語教育からみた人間教育のあり方までに言及していく。</p> <p>欧米文化学科専門科目群の言語科目である。また、J-SHINE(小学校英語指導者認定資格)取得のための必修科目である。</p> <p>児童英語教育における最も重要な項目は理論に裏付けされた実践訓練である。特にどのように英語活動指導をしていくのかを教材教具を使いながら習得していく。この活動には児童英語教育の指導に求められている英語力、実践的知識、アイデア、アクティビティ、ゲーム、うた、チャンツ、指導案などが含まれる。</p>	
評価方法	
平常点 (75%) レポート (25%) 小学校英語教育の基本作りのため全日全期間出席を義務とする。欠席時間数により講義放棄と見なす。	
教科書	
授業の中で指示する Keiko Abe-Ford『児童英語教授法』CALA Keiko Abe-Ford『AJ's Picture Dictionary, Songs & Chants』アプリコット出版	

児童英語教材研究A	春 週1回 2単位
担当者: 東 仁美	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 学習指導要領の改訂に伴い、5・6年生で年間35時間の外国語活動が必修化されることになった。この授業では、学級担任として英語活動を指導するために必要な小学校英語の基礎知識を身に付ける。また、教材研究を通して、1時間の指導案を組み立てる力をつけていく。学期末課題として、単元計画・指導案を作成し、模擬授業を行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科の選択必修科目であるが、小学校教員免許取得希望者は是非履修してほしい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 公立小学校で行われている英語活動の目標、内容を十分に理解し、学級担任として英語活動の指導ができるようにする。</p>	
評価方法	
授業への出席、参加 20% レポート 30% 学期末課題 30% プレゼンテーション 20%	
教科書	
授業の中で指示する	

児童英語教材研究B	秋 週1回 2単位
担当者：小川 隆夫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 小学校外国語活動（英語）及び児童英語の概要や理論と実践を学び、コミュニケーション能力の素地、国際理解教育と英語活動の関係などを明らかにしていく。また、数多くの実践例を参考にしながら、次世代を担う児童のための英語活動のありかたを考え、レクシンプランを作成し模擬授業をする。ここではフィードバック手法などについても学び、教師同士が高めあえる授業についても考える。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童英語教育科目の基礎的講座である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 英語活動の意義、目標を十分に理解し、知識、情報、指導技術を生かし、現場で率先して実践できるようにする。</p>	
評価方法	
出席 20% レポート 20% 模擬授業 35% プレゼンテーション 25%	
教科書	
文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語編』東洋館出版社 小川隆夫『高学年のための小学校英語 - 先生、英語やろうよ！2』mpi	

児童学海外研修	秋集中 4単位
担当者：村山 順吉	
講義の目標及び概要	
<p>国際化の進展に伴い、子どもの問題も海外諸事情を勘案し、それらとの連環における学習が不可避とされているが、この場合の学習は、海外情報の収集および実地体験に分けて考えることが出来る。前者は、関連する学科目の講義・演習において行われるが、本学科目は受講者に実地体験の機会を提供するものである。</p> <p>本年度の児童学海外研修は、オーストラリア、アデレードのフリンダース大学で行われ、児童学科の教員が同行する予定である。なお本研修は、国際センターの協力を得て、同センターとの連携のもとに行われる。</p> <p style="text-align: center;">なお授業計画については、右記内容を15回で実施する</p>	
評価方法	
研修中に提出されるレポートおよび研修態度。	
教科書	
授業の中で指示する	

児童学概論	春 週1回 2単位
担当者：田澤 薫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 子どもに学問的なまなざしを向け、子どもを研究の対象として捉えるとはどういうことか。その具体的な視点と方法について、多様な角度から学ぶ。子どもをめぐる様々な場面での子どもと大人の関わりを考える。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科に入り、子どもという存在や保育・教育のことを学び始める入り口に立って、子どもに学問的な視点を向けるきっかけとなる授業である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 子どもを対象として見つめる視座を理解する。併せて、子どもについて学ぶにはいろいろな方法論があることを知り、今後の様々な領域での児童学の学びにつながる関心と意欲が得られることをねらいとする。</p>	
評価方法	
出席した上での積極的な授業参加(毎回の小課題への取り組み) 50% 試験 50%	
教科書	
プリントを配布する	

児童家庭福祉	春 秋 週1回 2単位
担当者：田澤 薫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 現代社会の子どもの育ちや子育てをめぐる状況と、それに対する日本の児童家庭福祉の制度や実施体系等について学ぶ。児童家庭福祉を形づくっている法制度を知り、児童家庭福祉の機関や施設の現場での運用を理解する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 保育士資格取得のための必修科目であり、児童家庭福祉の関連科目を学ぶうえで必要な知識を取得する基礎科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 児童家庭福祉の骨組みを学んでいく中で、児童を取りまく諸問題について社会の動きに関心を持ち、保育者として求められる児童家庭福祉の考え方を身につけることをねらいとする。</p>	
評価方法	
授業に参加したうえでの授業内の課題 30% 試験 70%	
教科書	
松本園子ほか編著『児童福祉を学ぶー子どもと家庭に対する支援』ななみ書房	

児童教育学	秋 週2回 4単位
担当者：永井 理恵子	
講義の目標及び概要	
<p>内容：本講義では、児童学を専門としない学生に対して、児童教育の基礎を学ぶ機会を提供する講義である。全30回という限られた時間数のなかで、児童教育の基礎的概念と知識を、偏り無く習得することを目的とする。具体的には、児童教育の場、児童教育の思想、児童教育の歴史、児童教育の専門機関の色々、児童の発育・発達の特徴、教師の役割、親の役割、教育行政の実際、児童を取り巻く文化一般など、児童を取り巻く様々な要素を学習する。学びの目標：あえて言えば、児童学領域で学習する様々な講義のエッセンスに幅広く触れる講義である。児童教育については一億総教育論者とまで言われる現代日本であるが、本講義を受講することにより、児童教育の正しい理解を習得し、将来の良き子育て者となることを目指す講義である。なお、担当教員の専門分野から、児童のなかでもとりわけ幼児期に焦点が置かれがちなることを了解したうえで、履修を検討してほしい。カリキュラム上の位置づけ：教養科目として設定されている。興味関心のある学生の履修を希望する。</p>	
評価方法	
<p>出席を重視。講義を聴くこと自体に重い価値がある。しかし、これに加えて平常点も重視する。出ているだけで講義に参加する姿勢がなければ意味が無い。その他、平常講義において小テストやレポートをおこなうので、その結果も参考とする。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

児童教育学	春 秋 週1回 2単位
担当者：永井 理恵子	
講義の目標及び概要	
<p>本講義は児童学科1年生のために開講する、児童教育学の基礎講義である。児童教育学と一言で言っても非常に幅が広いが、将来、福祉、教育、保育と多方面の学修を深めていく第一歩として、児童教育学の全体を大まかに把握することを目的とする。各講義内容ごとには深く入り込むよりも、様々な側面からアプローチする視点の基礎力を培うことを目指す。</p> <p>カリキュラム上の位置づけは、児童学科の卒業必修科目であると同時に、保育士資格必修科目でもある。</p> <p>学びの意義と目標：児童教育学に関する基礎的知識を習得し、様々な講義に入っていく導入としての視点の獲得を目指す。</p>	
評価方法	
<p>出席率60%、授業内の小テスト（2回程度を予定）20%、期末のレポート20%。その他、授業態度や、授業中に見せる視聴覚教材の感想文レポートなども評価対象となる。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

児童教育学特論	春 週2回 4単位
担当者：永井 理恵子	
講義の目標及び概要	
<p>この特論では、児童教育について、歴史的観点から再考することを目的とする。履修者が教育学を専門としない者も多いことが想定されるので、児童教育の基礎的概念を改めて確認した後、各自の研究主題に対応した教育の具体的事実を、歴史のなかから探究し、各自の研究に多少なりとも生かすことができるようにすることを旨とする。</p> <p>講義の運営は、途中で適宜、担当者からの指導や講義も挟むが、基本的には各自で教育の歴史に関する課題を選び、それを個人的に考察を進めて行く。各自の考察を一人あたり最低1回は授業内で広告してもらい、それを皆で討議する。</p> <p>児童教育学を専門としない学生は、過去において担当教員の講義「児童教育学」を優れた成績で履修し、卒業研究ないし卒論にて児童に関するテーマを選択している学生の履修を推薦する。児童教育について全く知識をもたない学生の履修は遠慮いただきたい。</p>	
評価方法	
<p>出席率40% 各自の課題への取り組みの姿勢（報告書を含む）50% 講義への参加姿勢10%</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

児童サービス論	秋 週1回 2単位
担当者：黒沢 克朗	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 児童サービス論は、子どものための図書館サービスについて学ぶ科目である。図書館における児童サービスの意義や課題、図書館における児童サービスの具体的な方法などについて学んでいく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童サービスについての基礎的な科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 児童サービスの意義と課題について理解することができるようになること。また、児童サービスの方法にはどのようなものがあるかについての認識をもち、図書館員の専門性について理解を深める。</p>	
評価方法	
出席点40% 授業中の発表20% 試験40%	
教科書	
堀川照代『児童サービス論 新訂版』日本図書館協会	

児童資料論	春 週1回 2単位
担当者：黒沢 克朗	
講義の目標及び概要	
1. 内容 児童資料論は、児童資料について学ぶ科目である。児童書の種類やその特色に触れ、選書や資料収集の意義や方法について学んでいく。	
2. カリキュラム上の位置づけ 児童資料についての基礎的な科目である。	
3. 学びの意義と目標 児童資料の種類と特色について把握すること、また、児童資料の選書について実際に絵本を手にとり絵本を選定し、具体的に理解できるようにすること。	
評価方法	
出席点40% 授業中の発表20% 試験40%	
教科書	
堀川照代『児童サービス論 新訂版』日本図書館協会	

児童福祉特論	春 週2回 4単位
担当者：中谷 茂一	
講義の目標及び概要	
児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。	
1. 子ども家庭福祉の基礎概念 2. 子ども家庭福祉を取り巻く状況 3. 子どもの権利保障 4. 子ども家庭福祉の展開 5. 子ども家庭福祉行政のしくみと機関・施設 6. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実際 7. 子ども家庭福祉に関連する地域活動 8. 子ども家庭福祉サービスを支える人 9. 子ども虐待・「子ども虐待」をとりまく神話・「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」・子ども虐待に関する人々の意識とまなざし・その社会的対応と限界・子ども家庭福祉におけるジェンダー問題 10. スクールソーシャルワークの実際	
評価方法	
出席率20%、ディスカッション参加状況40%、レポート40%の総合評価。	
教科書	
授業の中で指示する	

児童福祉論	春 週2回 4単位
担当者：池 弘子	
講義の目標及び概要	
・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む。)について理解する。	
・児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。	
・児童の権利について理解する。	
・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。	
評価方法	
3分の2以上を出席の必要条件とし、試験の成績のみで評価する。	
教科書	
授業の中で指示する 社会福祉士養成講座編集委員会『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規出版	

児童福祉論 A	春 週1回 2単位
担当者：池 弘子	
講義の目標及び概要	
・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む。)について理解する。	
・児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。	
・児童の権利について理解する。	
・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉にかかわる他の法制度について理解する。	
【注意事項】	
「児童福祉論B」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。	
評価方法	
3分の2以上を出席の必要条件とし、試験の成績のみで評価する。	
教科書	
授業の中で指示する 社会福祉士養成講座編集委員会『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規出版	

児童福祉論B	春 週1回 2単位
担当者：池 弘子	
講義の目標及び概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービスの現状と課題について理解する。 ・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際について理解する。 ・児童・家族への相談援助活動の実際について理解する。 	
【注意事項】 「児童福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。	
評価方法	
3分の2以上を出席の必要条件とし、試験の成績のみで評価する。	
教科書	
授業の中で指示する 社会福祉士養成講座編集委員会『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規出版	

児童文学	春 秋 週1回 2単位
担当者：松本 祐子/小室 陽子	
講義の目標及び概要	
<p>(1)〈内容〉この授業では、国語の三つの領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に焦点を合わせ、テーマを意識して物語を読む、的確な表現で形式の整ったエッセーを書く、日本の神話や昔話を聞いて簡潔に要約する、グループごとに工夫を凝らした魅力的なブックトークを行うなど、基本的な国語力を身につける。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉この授業は小免の必修、保育士・幼免の選択科目である。小免希望の学生は、国語科教育法を履修する前に、必ずこの科目を取っておくこと。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉児童文学、神話、昔話など、様々な物語を材料として、読解力を養い、正しい言葉遣いで文章を書く力を身につける。さらに、保育者・教員として、子どもたちに読ませたい物語を自分で選び、魅力的なプレゼンテーションで紹介する能力を身につけることを目標とする。</p>	
評価方法	
授業時の発表（ブックトーク）30%、発表後レポート10%、期末試験50%、出席10%によって算出する。	
教科書	
プリントを配布する	

児童文学	春 週2回 4単位
担当者：藤田 のぼる	
講義の目標及び概要	
<p>●一口に「児童文学」といっても、童話、小説、詩、絵本、ノンフィクションといったジャンルがあり、これを数ヶ月間の講義でこなすのは難題です。が、あえて欲張ってそれをやってみたくと思っています。ですからこの講義はかなり駆け足の進行になります。</p> <p>●全体は大きく三部に分かれ、第一部（児童文学に描かれた子ども）では、さまざまな角度から作品の中の子ども像を中心に、児童文学作品を紹介していきます。第二部（不思議の形、テーマを深める）では、テーマ、方法、思想などの角度から作品を紹介します。これらを通して、児童文学がなにを、どのように描いているのかをみてもらいます。児童文学は第一義には子どもの読者に向けて書かれたものですが、今子ども時代と完全に訣別しようとしている時期に児童文学に改めて触れることは、格別の意義があると思います。</p> <p>●第三部のテーマは、「（児童）文学を読むということは、読者にとってどのような行為なのか」ということについて考えるということです。特に児童文学の場合、それを読むことが子どもにとって無条件に「良いこと」とされ、場合によっては強制されたりもするわけですが、本とは、物語とはどのようなものなのかを、皆さんの子ども時代の体験なども合わせながら考えていきたいと思っています。</p>	
評価方法	
基本的には、学期末に提出のレポートによる。	
教科書	
藤田のぼる『児童文学への3つの質問』てらいんく	

児童文化論A	春 秋 週1回 2単位
担当者：田澤 薫	
講義の目標及び概要	
<p>1内容 子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。</p> <p>2カリキュラム上の位置づけ 児童学科の1年生を対象とする基礎的な科目である。また卒業必修科目である。</p> <p>3学びの意義と目標 子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。</p>	
評価方法	
授業期間中の課題・ミニテスト 50% 試験 50%	
教科書	
皆川美恵子ほか編著『児童文化—子どものしあわせを考える学びの森』ななみ書房	

児童文化論B	春 秋 週1回 2単位
担当者：寺崎 恵子	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容 子どもが子どもとしてしあわせに生きるとはどのようなことなのか。子どもの生活に文化はどのようにかかわりうるのか。そして、育てる者としてわたしたちにできることは何だろうか。これらについて、伝承遊びに着目して、協同で考察を深める。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ 児童学科で学ぶことを強く望んでいる人のための入門として位置づける。</p> <p>3 学びの意義と目標 子ども期を過ごした人が今を生きる子どもと関わりあうとき、〈子ども〉はどのように現れてくるのだろうか。受講生自身の〈子ども〉を確認しながら、今を生きる〈子ども〉を理解するときの観点を、この学習を通じてできるだけ多くもつようにしたい。 なお、この授業は協同での学習とする。学びを通じて自分自身の視野が広がるよこびを感受し、学びの過程を記録する力を身につけたい。</p>	
評価方法	
各回提出のレポート(5点×13回=65点)、研究成果発表(10点)、期末まとめ(15点)と合わせて評価する。各レポートの書式はこちらで指定する。その詳細については、初回に説明する。	
教科書	
小川清実『子どもに伝えたい伝承あそび』 萌文書林	

社会	秋 週1回 2単位
担当者：川瀬 敏行	
講義の目標及び概要	
<p>この授業は小学校教員免許を得るために必要な「小学校社会科」の目標や内容を中心にとりあげます。 「社会科」は、戦後の新教育を担う花形として昭和22年に新しく生まれた教科であるが、半世紀以上を経て教育内容・方法をめぐって様々な論争や実践が積み上げられて今日に至っています。 授業では、まず、社会科の歩みを概観するとともに、社会化の全体構造や目標、学年ごとの指導内容等について取り上げます。 近年の傾向では、高等学校等で「地理」に関する教科を履修しなかった学生が多いので「地理的分野」の基礎的事項を中心に「学習課題」も取り入れて進めることにします。 なお、毎時間「新聞を読んで」のコーナーを設け、関連する事項についてレポートに基づき協議を行います。</p>	
評価方法	
新聞に関するレポート、学習課題、テスト結果、出席状況、取り組み姿勢等に基づき総合的に判断します。	
教科書	
文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会科編』東洋館出版	

社会学	春 週2回 4単位
担当者：横山 寿世理	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 教科書、雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、社会学を広く概観する。講義内容を板書でまとめる形で講義を展開する。また、講義内容の定着を図るため、3～4回の小論文を講義内で課す。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ この授業は1年次に配当される政治経済学科の専門基礎科目(必修)であり、上位の社会学系専門科目を履修するにはこの科目を修得しておく必要がある。また、コミュニティ政策学科の学生にとっては共通専門科目、他学部の学生にとっては教養科目となる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 この講義は、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を個人的な問題ではなく、「社会問題」として認識する能力である。良い/悪いといった判断から離れて、常識を疑うという姿勢を身につければ、普段意識されない「社会」を受講者自身が実感できるようになるだろう。</p>	
評価方法	
出席(30%)、講義内で課す小論文(30%)、学期末試験(40%)で評価する。詳細は第1回目の授業で確認して欲しい。	
教科書	
宇都宮京子『よくわかる社会学(第2版)』ミネルヴァ書房	

社会学	春 週2回 4単位
担当者：鄭 鎬碩	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 社会学の魅力は、あらゆる社会現象を、新鮮で驚きに満ちたものとして見せてくれる点にある。本講義では、ある現象がそのような理由、その背景と仕組み、それを支えている人間関係から問うことで、物事を「見かけ通りのもの」として受け入れない批判的思考の方法を学ぶ。新聞記事や映像などを通じて、コーヒー、電車時刻表、犯罪ニュースなど身近な物事や、性別、就職、貧困などプライベートな悩み事や、なぜ「社会学的問題」となるのかについて考える。これら日常的な社会現象をとらえるための基礎概念を学習することで、社会学的思考の幅と興行きにたいする基本的な感覚を備えることを目指す。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目の選択に先立つ知的探索の機会として、社会学の関心領域とアプローチ上の特徴を学習する講義である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>1) 学問としての社会学の特徴を理解し、社会学の基礎概念を習得する。</p> <p>2) 現代社会のさまざまな側面を批判的に考察するための基本的な視座を手に入れる。</p>	
評価方法	
成績は、出席点40%、課題(レポート)30%、期末試験30%によって算出する。	
教科書	
プリントを配布する	

社会学	春 週2回 4単位
担当者：田中 俊之	
講義の目標及び概要	
<p>社会学は常識を疑う学問だとされている。われわれが日々の生活において自明視している さまざまな出来事を、その成立の仕組みから分析してみせるからである。社会学のこうした性格は、この学間がもつ批判性をよくあわらわしているといえるだろう。本講義の目的は社会学の理論および諸概念を学習することによって、社会を批判的に読み解くまなざしを手に入れることである。</p> <p>社会学的な視座を身につけるためには、単に新しい用語を覚えるだけではなく、具体的な事例の分析から実際に現実のどのような側面が明らかにできるのかを理解しておかなければならない。そのため、テレビドラマや映画あるいは雑誌記事といった身近な資料を使いながら、社会学と現実の接点を常に意識した講義を展開する。</p>	
評価方法	
出席点20%、授業時の小レポート40%、学期末レポート40%	
教科書	
張江洋直・大谷栄一『ソシオロジカル・スタディーズ』世界思想社	

社会学	春 週2回 4単位
担当者：新倉 貴仁	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>社会学は、私たちが生きる社会を考える学問である。そのため、自らを問うこと＝反省が要請される。本講義では、受講者が置かれた状況を反省することからはじめたい。すなわち、第一に、大学といった制度、学生という身分、書物というメディアから考えることから出発し、社会学を学ぶための準備をおこなっていく。第二に、社会学の思考の系譜を学び、その思考に込められた方法と、それぞれの思考が生み出された背景となる社会について考察していく(学説史)。第三に、宮沢賢治の童話「銀河鉄道の夜」を素材として、さまざまな社会学の主題群を拾い出し、その内容について、ともに、考えていきたい(概論)。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>必修科目として今後の学習の基礎となるものである。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>社会学の概要を把握するとともに、社会学的想像力を養う。また、読む、考える、書くことを身につける。</p>	
評価方法	
出席40%、レポート30% 試験30%として算出する。出席点は、20点を基礎とし、残り20点について、各コマで指示した課題について書いてもらい、その内容によって加点する。	
教科書	
宇都宮京子編『よくわかる社会学 第二版』ミネルヴァ書房	

社会学	秋 週2回 4単位
担当者：阿部 英之助	
講義の目標及び概要	
<p>1. 講義内容</p> <p>この講義では、「社会学」という視点を通して私達が生活している世界やそこでの疑問や問題について考えていきたいと思えます。普段、私達が何気なく行っている事に対して少し視点や発想を変えて「見る」ことで、今まで「当たり前」であったことが「当たり前でない」ものとして、見えるかもしれません。私達は家庭・近隣・学校・会社・市町村・国など様々な組織に属し、多様な場面で生活をしています。そこでは、無意識のうちに刻み込まれている事がたくさんあるのではないのでしょうか。そのような「日常性」を問いながら、私達が生きている生活世界について具体的な事例を通して、「社会学」を考えていきたいと思えます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「社会学」の入門として、具体的事例を通じて社会を見るための視点や方法を学びます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>新聞・雑誌や調査データなどを取り上げながら、現代社会の姿について見て行き、社会を見る様々な視点がつくことを本講義の目標にしたいと思います。</p>	
評価方法	
評価は、出席(20点)、授業内小レポート及びコメントシート(20点)、学期末試験(60点)の合計100点で評価します。他の受講生に迷惑をかける私語は厳禁とし、場合によっては退席と評価対象外とします。	
教科書	
友枝敏雄『Do! ソシオロジー』有斐閣アルマ 宇都宮京子『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房	

社会学	秋 週2回 4単位
担当者：新津 尚子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>この講義は「家族」「メディア」「グローバル化」などの問題について、社会学的に学ぶことを目的とする。授業では教科書を用いて講義を行うほか、小レポート作成やディスカッションなど、履修者が自分自身で考える機会を設け、確実に知識を身につけることを目指す。また、教科書のほか新聞記事などの補足資料を用いることを予定している。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>政治経済学科の学生にとっては専門基礎科目(必修)であり、上位の社会学系専門科目を履修するにはこの科目を履修しておく必要がある。コミュニティ政策学科の学生にとっては共通専門科目、他学部の学生にとっては教養科目となる。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>この講義の目標は、「社会学的な思考を身につける」ことである。この思考を身につけることによって、「個人的」と思われる問題の中にある社会的な要素や、「社会的」と思われる問題の中にある個人的な要素を理解できるようになる。これにより将来、履修生がさまざまな問題に直面した際、その問題を多角的に考えられるようになるだろう。</p>	
評価方法	
出席(30%)、講義内に課す小レポートやディスカッション(30%)、学期末試験(40%)によって評価する。	
教科書	
宇都宮京子編『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房	

社会学 (W)	春	週2回	4単位
担当者：阿部 英之助			
講義の目標及び概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 ・ 生活について理解する。 ・ 人と社会の関係について理解する。 ・ 社会問題について理解する。 			
評価方法 <p>評価は、出席 (20点)、授業内レポート及びコメントシート (20点)、学期末試験 (60点) の合計100点によって、総合的な評価をします。また、他の受講生の迷惑となるような私語は、厳禁とし、場合によっては退席と評価対象外とします。</p>			
教科書 <p>授業の中で指示する 社会福祉士養成講座編集委員会『社会理論と社会システム 社会学』中央法規出版</p>			

社会科公民的分野教育法	秋	週1回	2単位
担当者：石井 昇			
講義の目標及び概要 <p>(1) 〈内容〉 戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を得て今日に至っている。中学校社会科においては、地理・歴史・公民の三分野となり、高等学校は地歴科、公民科に分離・独立した。本講義は中学校社会科教育における公民的分野を中心に、高等学校の公民科も視野に入れ、中学校における『公民』教育の内容について実践的な研究を行う。</p> <p>(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科の教育免許習得しようとする学生のために開設した。</p> <p>(3) 〈学びの目標〉 (1) 社会科の狙いである「公民的資質」の意味を理解する。 (2) 中学校の公民的分野内容と学習方法を理解する。 (3) (1) (2) をふまえて、公民的分野の学習指導案を作成することができる。</p>			
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・ 出席状況を重視する (配点の35%)。 			
教科書 <p>文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文教出版平成24年度版『新編「新しい社会」公民』東京書籍</p>			

社会科授業研究Ⅰ	春	週1回	2単位
担当者：石井 昇			
講義の目標及び概要 <p>(1) 〈内容〉 中学校三分野の社会科教育法の発展として、本講義を位置づける。本講義は小学校社会科、高等学校地歴科・公民科との関連を考察する。さらに地理的分野・歴史的分野・公民的分野で「地域」に着目し、その事例について理解するとともに学習指導案を作成する。</p> <p>(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科教育免許習得しようとする学生のために開設した。</p> <p>(3) 〈学びの目標〉 (1) 小・中・高の社会科の関連の意味を理解する。 (2) 地理的分野・歴史的分野・公民的分野の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。</p>			
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・ 出席状況を重視する (配点の35%)。 			
教科書 <p>文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文教出版平成24年度版『新編「新しい社会科」地理・歴史・公民』東京書籍</p>			

社会科授業研究Ⅱ	秋	週1回	2単位
担当者：石井 昇			
講義の目標及び概要 <p>(1) 〈内容〉 中学校三分野の教育法の発展として、更に社会科授業研究2をふまえて本講義を位置づける。本講義は資料の収集・活用や作業的・体験的な学習について理解するとともに、これらをふまえて学習指導案を作成する。</p> <p>(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科教育免許習得しようとする学生のために開設した。</p> <p>(3) 〈学びの目標〉 (1) 教材研究の方法について理解する。 (2) 社会科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。</p>			
評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・ 出席状況を重視する (配点の35%)。 			
教科書 <p>文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文教出版平成24年度版『新編「新しい社会科」地理・歴史・公民』東京書籍平成24年度版『「中学校社会科地図」』帝国書院</p>			

社会科地理・歴史的分野教育法	春 週1回 2単位
担当者：石井 昇	
講義の目標及び概要	
(1) 内容 戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を得て今日に至っている。中学校社会科においては、地理・歴史・公民の三分野に分化し、高等学校は地歴科、公民科に分離・独立した。本講義は中学校社会科教育における地理的分野と歴史的分野を中心に高等学校地歴科も視野に入れ、地理的分野・歴史的分野の内容について実践的な研究を行う。	
(2) カリキュラム上の位置づけ 中・高の社会科の教育免許習得しようとする学生のために開設した。	
(3) 学びの目標 (1) 社会科の狙いである「公民的資質」の意味を理解する。 (2) 中学校の歴史的分野の内容と学習方法、地理的分野の内容と学習方法を理解する。 (3) (1)(2)をふまえて、地理的分野・歴史的分野の学習指導案を作成することができる。	
評価方法	
・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する。(配点の35%)	
教科書	
文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文教出版平成24年度版『新編「新しい社会科」地理・歴史』東京書籍平成24年度版『「中学校社会科地図」』帝国書院	

社会教育課題研究 A	春 週1回 2単位
担当者：小川 誠子	
講義の目標及び概要	
(1) 内容 この授業では、人びとの生涯学習を支援するための社会教育(関連)施設として、カルチャーセンター、公民館、博物館を取り上げ、その役割について考察を加える。その際、「官」と「民」が果たす役割についても追究していく。なお、この授業では、社会教育(関連)施設に対する具体的な理解を深めるために、履修者それぞれが施設を見学し検討していくことが求められている。施設見学の内容に関しては、初回の授業で説明する。	
(2) カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための選択必修科目として位置づいている(資格取得を目的としない学生の受講も大歓迎である)。	
(3) 学びの意義と目標 実際に施設に行き、自分の目と耳で確かめることによって、社会教育施設が果たす役割に対して課題意識を高めていくことを目指している。また、このような経験を通して、人々の生涯学習を支援していくことができる力を身につけてほしい。	
評価方法	
プレゼンテーション(80%)、出席状況やディスカッションなどでの授業への貢献度(20%)にもとづいて評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

社会教育課題研究 B	秋 週1回 2単位
担当者：小川 誠子	
講義の目標及び概要	
(1) 内容 この授業では、人びとの生涯学習を支援するための社会教育施設として、おもに青少年教育施設・図書館・女性教育施設(男女共同参画センターを含む)を取り上げその役割について考察を加える。その際、社会教育施設ボランティアの自己形成にも注目することによって、社会教育施設の意味・役割について考察を深めていく。なお、この授業では、社会教育施設に対する具体的な理解を深めるために、興味・関心のある施設・テーマをそれぞれの問題意識にもとづいて考察していくことが求められている。	
(2) カリキュラム上の位置 社会教育主事の資格取得のための選択必修科目として位置づいている(資格取得を目的としない学生の受講も大歓迎である)。	
(3) 学びの意義と目標 実際に施設に行き、自分の目と耳で確かめることによって、社会教育施設が果たす役割に対して課題意識を高めていくことを目指している。また、このような経験を通して、人々の生涯学習を支援していくことができる力を身につけてほしい。	
評価方法	
プレゼンテーション(80%)、出席状況やディスカッションなどでの授業への貢献度(20%)にもとづいて評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

社会教育計画 A	春 週1回 2単位
担当者：小川 誠子	
講義の目標及び概要	
(1) 内容 この授業では、生涯学習との関連で社会教育を理解した上で、社会教育計画の原理や主体・態様について論じる。また、幅広い観点から計画立案に取り組めるように、専修学校・企業内教育・ボランティア活動などといった多様な学習機会を取り上げる。ボランティア活動に関しては、カナダ社会におけるボランティア活動に着目することによって、比較的観点から日本社会におけるボランティア活動について理解を深める。	
(2) カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目として位置づいている(資格取得を目的としない学生の受講も大歓迎である)。	
(3) 学びの意義と目標 この授業では、生涯学習と社会教育の関係を理解し、幅広い観点から計画立案に取り組むことができるように、様々な場面で提供されている多様な学習機会に目を向けていくことを目指している。人々の生涯にわたる学びを支援していくことができる力を身につけてほしい。	
評価方法	
ミニレポート(30%)、期末レポート(50%)、平常点(20%)、出席やディスカッションなどでの貢献度にもとづいて評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

社会教育計画B	秋 週1回 2単位
担当者：小川 誠子	
講義の目標及び概要	
<p>(1)内容 この授業では、社会教育計画Aを踏まえて、社会教育において取り組むことが求められている具体的な学習課題として、「高齢社会」と「少子社会」における諸問題を取り上げ、社会教育が果たしていく役割について深く検討する。また、調査、学習の形態・方法、学習支援者、評価など計画策定や学習プログラム作成において必要とされる手法についても講述する。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目として位置づいている（資格取得を目的としない学生の受講も大歓迎である）。</p> <p>(3)学びの意義と目標 「高齢社会」と「少子社会」における諸問題に注目し、受講者一人ひとりが課題意識を持って、社会教育が果たしていく役割を検討していくことを目指している。また、計画策定や学習プログラム作成において必要とされる専門的知識の習得を通して、社会教育主事に求められている資質・能力を身につけてほしい。</p>	
評価方法	
ミニレポート（30%）、期末レポート（50%）、平常点（20%、出席状況やディスカッションなどでの貢献度）にもとづいて評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

社会教育施設論A	春集中 2単位
担当者：石川 昇	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容 生涯教育、社会教育、社会教育施設についての基本的概念を把握した上で、社会教育施設ごとに、設置目的、歴史、現状、課題等について、事例をもとに理解を図る。その際、施設は幅広くとらえ、多くの施設について具体的に検討する。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ 講義は豊富な事例を検討しながら、生涯教育、社会教育とは何かを意識し、フィードバックする。本科目は生涯学習概論、社会教育論などの基礎的科目を補強し、社会教育課題研究、社会教育演習などの応用的、発展的内容の科目に多くのヒントを与える。</p> <p>3 学びの意義と目標 社会教育施設についての基本的な知識の獲得とともに、社会教育施設を活用する実践的な知識の獲得をめざす。</p>	
評価方法	
講義の出席を重視し、試験は講義のなかから出題する。	
教科書	
プリントを配布する	

社会教育施設論B	秋集中 2単位
担当者：石川 昇	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容 生涯教育、社会教育、社会教育施設についての基本的概念を把握した上で、社会教育施設をめぐるさまざまな問題について、具体的な事例を用いながら、幅広く検討し、その課題を認識する。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ 講義は事例を検討しながら、常に生涯教育、社会教育とは何かを意識し、フィードバックしながら進める。本科目は生涯学習概論、社会教育論などの基礎的科目を補強し、社会教育課題研究、社会教育演習などの応用的、発展的内容の科目に多くのヒントを与える。</p> <p>3 学びの目標 社会教育施設をめぐるさまざまな問題及び課題を認識し、社会教育施設に関して、幅広い視野、視点を獲得する。</p>	
評価方法	
講義の出席を重視する。試験は講義の中から出題する。	
教科書	
プリントを配布する	

社会教育実習	通年 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
講義の目標及び概要	
<p>社会教育行政機関や社会教育施設、社会福祉施設など生涯学習と関連のある機関・施設において、それら機関・施設の専門職員の直接的な指導のもとで、機関・施設の管理、運営、事業の実施などについて参加体験を行い、それらの経験を通して社会教育主事に求められる資質と能力の基礎を培うことを目的とする。</p> <p>本実習の単位は、社会教育関係施設・機関において、原則として1～2週間の実習を行い、かつ、大学での授業（講義、施設見学）を受講し、所定の要件を満たした者に与えられる。</p> <p>授業の内容は1. ガイダンス（1回） 2. 事前指導（4回—社会教育施設運営・職員論を中心とした講義） 3. 現場実習（1～2週間） 4. 事後指導（1回） 5. 報告会から構成する。</p>	
評価方法	
事前指導と事後指導、実習報告会への参加状況及び実習体験、実習レポート（『社会教育実習履修の記録』）の提出にもとづき総合的に行う。	
教科書	
授業の中で指示する	

社会教育論A	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>本講義では、まず社会教育とは何かを考える。学校が出現する以前の社会集団における人間の教育、また社会の持っている教育的感化力など人の教育が家庭や学校だけにとどまるものではないことに視野を開き、社会の中に存在してきたそして今日も存在している教育力とは何かを考える。</p> <p>また生涯教育の理念が提出された後の、社会教育の現代的意義について考えていく。そのために今日公的社会教育行政がその重点的施策として着手している学校と社会教育の連携、子育て支援、青少年の居場所づくりなどを取り上げそれらについての意義と課題を検討する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>児童学科の専門科目として位置づけられている。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>今日、人間を育てる場が家庭、学校教育だけではないことを知り、社会の中で展開されている教育活動の実際とそれらの意義について理解する。</p>	
評価方法	
出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

社会教育論B	秋 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>人間が学校や幼稚園を作る前から、人間よって人間を育て教育する営みは形作られてきた。それを社会の中にある教育という意味で社会のもつ教育力教育といえるのかもしれない。本講義では、社会の中で営まれてきたこども或いは青少年を対象として行われてきた教育活動を日本およびイギリスの社会教育の歴史を紹介しその意義について考察することとしたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>人間福祉学部児童学科の専門科目として位置づけられている。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>学校や家庭の外で、人が文化を形づくり、社会の中で人が育てられてきた事象を日本及びイギリスの社会教育史を通じて学ぶ。</p>	
評価方法	
出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
教科書	
鈴木真理『学ばないこと・学ぶこと』学文社	

社会経済論	秋 週2回 4単位
担当者：正上 常雄	
講義の目標及び概要	
<p>カリキュラム上の位置づけ</p> <p>専門選択科目であり、経済学を履修後、1年次秋～2年次に履修するのが望ましい。</p> <p>目的</p> <p>経済学というと難しい数式やモデル化された学問というイメージが強く、この授業では貨幣、会社、信用、市民社会という概念の意味を問うことを通じて、幅広く経済について考えてみることを目的とする。</p> <p>経済学をベースにして、現実の社会的な問題、株式会社は誰のものか、企業の社会的責任などについても考える。マネーの暴走が金融危機を招いたと言われる現状を考察するため、まずは、貨幣について社会学、経済学的なアプローチから考察することを授業の課題とする。</p> <p>教科書を読みながら現代経済についての理解を深め、世の中の問題に対して自分の頭で考える習慣を作してほしい。学生の意見も取り入れながら柔軟に授業をしていきたいと思っているので、経済学はちょっと苦手という人もチャレンジして下さい。</p>	
評価方法	
経済学は苦手という人でも構いません。難しい経済学ではなく、社会的な問題をどう考えるかについて普通の感覚で考えてください。ただし、教科書の内容を見てから受講するか否かを検討して下さい。	
教科書	
岩井克人『資本主義から市民主義へ』新書館	

社会思想	秋 週2回 4単位
担当者：土方 透	
講義の目標及び概要	
<p>社会とはいかなるものか。本講義では、社会を定式化する諸説の紹介とともに、それらを可能にする学問的基盤を反省的に問う。さらに、このようにして定式化された見地によって、アクチュアルな問題がいかに取り扱われるか、現実の社会問題に言及しつつ、その様態を描出する。以上の作業を経て、受講生の批判的推察力と、自ら社会を構成する主体としての意識を惹起したい。</p>	
評価方法	
出席およびレポート。また教室で随時おこなう小テスト。	
教科書	
授業の中で指示する	

社会心理学	秋 週2回 4単位
担当者：山上 真貴子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容：社会心理学と聞いて何を思い浮かべるだろう。人間関係、コミュニケーション、集団関係などのテーマはもちろんだが、人は他者と一緒にいるときにだけ社会と関わっているわけではない。自分について考えるときも、何も考えず自動的に行動するときも、他者は私たちに影響を与えている。この授業では、まず前半に幅広い基礎的な知見を紹介し、後半は具体的なトピック（説得のプロが使うテクニック）を軸に、その知見が実践場面でどう生きるのかについて考えていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：社会心理学について、さまざまな基礎知識を身につけるための科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標：この授業には、日常生活の中で私たちがどのように考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれている。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってほしい。</p>	
評価方法	
出席40%（コメントや復習課題への回答を含む）、中間試験30%、期末試験30%で評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

社会調査の基礎	秋 週1回 2単位
担当者：鷹野 吉章	
講義の目標及び概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。 ・ 統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ・ 量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。 	
評価方法	
レポート30%、筆記試験50%、平常点20%によって算出する。	
教科書	
プリントを配布する	

社会調査の実際	秋 週1回 2単位
担当者：古谷野 亘	
講義の目標及び概要	
<p>調査は、人間の意識や行動、社会現象に内在する法則性を発見するために用いられる社会・行動科学の研究手法である。この講義では、高齢者に対する調査研究の実例を用いながら、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と、社会科学研究方法としての調査の意義と限界について論じる。</p>	
評価方法	
筆記試験（50%）と筆記試験（50%）。レポートはオンライン・レポート提出システムにより送信すること。	
教科書	
古谷野亘・長田久雄『実証研究の手引き：調査と実験の進め方・まとめ方』ワールドプランニング	

社会調査論	春 週2回 4単位
担当者：横山 寿世理	
講義の目標及び概要	
<p>1. 講義の内容 社会調査とは、社会現象を明らかにすることを目指した手段であり、この科目ではその方法を学ぶ。数的なデータを中心に使うことになるが、私たちの日常も多くの調査（世論調査や意識調査など）に覆われている。それらの調査の問題点を知っておくことは重要だろう。具体的には、量的調査（アンケート調査）の実施方法とその集計・分析方法を習得することを目指す。また、ただ調査手法を学ぶだけでなく、受講者を調査対象者として、実際に社会調査を模擬的に実施して、集計・分析もしてみたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ この授業は、全学年の学生を対象とした政治経済学科の専門科目である。政治経済学科の学生がこの科目を履修するには、社会学を修得している必要がある。</p> <p>3. 学びの意義と目標 卒業研究や卒業論文執筆のために、アンケート調査を実施できるようにすることを目指す。また、社会調査はたった一人で行うものではなく、他のメンバーと協力することが必要となるため、他者との協調性を身につけるとい意義もあるだろう。</p>	
評価方法	
講義内でほぼ毎回課される課題60%と期末試験40%により評価する。講義内での課題は、講義内容を踏まえたチーム作業となる。なお、出席していない回の課題は評価に入れないので、出席も必要である。	
教科書	
プリントを配布する	

社会的養護	春 秋 週1回 2単位
担当者：坂本 佳代子	
講義の目標及び概要	
<p>本来、子どもは家庭において養育されるものと捉えられています。しかし、古来より少なくない人数の子どもが、家庭以外の場で育てられてきている歴史があります。今、我々の時代にそれら家庭以外の養育形態を「社会的養護」という言葉で表現し、意味づけています。</p> <p>この講義では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系について理解する。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 <p>以上を主たる目標として、学ぶものとします。</p> <p>この中で、東日本大震災によって社会的養護分野ではどのような課題が生じ、何が変わってきたかについても学んでいきたいと考えています。</p>	
評価方法	
<p>前期と後期授業終了後に試験を実施します。</p> <p>授業参加の日数は大学所定の基準で評価します。</p> <p>更に授業態度を評価項目に加えます。これは、対人援助専門職を学ぶ者にとって、大変重要ですので、日頃から心がけるために、評価項目とします。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

社会的養護内容	春 秋 週1回 1単位
担当者：笹淵 悟	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容</p> <p>本講義では、先ず社会的養護における児童の権利擁護やその仕組みについて、次に、施設養護の特性や実際について考察を深めながら、今求められている支援者の専門性について検討する。社会的養護を通しての家庭支援の在り方、家庭福祉や地域福祉についての理解や認識を一層深めていきたい。本講義を学んだ学生が、家庭だけでなく、保育の現場や施設においても児童の福祉を支え、児童の最善の利益を守る主体となっていくことを目指したい。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ</p> <p>社会的養護内容は、保育士養成のカリキュラムの中で、専門課程の基礎となる科目である。</p> <p>3 学びの意義と目標</p> <p>本講義を学ぶことで、社会的養護の理念や過程が理解できるし、児童への支援の在り方や方法を、「子どもの最善の利益」という視点から実現していくことを目指している。</p>	
評価方法	
<p>まとめの試験 80% 出席点 20% (受講票による意見や質問等のほか、授業への参加度も評価する)</p>	
教科書	
プリントを配布する	

社会福祉	春 秋 週1回 2単位
担当者：大塚 健司	
講義の目標及び概要	
<p>(1)内容</p> <p>社会福祉は、現代社会において国民一人ひとりが「豊かな生活」を実現していくために欠くことができない生活保障の制度である。障害者や認知症高齢者、養護児童などを単に「社会的弱者」としてとらえるのではなく、生活の主体者である国民が直面している「生活問題」として認識することが重要である。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ</p> <p>保育士資格に連動する科目である。将来保育所等の児童福祉施設従事する保育者として必要な基礎的知識と専門的技術の習得の重要性について理解させる。</p> <p>(3)学びの意義と目標</p> <p>この講義では、(1)現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、(2)社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、(3)社会福祉の制度や実施体系等、(4)社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかる仕組み、(5)社会福祉の動向と課題についての理解をすることを目標とする。</p>	
評価方法	
<p>中間レポート30%及び期末テスト70%で評価、15回全出席が原則である。病気等で休んだ場合は、課題に対するレポート提出を課する。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

社会福祉運営管理論	春集中 2単位
担当者：早坂 聡久	
講義の目標及び概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。 ・福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論について理解する。 ・福祉サービスの運営と管理運営について理解する。 	
評価方法	
<p>論述を中心とした筆記試験及び講義中のミニレポート（60%）、出席状況（40%）を総合して評価する。出席及び受講態度を重視する（欠席減点法）。</p>	
教科書	
早坂聡久・三田寺裕治編著『施設経営における会計と税制 2011』ぎょうせい	

社会福祉援助技術演習 A	秋 週1回 1単位
担当者：山口 圭/野口 祐子/中谷 茂一	
講義の目標及び概要	
<p>社会福祉援助技術演習 A では、自己覚知・他者理解、基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術の習得に関する実技指導を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>(1) 自己や他者を客観的に理解し、社会福祉援助技術現場実習で活用することができる。</p> <p>(2) 基本的コミュニケーション技術を習得し、人間関係を円滑に形成することができる。</p> <p>(3) 基本的な面接技術を習得し、社会福祉援助技術現場実習で援助関係を円滑に形成することができる。</p>	
評価方法	
<p>演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

社会福祉援助技術演習 A (107・108W生用)	秋集中 1単位
担当者：山口 圭	
講義の目標及び概要	
<p>社会福祉援助技術演習は、具体的な事例や援助場面を想定したロールプレイングを中心とする演習形式により、社会福祉援助技術論や各福祉論の講義、現場実習と関連させながら社会福祉援助技術を習得する科目である。社会福祉援助技術の特性として、講義を聞いただけでの習得は不可能であり、学生自身が主体的に取り組まなければならない。</p> <p>社会福祉援助技術演習 A では、具体的にバリアフリーや地域への関わりを通して、地域に貢献できる福祉人になることを目的とする演習を行なう。</p>	
評価方法	
<p>演習での学習状況、発言、レポート課題の総合評価。これ以外でも福祉人として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

社会福祉援助技術演習 B	春 週1回 1単位
担当者：野口 祐子/山口 由美	
講義の目標及び概要	
<p>社会福祉援助技術演習 B では、第一に、具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し、総合的・包括的な援助について実践的に習得するための演習を行う。第二に、地域福祉の基盤整備と開発に関わる事例を活用した実技指導を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>(1) 個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、エコシステムの視座に基づき、マイクロ、メゾ、マクロの関係から捉えることができる。</p> <p>(2) 個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、適切な支援方法を選択し、実施することができる。</p>	
評価方法	
<p>演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

社会福祉援助技術演習 C	春 週1回 1単位
担当者：山口 由美	
講義の目標及び概要	
<p>社会福祉援助技術演習 C では、相談援助事例を題材として、相談援助の過程や相談援助場面を想定した実技指導を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>相談援助の過程に基づいた援助方法を理解し、社会福祉援助技術現場実習において効果的に実践することができる。</p>	
評価方法	
<p>演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。</p>	
教科書	
プリントを配布する	

社会福祉援助技術演習D		春	週1回	1単位
担当者：田村 綾子				
講義の目標及び概要				
本演習では、社会福祉援助技術現場実習で得た事例を検討することにより、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得するため、集団指導・個別指導による実技指導を行う。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 個別具体的な相談事例について、事例検討を通して、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。				
評価方法				
演習での学習状況、試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。				
教科書				
授業の中で指示する				

社会福祉援助技術演習E		秋	週1回	1単位
担当者：山口 圭				
講義の目標及び概要				
本演習では、個別的な実習体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得するため、現場実習で作成した支援計画や経過記録をもとに相談援助の過程の振り返りや相談援助の基本的技法の再検討に関する実技指導を行う。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 相談援助の過程にもとづく振り返りや相談援助の基本的技法の再検討を通して、個別具体的な相談事例を、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。				
評価方法				
演習での学習状況、試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。				
教科書				
授業の中で指示する				

社会福祉援助技術現場実習		秋集中	6単位
担当者：池 弘子/野口 祐子/山口 圭			
講義の目標及び概要			
社会福祉援助技術現場実習の目的は、次のとおりである。 (1)社会福祉援助技術現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。			
[授業全体の内容の概要] 社会福祉実践現場において、実習指導者の指導のもと、合計180時間以上に及ぶ実習教育を行う。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] (1)社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。 (2)社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。			
評価方法			
実習指導者と担当教員による総合評価。実習時間の合計が180時間以上なければ単位を認定しない。また、規定時間数の実習を終了していても評価水準に達していなかったり、社会福祉士としての資質に欠けていたりする場合も単位を認定しない。			
教科書			
授業の中で指示する			

社会福祉援助技術現場実習指導I		春	週1回	1単位
担当者：野口 祐子/田村 綾子				
講義の目標及び概要				
[授業全体の内容の概要] 社会福祉援助技術現場実習指導Iでは、現場実習の目的や意義を理解することによって実習への動機づけを行うとともに、プライバシー保護と守秘義務、専門援助技術に関する知識と技術の再確認、関連業務に関する基本的理解、実習記録ノートの作成方法に関する事前学習を行う。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] (1)現場実習の目的や意義、プライバシー保護と守秘義務、介護や保育などの関連業務、実習記録ノートの作成方法について理解し、現場実習において活用することができる。 (2)これまで学んだ専門援助技術を再確認し、現場実習において活用することができる。				
評価方法				
レポート、受講態度、および授業への出席状況から総合的に評価する。 社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。				
教科書				
白澤政和・米本秀仁『社会福祉士相談援助実習』中央法規 ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2012 [平成24年版]』ミネルヴァ書房				

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ 通年 週1回 2単位
担当者：池 弘子/野口 祐子/山口 由美/山口 圭
講義の目標及び概要 春学期は、配属実習先の施設・機関等の理解、利用者理解、実習計画の作成に関する事前学習を行う。秋学期は、現場実習前に、実習中の諸注意を徹底するとともに、現場実習中に、学内における指導及び自己学習を行う。また、現場実習後に、各自の実習体験を振り返り、実習課題の整理、実習報告書の作成に関する事後学習を進めるとともに、現場実習の総括としての実習報告会を開催する。 [授業修了時の達成課題]【春学期】(1)配属実習先の施設・機関や利用者の全体的特徴・動向等について理解し、現場実習において活用することができる。(2)現場実習を計画的に行い、事後評価を適切なものにするため、各自の配属実習先に応じた実習計画を作成することができる。【秋学期】個別具体的な実践体験を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。
評価方法 レポート、受講態度、および授業への出席状況から総合的に評価する。社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。
教科書 白澤政和・米本秀仁『社会福祉士相談援助実習』中央法規 ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2012 [平成24年版]』ミネルヴァ書房 厚生統計協会『国民の福祉の動向 2011/2012』厚生統計協会

社会福祉援助技術論 A 春 週2回 4単位
担当者：田村 綾子
講義の目標及び概要 ・相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 ・相談援助の対象について理解する。 ・相談援助の過程とそれに係るジェネリック・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。
評価方法 定期試験(80%)・小テスト(10%)・課題レポート(10%)を総合的に評価する。出欠席および遅刻早退については、『社会福祉士養成施設等指導要領』に則り、単位認定を行う。
教科書 『社会福祉学習双書』編集委員会 編『新版・社会福祉学習双書10 社会福祉援助技術論Ⅱ 相談援助の理論と方法』全国社会福祉協議会出版部

社会福祉援助技術論 B 秋 週2回 4単位
担当者：鷹野 吉章
講義の目標及び概要 ・相談援助に係る臨床的・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。 ・相談援助にかかわる様々な実践モデルについて理解する。 ・相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 ・相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解する。
評価方法 中間試験40%、期末試験40%、平常点20%によって算出する。
教科書 プリントを配布する

社会福祉援助実習 秋 週1回 1単位
担当者：森島 健
講義の目標及び概要 1. 内容:本講義では、主に地域リハビリテーションにおける援助の方法を学ぶ。まず地域リハビリテーションの理念を理解し、その活動の枠組みを学習する。加えて2000年よりスタートした介護保険の役割についても概説する。後半は実習を通して、高齢者や障がい者の身体面・心理面について学習する。教授方法は講義形式だけでなく、実習やワークショップを用いる。 2. カリキュラム上の位置づけ:地域リハビリテーションの入門的な位置づけではあるが、その実践や北欧の現状までも学習する。 3. 学びの意義と目標:地域リハビリテーションの理念やその活動の枠組みを学習することは、超高齢社会を迎えた日本に於いて重要なことである。 行動目標: 1. 地域リハビリテーションの理念について説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおける介護保険の役割を概説できる。 3. 障がい体験を実施し、環境面の重要性を説明できる。
評価方法 期末テストの成績8割 課題の成績1割 出席点1割
教科書 プリントを配布する

社会福祉原論	秋 週2回 4単位
担当者：牛津 信忠	
講義の目標及び概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ・福祉政策の課題について理解する。 ・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。 ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。 ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 	
評価方法	
出席率、授業の終わりに行う小テスト、および学期末の論文形式の試験によって、総合的に評価する。授業態度をも、評価に加えることを認識しておくこと。	
教科書	
プリントを配布する	

社会福祉施設経営論	春 週2回 4単位
担当者：榊 伴夫	
講義の目標及び概要	
<p>（内容）</p> <p>社会福祉を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。社会福祉施設の経営環境も従来の「措置」から「契約」へと転換され、サービスの質の重視、地域福祉の拠点としての施設へ、地域との連携強化など大きく変化してきています。各種施設の多様な経営実態を踏まえ施設の現状と課題を明らかにしつつ施設経営のあるべき姿について学びます。社会福祉施設の歴史、社会保障制度の基礎的理解、経営管理論の基礎、人材育成、福祉サービス従事者に求められる基礎的な知識と理論を学びます。</p> <p>〈カリキュラムの位置づけ〉</p> <p>社会福祉施設の経営管理と関連法制度を社会の進展とともに学びます。施設経営の今日的課題をコミュニティとの関連とともに学びます。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>社会福祉施設経営と密接にかかわる社会保障制度の概略や、行政・民間法人の活動の意義と実際を体系的に学ぶとともに、社会福祉事業の運営に資する基礎理論を身につけます。</p>	
評価方法	
期末テストは、800字程度のレポート（教科書、参考図書、ノートなど持ち込み可）作成、50%の評価とします。テーマは当日指示します。さらに、出席状況・態度（質問・発言・意見交換など）の総合評価とします。	
教科書	
宇山勝義・小林 理『社会福祉事業経営論』光生館	

社会保障論	春集中 4単位
担当者：宮寺 良光	
講義の目標及び概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。 ・社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。 ・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ・社会保障制度の体系と概要について理解する。 ・年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。 ・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。 	
評価方法	
平常点（出席＋小課題：120点）＋ 期末試験（80点）＝ 総合得点（200点）	
教科書	
授業の中で指示する	

社会保障論	秋 週2回 4単位
担当者：高橋 聡	
講義の目標及び概要	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 内容—社会保障の制度・理論・歴史を学び、ここから今日の日本社会の抱える問題点を考えます。わたしたちは、20歳になったら国民年金保険料を納め、卒業して働くようになれば健康保険料や厚生年金保険料を納めます。その一方で、様々なリスク（病気・失業・労災）にさらされるとき、医療保険や雇用保険制度からサービスや金銭を受け、高齢になれば年金を受け取って生活を支えます。講義では、これらの制度のしくみを学ぶことで、みなさんが今後の生活で直面する問題にどう対処すればよいかを考えてゆきます。 2. カリキュラム上の位置づけ—入門的な講義です。ただし、政治学・経済学・法学・社会学と密接に関係します。 3. 学びの目標と意義—社会保障制度のしくみとその活用法を知ることが主目標です。万事に自己責任を問われ、将来不安の高まる今、これは生きるための必須の知恵といえます。そうはいつでも独学では習得しにくいことも事実なので、この機会にぜひ受講して下さい。 	
評価方法	
出席20%、中間試験（またはレポート）40%、期末試験40%	
教科書	
小峯教編『福祉の経済思想家たち（増補改訂版）』ナカニシヤ出版	

社会老年学	秋 週1回 2単位
担当者：古谷野 亘	
講義の目標及び概要 子どもが心身の発達と並行して社会生活の変化を経験していくのと同様に、人生の後半においても、人は心身の変化と社会生活の変化を経験する。この講義では、人生の後半で経験される心身および社会生活の変化を取り上げ、人が“高齢者”となっていく過程を検討する。そして、個人の高齢化の理解を前提として、高齢者の割合が高い社会（高齢社会）への移行に際して問題となる事象、また特に高齢社会への移行が急速であった場合に深刻になる事象を明らかにして、近未来の日本の高齢者がどのような人々であり、彼（女）らのためにどのような施策が求められているかを考える。	
評価方法 出席点（50％）とレポートおよび筆記試験（50％）。 レポートはオンライン・レポート提出システムにより送信すること。	
教科書 古谷野亘・安藤孝敏『改訂 新社会老年学：シニアライフのゆくえ』ワールドプランニング	

就職に役立つ基礎英語	春 週2回 2単位
担当者：小川 隆夫	
講義の目標及び概要 1. 内容 必要最小限の就職に役立つための基礎的英語力を身に付けることを目標にする。ビジネスで使う英語は、使う単語は簡単なものが多いが、伝達ミスが起きないように簡潔で決まった表現が好まれる。授業では、仕事でよく使われる表現パターン208を取り上げ、説明を加えながら学んでいくため、仕事で役立つだけでなく、TOEICなどの試験対策にも効果的である。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科における専門科目の一つであるが、就職に直結し、仕事ですぐに役立つ英語表現や基礎知識を学ぶ授業である。 3. 学びの意義と目標 生き残りをかけて外資企業と合併する企業や、ビジネスチャンス在海外に求める企業の数が増加し、ビジネスの場合は日本国内から世界へと広がっている。英語はもはや仕事の上での必須条件になりつつある。ビジネスでは情報伝達など実際的な目標があつて行われるため、言葉の使い方摩擦が起きないような英語の基礎的な使い方を学ぶ。	
評価方法 授業の出席（20％） 授業毎の小テスト（30％） 単元テスト（20％） 期末テスト（30％）	
教科書 日向清人『ビジネス英語力強化プログラム（初級編）』日本経済新聞出版社	

就労支援サービス	春集中 1単位
担当者：野口 勝則	
講義の目標及び概要 ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。 ・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。 ・就労支援分野との連携について理解する。	
評価方法 出席状況と各日の終わりに行うテスト（合計2回）の結果等により評価します。配点は、原則として出席点50％、テスト50％とします。	
教科書 授業の中で指示する 朝日雅也・布川日佐史編著『MINERVA社会福祉士養成テキストブック16就労支援』ミネルヴァ書房	

出版と編集	春 週2回 4単位
担当者：山本 俊明	
講義の目標及び概要 1. 内容 本講座では、出版物（書籍・雑誌）の制作の実際を学ぶ。その内容は(1)企画・編集過程と製作過程を学習し、(2)「雑誌」（共同作業）と「書籍」（ひとり1点）を実際に作成することである。(1)企画・編集過程には、「企画」立案（「企画」の取材調査、執筆者の調査と執筆依頼）、「編集過程」（原稿の作成、原稿編集、原稿整理）などが含まれる。受講者が作成した企画案を原稿にまとめ、編集する作業を実習する。製作過程では、校正記号の学習と校正実習、雑誌・書籍の造本の方法を学び、「雑誌」「書籍」のブックデザインを試みる。(2)出版過程を学びながら、受講者が企画に基づいて、取材し、自分で原稿を書き、自分で編集・校正し、装订する。成果として「雑誌」と「自分の本」を完成させる。 2. カリキュラム上の位置づけ 将来の職業選択を考える手がかりとなるようにキャリアガイダンスに位置づけられる。 3. 学びの意義と目標 出版物の出版過程を学ぶことにより、読み書くというコミュニケーションの基礎能力を伸ばすこととメディアに対する批判力を身に付けることが目標である。	
評価方法 1) レポート4回（企画書、インタビュー原稿、表現の自由と人権侵害問題、自分の本）、2) 授業参加（雑誌作成、出席票）による平常点、3) 授業出席回数8割以上。レポート内容の評価を加え総合的に評価する。	
教科書 プリントを配布する	

生涯学習概論 A	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
講義の目標及び概要	
1. 内容 2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。 また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を 目指そうとしているのか、講義を通じて共に考えていきたいと考えている。	
2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事・図書館司書の資格取得必修科目と位置づけられている。(資格取得を考えていない学生の受講も歓迎する。)	
3. 学びの意義と目標 生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革とそこに於ける課題など、広くテーマを設定し、社会教育主事の専門性につながる事項の理解を目指す。	
評価方法	
出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する 鈴木眞理『生涯学習概論』樹村房	

生涯学習概論	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
講義の目標及び概要	
1. 内容 2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。 また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を 目指そうとしているのか、講義を通じて共に考えていきたいと考えている。	
2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事・図書館司書の資格取得必修科目と位置づけられている。(資格取得を考えていない学生の受講も歓迎する。)	
3. 学びの意義と目標 生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革とそこに於ける課題など、広くテーマを設定し、社会教育主事の専門性につながる事項の理解を目指す。	
評価方法	
出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する 鈴木眞理『生涯学習概論』樹村房	

生涯学習概論 B	秋 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
講義の目標及び概要	
1. 内容 本講義では第1に、我が国の戦前・戦後の社会教育の理念について学ぶ。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年以降の教育答申等の内容を通して捉える。第3に、戦後間もなく社会教育施設として全国に設置された代表的社会教育施設である公民館の成り立ちと機能について取り上げ、さらに生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズ、及び現代的な地域課題に対応すべく21世紀に求められる公民館の機能と課題について展望する。	
2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられている。(勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。)	
3. 学びの意義と目標 戦前・戦後の教育政策の流れの中で、社会教育政策がどのような教育政策を展開してきたのかを理解する。また、生涯学習の時代の中で公民館に求められる現代的な教育機能課題について理解を深める。	
評価方法	
出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する 鈴木眞理『生涯学習概論』樹村房	

障害児保育 A	春 秋 週1回 1単位
担当者：坂本 佳代子	
講義の目標及び概要	
この講義では、障害のある子どもの保育についての歴史的変遷や障害理解等について学んでいくものです。 現在、インクルーシブな保育が当然のものとなされ、障害のある子どもも無い子どもも共に育つ取り組みが試行され実践されるようになってきました。その中では一人一人に望ましい保育実践を行うための取り組みが工夫されなくてはなりません。このような統合保育とは別に、障害別に病院や施設等の専門機関で保育を受けている子どもも少なからずいる現状です。このように、様々な機関で実践されている障害児保育について広く体系的に学んでいきます。 また、生まれた直後に障害があるかどうかはわからないことが多く、養育者はどのような過程で子どもの障害に気づいていくのか、その時の子どもと養育者の支援はどのように整備されているのかについても学んでいくこととします。 上記の学習過程によって、日本の障害児保育の現状と課題について体系的に把握できるようにします。	
評価方法	
出席状況、授業態度および期末テストまたはレポートの総合で行います。 授業態度については、社会人として、更には対人援助専門職を目指すものとして、日ごろから検証する必要があり、評価項目とします。	
教科書	
授業の中で指示する	

障害児保育B	春 秋 週1回 1単位
担当者：石川 由美子	
講義の目標及び概要 (内容) 本講義は次の4点で構成される。はじめに『障がい』を自分も含めた関係性を通して捉えなおす。第2点は、保育所保育指針での規定される保育（幼稚園教育要領も含む）を概説しながら、保育の中での障がい児への援助の可能性と限界について概説する。第3点は、障がい児を援助するために必要な病理・生理的知識とケアのポイントを概説する。最後に保育の中での具体的な支援計画立案について事例を通して学習する。 (カリキュラム上の位置づけ) 障害児保育のための基礎知識、援助方法を学ぶ。 (学びの意義と目標) 1. 障がいとは個人が背負っているだけではなく、社会との関係性の問題でもあることが理解できる。2. ICFモデルおよび障がい児保育の歴史的変遷を保育の形態を通して理解できる。3. 保育の現場で出会う機会が多い発達障がいについて理解できるようになる。4. 中枢神経系の働きと病理について理解できる。5. 保育の中での障がい児への具体的援助と個別支援計画立案のための基礎知識を得ることができる。	
評価方法 授業への参加態度などの平常点（最大30%）、知識確認のためのミニテスト（30%）。および課題レポートやノート作成（最大40%）。授業構成は進度により若干の変更が生じる場合があります。	
教科書 授業の中で指示する 本郷一夫編『シードブック障害児保育』建帛社	

障害者福祉論	春 週2回 4単位
担当者：木下 大生	
講義の目標及び概要 ・障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。 ・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。 ・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。	
評価方法 1) 中間テスト40%、2) 定期テスト50%、3) 平常点10%で評価を行います。 尚、出席は全授業回数の3分の2以上が必要となります。ただし実習等、やむを得ない事情による欠席については考慮します。	
教科書 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規出版	

障害者福祉論A	春 週1回 2単位
担当者：木下 大生	
講義の目標及び概要 ・障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。 ・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。 ・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。 【注意事項】 「障害者福祉論B」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。	
評価方法 1) 中間テスト40%、2) 定期テスト50%、3) 平常点10%で評価を行います。 尚、出席は全授業回数の3分の2以上が必要となります。ただし実習等、やむを得ない事情による欠席については考慮します。	
教科書 授業の中で指示する 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規出版	

障害者福祉論B	春 週1回 2単位
担当者：木下 大生	
講義の目標及び概要 ・障害者福祉制度の発展過程について理解する。 ・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度及び障害者の支援の実際についてについて理解する。 【注意事項】 「障害者福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。	
評価方法 1) 中間テスト40%、2) 定期テスト50%、3) 平常点10%で評価を行います。 尚、出席は全授業回数の3分の2以上が必要となります。ただし実習等、やむを得ない事情による欠席については考慮します。	
教科書 授業の中で指示する 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規出版	

生涯スポーツ実習A (トータルフィットネス) 春 週1回 1単位
担当者: 梅津 迪子
講義の目標及び概要 <p>(内容)「フィットネスA・B」の授業を併用して履修することをお勧めしたい。毎回、体脂肪測定や摂取食品を記録し、前半はストレッチ運動、有酸素運動(音楽に合わせて)を行う。後半はアンクル、バランスボールを使用した運動のほか、ウォーキング、ミニテニス、バドミントン、テーブルテニス等のスポーツ活動を行う。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)基礎体力の維持と生活の中で運動する習慣を身につける。摂取食品の知識や運動方法を学び、自分の健康管理ができる能力を養う。</p> <p>(学びの意義と目標)動くことの楽しさや爽快感を味わい、実践を通して体の変化を体感してほしい。現実の自己の身体状況を把握し健康的な生活ができる能力を身につける。</p>
評価方法 出席率重視 60点(欠席は授業数の1/4まで) 授業に臨む態度・意欲(準備、後片付けの協力) 20点 フィットネスノートの提出 20点 総合的に評価
教科書 プリントを配布する

生涯スポーツ実習A (テニス) 春 週1回 1単位
担当者: 太田 涼
講義の目標及び概要 <p>※中・上級者、テニス受講者が望ましい。スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ(生涯スポーツ)は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢(気持ち)と、スポーツで楽しめる、遊べることでできる能力(体力・技術)が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切にし、テニスを通じて、スポーツの効果(健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。</p> <p>また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。</p>
評価方法 授業での積極性、協調性、個人技能の向上、ルール理解度等の実習点50点と出席点50点(1回の授業につき欠席-6点、遅刻・早退-2点)の総合評価。
教科書 授業の中で指示する

生涯スポーツ実習A (エアロビックダンス) 春 週1回 1単位
担当者: 鈴木 由美
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉 配布資料を基に「健康」について学習しながら、エアロビックダンス・筋力コンディショニング運動(自重を使ったトレーニング、バランスボール、パワーヨガなど)・ストレッチなどのいつでもどこでもできる身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉 豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。 (3)〈学びの意義と目標〉 生活全般(食事・運動・睡眠)にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力が向上すること。
評価方法 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席(60%)、授業への意欲・関心度(10%)、実技課題の達成度(10%)、学習ノート・レポート(20%)
教科書 プリントを配布する

生涯スポーツ実習A (バドミントン) 春 週1回 1単位
担当者: 関 一誠
講義の目標及び概要 〈内容〉 日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称は、イギリスのグロスターシャー州バドミントンハウスに由来する。競技バドミンントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速が大きくラリーを程よく続けることができる。互いのやりとりのおもしろさは、プレイに熱中せずにはいられないだろう。 本授業では、バドミンントンの特性を充分に生かしながら技術や知識を個人の教養として身につけてもらうとともに、健康スポーツとして日常の運動習慣の確立、体力の維持・増進、ストレスからの開放等、生涯スポーツとして位置づけることを目的としている。
評価方法 出席点(欠席は1/4まで 50%) 平常点(授業に臨む態度等 20%) 実技テスト、ペーパーテスト(30%) 以上を総合的に判断する
教科書 授業の中で指示する

<p>生涯スポーツ実習A (サッカー) 春 週1回 1単位</p>
<p>担当者：田村 達也</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1) 内容 サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。</p> <p>2) カリキュラムの位置づけ 全学科対象 (1年生～可)。</p> <p>3) 学びの意義と目標 サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。</p>
<p>評価方法</p> <p>出席状況 (60%) 授業態度 (40%) * 授業態度は技術の上手い下手だけではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかななどで評価する。</p>
<p>教科書</p> <p>授業の中で指示する</p>

<p>生涯スポーツ実習A (バスケットボール) 春 週1回 1単位</p>
<p>担当者：北澤 太野</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1) 内容 バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。 授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。</p> <p>2) カリキュラムの位置づけ 安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。</p> <p>3) 学びの意義と目標 バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。</p>
<p>評価方法</p> <p>出席状況 (50%)、授業態度 (50%) によって算出する。学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しないが、毎授業ごとに学習カードの提出を義務づける。</p>
<p>教科書</p> <p>授業の中で指示する</p>

<p>生涯スポーツ実習A (バレーボール) 春 週1回 1単位</p>
<p>担当者：鈴木 由美</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>(1) (内容) バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスキルステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。</p> <p>(2) (カリキュラムの位置づけ) 生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力の向上。</p> <p>(3) (学びの意義と目標) 履修者のレディネス (体力差や経験の有無) に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、バレーボールはレクリエーションな場で行われることも多く、生涯スポーツとしてもその活動機会の多い種目なので、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。</p>
<p>評価方法</p> <p>出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席 (60%)、授業への意欲・関心度 (10%)、実技課題の達成度 (10%)、学習ノート・レポート (20%)</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

<p>生涯スポーツ実習B (トータルフィットネス) 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：梅津 迪子</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>(内容)「フィットネスA・B」の履修と併用して履修することをお勧めしたい。毎時間、各自の体脂肪を測定し、摂取食品を記録し自分の健康状態を把握する。前半はストレッチ、有酸素運動 (音楽に合わせて) を行う。後半は器具を使用した運動、ウォーキング実践のほか、ミニテニス、バドミントン、卓球等のスポーツ活動を行う。 (カリキュラム上の位置づけ) 基礎体力の維持と生活の中に運動習慣を身につける。実践活動を通して体の変化を体感し、摂取食品のバランスを考慮した食生活と健康管理ができる能力を身につける。 (学びの意義と目標) 動くことの楽しさや爽快感を味わい、実践することで体の変化を体感してほしい。同時に食生活のあり方と運動方法を学び、健康的な生活を維持する能力を養う。</p>
<p>評価方法</p> <p>出席率重視 60点 (欠席は授業数の1/4まで) 授業に望む態度・意欲 20点 (準備・後片付け含む) フィットネスノートの提出 20点 総合的に評価</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

生涯スポーツ実習B (テニス)	秋 週1回 1単位
担当者：太田 涼	
講義の目標及び概要	
<p>※中・上級者が望ましい。スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ(生涯スポーツ)は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べる事が重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢(気持ち)と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力(体力・技術)が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果(健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。</p> <p>また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。</p>	
評価方法	
授業での積極性、協調性、個人技能の向上、ルール理解度等の実習点50点と出席点50点(1回の授業につき欠席-6点、遅刻・早退-2点)の総合評価。	
教科書	
授業の中で指示する	

生涯スポーツ実習B (エアロビックダンス)	秋 週1回 1単位
担当者：鈴木 由美	
講義の目標及び概要	
<p>(1) (内容)</p> <p>配布資料を基に「健康」について学習しながら、エアロビックダンス・筋力コンディショニング運動(自重を使ったトレーニング、バランスボール、パワーヨガなど)・ストレッチングなどのいつでもどこでもできる身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。</p> <p>(2) (カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。</p> <p>(3) (学びの意義と目標)</p> <p>生活全般(食事・運動・睡眠)にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力が向上すること。</p>	
評価方法	
出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。出席(60%)、授業への意欲・関心度(10%)、実技課題の達成度(10%)、学習ノート・レポート(20%)	
教科書	
プリントを配布する	

生涯スポーツ実習B (バドミントン)	秋 週1回 1単位
担当者：関 一誠	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称は、イギリスのグロスターシャー州バドミントンハウスに由来する。競技バドミントンのシャトルの動きは、スピーディで変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速が大きくラリーを程よく続けることができる。互いのやりとりのおもしろさは、プレイに熱中せずにはいられないだろう。</p> <p>本授業では、バドミントンの特性を充分に生かしながら技術や知識を個人の教養として身につけてもらうとともに、健康スポーツとしての運動習慣の確立、体力の維持・増進、ストレスからの開放等、生涯スポーツとして位置づけることを目的としている。</p>	
評価方法	
出席点(欠席は1/4まで 50%) 平常点(授業に臨む態度等 20%) 実技テスト、ペーパーテスト(30%) 以上を総合的に判断する	
教科書	
授業の中で指示する	

生涯スポーツ実習B (サッカー)	秋 週1回 1単位
担当者：田村 達也	
講義の目標及び概要	
<p>1) 内容</p> <p>サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。</p> <p>2) カリキュラムの位置づけ</p> <p>全学科対象(1年生～可)。</p> <p>3) 学びの意義と目標</p> <p>サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。</p>	
評価方法	
出席状況(60%) 授業態度(40%) *授業態度は技術の上手い下手だけではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかなどで評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

生涯スポーツ実習B (バスケットボール) 秋 週1回 1単位
担当者：北澤 太野
講義の目標及び概要 1) 内容 バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。 授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。 2) カリキュラムの位置づけ 安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。 3) 学びの意義と目標 バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。
評価方法 出席状況 (50%)、授業態度 (50%) によって算出する。学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しないが、毎授業ごとに学習カードの提出を義務づける。
教科書 授業の中で指示する

生涯スポーツ実習B (バレーボール) 秋 週1回 1単位
担当者：鈴木 由美
講義の目標及び概要 (1) (内容) バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。 (2) (カリキュラムの位置づけ) 生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力の向上。 (3) (学びの意義と目標) 履修者のレディネス (体力差や経験の有無) に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、バレーボールはレクリエーションな場で行われることも多く、生涯スポーツとしてもその活動機会の多い種目なので、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。
評価方法 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。出席 (60%)、授業への意欲・関心度 (10%)、実技課題の達成度 (10%)、学習ノート・レポート (20%)
教科書 プリントを配布する

小学校教育実習 秋 週1回 5単位
担当者：船田 信昭/川瀬 敏行/市村 和子
講義の目標及び概要 近年学校教育は、社会の変化に直面し様々な問題を抱え、教育改革の論議が活発に行われている。しかし、教育の要は、なんと言っても教育の担い手である教師の肩にかかっているといっても過言ではない。 教師として、人間として、教育に情熱を傾け、社会の要請に応えることができる教員としての資質を向上させることが期待されているのである。そうした中で、教員養成課程において教育実習の果たす役割は重要な位置を占めている。 教育実習では、大学での理論研究を教育現場で総合的に実証するとともに、児童生徒への教育愛を体得し、教師としての教育実践について足がかりをなす体験をするのである。 本講座では、教育実習を意義あるものにするために、実習に際しての心構えを新たにするとともに、実習の内容、方法等について取り上げるものである。
評価方法 実習校からの報告・評価を中心に、事前児童・事後指導における取り組みを加味して総合的に評価する。
教科書 授業の中で指示する 教育実習を考える会『新編 教育実習の常識』倉丘書林

商業経営論 春 週1回 2単位
担当者：市原 実
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 1. 目的 世の中の 商業活動の実態と経営の方法について実務面にも配慮し 将来役立つことを想定して進めます。 2. カリキュラム上の位置づけ まず 商業を業界全体で捉え 次に 分野別に詳しく研究し その後に 経営内容にふれることにします。 3. 学びの意義と目標 商業の経営を実務的に理解できることを目指します。
評価方法 次の点で判断します。 ○ 出席の状況・40% ○ 数回のミニレポート・20% ○ 課題 (私の考える商売) のレポート・40%
教科書 プリントを配布する

商法概論	春 週2回 4単位
担当者：佐藤 文彦	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) わが国にとどまらず、世界の経済を中心的に担っているのは株式会社である。本授業では、商法のうち、この株式会社を規整している会社法を中心に解説する。ここでは、会社をはじめとする商人がなぜ世に必要とされ、認められる存在であるのか、そしてなぜ株式会社が、世の起業家に、また世界経済に受け入れられているのかという疑問にはじまり、株式会社制度が抱える法的諸問題を会社法がどのように処理しているのかを主に学んでもらう。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 商人の活動および会社企業組織を法的観点から理解することは政治・経済を学ぶ者にとっても有益である。ここに、専門科目群コミュニティ経営系統の選択科目として「商法概論」を開講する。</p> <p>(学びの意義と目標) 商法一般に関する基本的知識とともに、企業実務家としての素養を身に付けてもらうことを目標とする。</p>	
評価方法	
学期末試験の結果をもって評価する。	
教科書	
山本忠弘ほか編『やさしい企業法』嵯峨野書院	

情報科教育法 I	春 週1回 2単位
担当者：石部 公男	
講義の目標及び概要	
<p>講義の中で履修者に模擬授業的なことを課すことを含む。</p> <p>1. 目的 本授業は高等学校の「情報」の教員免許を取得し、将来情報科の科目を担当使用と志す学生のための授業である。したがって教員免許取得を目指す学生に対する授業として、授業で担当する各科目の指導目標や、教科の特徴、および関連する教育活動についての法的根拠などについてもあわせて学習することを目的とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の学生が履修する科目であるが、学科の専門科目とは別枠の位置づけであり、必要卒業単位の枠外となる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 普通教科「情報」のみならず、専門教科「情報」の担当者としてふさわしい生徒指導ができるための基本的な事柄の理解と態度を養うことを学びの目的とする。</p>	
評価方法	
平常点50% (小テスト等の結果を含む) と出席点50%	
教科書	
授業の中で指示する 文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂出版株式会社	

情報科教育法 II	秋 週1回 2単位
担当者：石部 公男	
講義の目標及び概要	
<p>情報科教育法 I に引き続いた科目であるので、全般は学習指導要領の解説を引き続き行う。その後履修生に模擬授業形式で実際の授業内容に当たることを発表してもらい、その授業について問題点や指導法の助言をする。更に情報関連の環境は日進月歩であるので、最新の同行を踏まえ将来、教壇に立ったときに新技術や社会の変化に対応できるように、幅広い内容について見当をする。パソコンのみでなく情報科学の観点から幅広い情報理論についても触れ知識の奥行きと幅を広げる授業とする。</p>	
評価方法	
実際の情報機器についての取り扱い方に習熟する事は前提であるが、教育法が授業内容であるので、テスト50%、平常点50%で評価。	
教科書	
授業の中で指示する 文部科学省『学習指導要領、情報』	

情報機器論	春 週1回 2単位
担当者：田村 貴紀	
講義の目標及び概要	
<p>【1. 内容】館内、館外からのOPACによる情報サービス面だけではなく、図書館の資料・情報の保存という観点からも「電子化」が進み、情報機器は図書館の概念をも拡張するものになっている。本講では、この情報機器に関する理解を深め、活用できる技術を習得する。授業においては、e-learning systemを活用して、相互的であると同時に、コンピューター・リテラシーも向上する講義を目指す。</p> <p>【2. カリキュラム上の位置づけ】司書として必要な情報機器の知識・技術の習得</p> <p>【3. 学びの意義と目標】新しい図書館における多彩な情報メディアについて、その社会的意義を確認し、それをふまえて意義と目的を理解する。また、情報検索の指導に必要な各種概念・知識を身につける。</p>	
評価方法	
平常点40% 期末試験またはレポート60%。しかし、履修人数によっては、授業内の発表および演習で採点し期末試験などを課さない場合もある。 パソコンを使って実習するので、出席することが必要である。	
教科書	
プリントを配布する	

情報基礎	春	秋	週1回	2単位
担当者：竹井 潔				
講義の目標及び概要				
<p>(内容)</p> <p>現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>2011年度入学以降の教職課程履修者(コミュニティ政策学科を除く)向けの科目である。基礎科目であり、2012年度入学生は「情報基礎」または「情報リテラシー」のいずれかを修得することが卒業要件である。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト/表計算ソフト/プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。</p> <p>この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を修得し、大学生活および卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱いができるようにする。</p>				
評価方法				
<p>実習が多いため、出席を重視する。</p> <p>毎時間の提出課題の内容(50%)と、学期末の筆記試験(50%)により評価する。</p>				
教科書				
<p>授業の中で指示する</p> <p>『学級経営サンプルシート 300』</p>				

情報基礎	春	秋	週1回	2単位
担当者：鈴木 省吾				
講義の目標及び概要				
<p>(内容)</p> <p>現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>2012年度入学の教職課程履修者(コミュニティ政策学科を除く)向けの科目である。基礎科目であり、2012年度入学生は「情報基礎」または「情報リテラシー」のいずれかを履修することが卒業要件である。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。</p> <p>この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱いができるようにする。</p>				
評価方法				
<p>実習が多いため、出席を重視する。</p> <p>毎時間の提出課題の内容(50%)と、学期末の筆記試験(50%)により評価する。</p>				
教科書				
<p>授業の中で指示する</p> <p>『よくわかるWord2003&Excel2003』『よくわかるIT基礎プレゼンテーション入門(PowerPoint2003)』『学級経営サンプルシート 300』</p>				

情報検索演習	春	秋	週1回	1単位
担当者：坂内 悟				
講義の目標及び概要				
<p>1. 内容</p> <p>一次資料と二次情報をはじめとする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。また、インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>本科目は、図書館情報学課程の必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>図書館司書として仕事をするための各種情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通し実践的な情報検索能力を身につける。</p>				
評価方法				
<p>試験85点</p> <p>出席点と平常点を合わせて15点</p>				
教科書				
<p>大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会</p>				

情報サービス概説	春	秋	週1回	2単位
担当者：気谷 陽子				
講義の目標及び概要				
<p>図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等について解説する。</p>				
評価方法				
<p>定期試験の成績(70%)</p> <p>出席点、平常点(各15%)・・・出席点とは授業への出席そのものに与えられる得点であり、平常点とは授業内の学習活動に対して与えられる得点である。</p>				
教科書				
<p>『情報サービス論』樹村房</p>				

情報システム論	秋	週2回	4単位
担当者：国分 道雄			
講義の目標及び概要			
<p>〈内容〉 本講義は情報化社会にあつて各種問題を学生が解決するため、その解決方法としてコンピュータを使用して効率的に問題を処理できる能力を養うためのものである。 社会で現実存在する代表的な情報システムの特徴を理解し、設計・開発・運用・保守の技術についても修得する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 コミュニケーション系統の専門科目であり、情報教職の必修科目である。 〈学びの意義と目標〉 自ら情報システムを構築・管理できるようになるための技術・知識の基礎として、主に実習を通してプログラミングを習得することを目的とする。 講義の最後には各自がオリジナルのプログラムを作成する。</p>			
評価方法			
実習が多いため、出席を重視する。毎時間の提出課題の内容(50%)と、学期末の筆記試験(50%)により評価する。			
教科書			
プリントを配布する			

情報処理	春	週2回	4単位
担当者：国分 道雄			
講義の目標及び概要			
<p>〈内容〉 本講義は情報化社会にあつて情報を科学的に理解するため、情報処理の基礎理論およびコンピュータの構造を学ぶためのものである。 コンピュータにおける情報の表し方・情報処理の特徴等の仕組みや働きを学び、内部の概念モデルを把握する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 コミュニケーション系統の専門科目であり、情報教職の必修科目である。 〈学びの意義と目標〉 アプリケーションシステムを利用する場合にも、表面的な操作を覚えるのではなく、内部での動作を科学的に理解することが重要である。自分の操作に統制感を持ち、問題解決のために主体的に利用できる態度と能力を身につける。</p>			
評価方法			
実習が多いため、出席を重視する。毎時間の提出課題の内容(50%)と、学期末の筆記試験(50%)により評価する。			
教科書			
プリントを配布する			

情報通信ネットワーク	春	週2回	4単位
担当者：竹井 潔			
講義の目標及び概要			
<p>◆内容◆ 現代社会は情報通信ネットワークによるデータ通信に基礎をおく高度情報通信社会となっている。講義ではこのことを踏まえ、情報通信ネットワークの基本的仕組みの理解とともに具体的なネットワークの構築及び設計ができるようにするための技術と知識について学ぶ。ネットワークの伝送技術及びLAN、インターネットの仕組みや携帯電話、衛星通信などの問題についても取り扱う。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2年～4年対象。情報教職を履修している人は必ず履修してほしい。 ◆学びの意義◆ 情報社会では、生活においてもビジネス社会においてもネットワークは不可欠なものとなっている。情報伝達の手段としてのネットワークの基本的な構造や特徴を理解することは、これから情報社会に生きる者にとって必須の基礎知識となる。これらを学ぶことによりネットワーク社会におけるコミュニケーションのあり方について考えてもらいたい。</p>			
評価方法			
出席(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)			
教科書			
プリントを配布する			

情報と職業	秋	週2回	4単位
担当者：渡辺 英人			
講義の目標及び概要			
<p>「情報と職業」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。</p>			
評価方法			
1. 授業への参加と理解度(50%) 2. 発表およびレポート提出(50%)			
教科書			
授業の中で指示する			

情報メディアの活用	秋 週1回 2単位
担当者：河島 茂生	
講義の目標及び概要 (内容) 学校におけるメディアは多様化の一途を辿っており、なかでもインターネット技術の登場によって、情報検索や情報発信の有り様に変化してきている。授業では、学校図書館が取り扱うメディアの全体像を見据えながらも、インターネット技術の利活用を集中的に論じることにはしたい。 (カリキュラム上の位置づけ) 学校図書館司書教諭課程資格科目群 人間福祉学部児童学科専門科目群 (学びの意義と目標) 本講義では、司書教諭が身につけるべき／伝えるべき情報メディアの利活用を説明する。司書教諭は、メディアの専門職であり、児童や生徒にたいするメディア利用教育だけでなく、ほかの教員にたいしてもメディア利用の支援をしていくことが求められている。本講義では、その基礎的な内容の体得を目指す。	
評価方法 出席状況と授業態度および試験結果を総合して評価する。	
教科書 プリントを配布する	

情報リスク論	秋 週1回 2単位
担当者：石部 公男/鈴木 省吾	
講義の目標及び概要 (1)インターネット社会における情報伝達に関わる脅威とその実情や対策を学ぶ。その上出席参加者各自がトピックを取り上げどのような対策が有効か提案を行う。 (2)情報社会に参画する態度を育てる上で、重要なトピックの一つとなる情報リスクについて学ぶ。 (3)個人の倫理観のみならず、法規制や技術的対策により情報社会が支えられていることを、自ら調べることを通して理解する。	
評価方法 10回以上の出席が評価の前提となる 評価は発表(40%)、小テスト(30%)、レポート(30%)を対象とする。	
教科書 佐々木良一、会田和弘『情報セキュリティ入門—情報倫理を学ぶ人のために』共立出版	

情報リテラシー（L用）	春集中 2単位
担当者：竹井 潔	
講義の目標及び概要 (内容) 現代の高度情報化社会において情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。 (カリキュラム上の位置づけ) 基礎科目であり、コミュニティ政策学科の学生対象の必修科目である。コミュニティ政策学科の2012年度入学生で、教職課程履修者も「情報リテラシー」を履修すること。 (学びの意義と目標) コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフトや表計算ソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、社会に出てからも重要である。この授業では、パソコン検定3級以上に合格できる知識・技術を身につけることを目標として、大学生活に必要なレポート作成や正しい情報の取扱いができるようにする。	
評価方法 パソコン検定3級合格もしくはそれと同等の学力を有する場合に単位を認定する。	
教科書 パソコン検定協会事務局『P検オフィシャル教材『CS-ONE』パソコン検定協会事務局	

情報リテラシー	春集中 秋集中 2単位
担当者：竹井 潔	
講義の目標及び概要 (内容) 現代の高度情報化社会において情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。 (カリキュラム上の位置づけ) 基礎科目であり、2009年度・2010年度入学生の必修科目である。また、2011年度・2012年度入学生の選択必修科目である。(コミュニティ政策学科以外の2012年度入学生で、教職課程履修者は「情報基礎」を履修すること。) (学びの意義と目標) コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフトや表計算ソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、社会に出てからも重要である。この授業では、パソコン検定に合格できる知識・技術を身につけることを目標として、大学生活に必要なレポート作成や正しい情報の取扱いができるようにする。単位認定は4級からであるが、パソコン検定3級以上の合格をめざしてほしい。	
評価方法 検定試験の合否および検定の級によって、評価を行う。	
教科書 パソコン検定協会事務局『P検オフィシャル教材『CS-ONE』パソコン検定協会事務局	

情報倫理	秋 週2回 4単位
担当者：竹井 潔	
講義の目標及び概要	
◆内容◆ 「社会における情報」をキーワードに、その「社会性」や「責任」といった問題に関しても対応できる人材を養成することを目的とする。講義においては、広い意味での「情報」を扱い、現代社会と情報、情報倫理などを解説する。とくに情報倫理については「時代とともに変化する『情報』」の観点から、学生自身自身が情報倫理の変容をどう受け取るべきか、ディスカッション形式で提案させるよう、授業を展開する。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 1～4年対象。情報教職を履修している人や専門演習「情報倫理」を希望する人は必ず履修してほしい。	
◆学びの意義と目標◆ 情報倫理は、情報社会の新しい分野である。これからの情報社会を生きていくためには情報倫理は必要条件である。そこで、授業を通して、情報倫理とは何か、その必要性を一緒に考えてみたい。	
評価方法	
出席30%、中間試験30%、期末試験40%	
教科書	
授業の中で指示する	

職場で役立つ基礎英語	秋 週2回 2単位
担当者：東 仁美	
講義の目標及び概要	
将来学生が会社で実際に使うことがあるであろう基本的なオフィス英語を取り上げ、オフィスで必要とされる英語の知識とスキルを身につけるため、リスニングと会話を中心に学習する。 また、TOEICで扱われるビジネス場面でのリーディング、リスニングの教材を取り上げ、解説し、TOEICの点数アップを目指す。	
評価方法	
授業への出席・参加	25%
プレゼンテーション	25%
中間試験	25%
期末試験	25%
教科書	
授業の中で指示する	

女性学	春 週2回 4単位
担当者：藤田 和美	
講義の目標及び概要	
1. 内容 女性学とは、既存の知や文化を、ジェンダー（性別）の視点から読み直し、読みかえるものである。近代以降の女性解放運動から現代の女性学研究、更には男性学研究までの学問の成立の歴史的過程をたどりながら、その成果を学び、性・結婚・労働・メディア・教育など、現代の私達を取り巻く諸問題について考える。	
2. カリキュラム上の位置づけ 女性学は研究のための研究ではなく、性差別からの解放を訴えた社会運動と、多分野の学問研究の知見が連動して形成された実践的、かつ学際的な学問研究である。歴史学、文化人類学、心理学、文学、芸術批評、経済学、法学、社会学、教育学、自然科学など各研究分野における理論的枠組みや方法論などを参考にして、女性であれ、男性であれ、性別にかかわらず私達一人一人が〈自分らしさ〉を大切に主体的に考え、行動することができるような性と生のあり方を探っていききたい。授業は講義を中心に進めるが、グループ学習もおこなう。ビデオなどの視聴覚教材も利用する。毎回授業時に感想を提出してもらう。	
3. 学びの意義と目標 ジェンダー問題への認識を深め、問題解決能力を養う。	
評価方法	
レポート(50%)と授業時に毎回提出する感想文(50%)で評価する。試験は実施しない。	
教科書	
プリントを配布する	

書道(初級)	春 秋 週2回 2単位
担当者：小室 陽子	
講義の目標及び概要	
書は文字を素材にした創造芸術です。先人の残してくれた素晴らしい文化遺産、中国や日本の古典を教材に、正しく美しい文字を書くための場としたい。毛筆を主とし、筆順、書技、理論等、漢字、仮名、硬筆を含め文字そのものについても考えていきたい。又、各書体の特徴をより正確に理解するためにその書体での作品を制作します。	
◆カリキュラムの位置づけ◆ 書写の指導が必要な中・高等学校の教職を志す学生自身が毛筆で書くことへの抵抗感をなくし、楽しく筆で紙とむきあえるようにし、教壇に立った時によりよい生徒指導ができるようにしたい。	
◆学びの意義と目標◆ 文字を素材にしての実技講座です。文字に対して一点の意義、一線の位置づけ等を意識的に見直すことを通して文字を書くことの意義を考えていきたい。 又、漢詩(七言絶句)を作成することでより文字への興味を持ってほしい。	
評価方法	
毎時間の実技課題を提出してもらい、その評価と授業態度(私語、居眠り等)及び用具の準備を加味。但し、出席状況が3分の2に満たない場合、課題の提出がなく評価点数が不足した場合は不合格とします。	
教科書	
プリントを配布する	

書道(中級)	春	週2回	2単位
担当者: 小室 陽子			
講義の目標及び概要 正しく美しい文字を書くことに加えて、中級では楷書を主として行書・草書・隸書・仮名の各書体をより確実な筆づかいで書けるようにし、意に沿った筆づかいを身につけるようにしたい。 そのために、初級では臨書の中で形臨を主体に行ってきたが、中級では、意臨をも含めた臨書ができるようにすることを目標とします。 さらに、一つの古典を少し長く臨書することによって、より確実な筆づかいを身につけるとともに、書くことに対する集中力を養い、細部まで見られる観察眼を身につけていきたい。又、漢詩を理解することによって古典的な作品の理解が進むこととなるので、漢詩を作詩し新たな面からの鑑賞眼を養うようにしたい。 ◆カリキュラムの位置づけ◆ この授業は書道初級を履修した学生が受講するものとします。 ◆学びの意義と目標◆ より高度な技術を身につけ、各書体で作品を制作することによって確実にその書体を理解することを目標とします。			
評価方法 毎時間の実技課題、書体毎のまとめ作品を提出、評価します。但し、出席状況が3分の2に達しない場合、および、課題の提出がなく評価点数が不足した場合は不合格とします。			
教科書 プリントを配布する 中国書法選31『九成宮醜泉銘』二玄社			

初等国語科教育法	秋	週1回	2単位
担当者: 市村 和子			
講義の目標及び概要 (目標) ・小学校国語科の目標及び内容を理解するとともに、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を学び、「国語科の授業づくり」ができる力を身に付ける。 ・自らの言語感覚を養い、国語に対する関心を深めることができる。 (内容) ・国語科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成、模擬授業等とおして授業の進め方を学ぶ講座とする。			
評価方法 出席状況、平常点(授業参加態度、関心・意欲)、学習指導案の作成、模擬授業等総合して、評価する。			
教科書 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社			

初等社会科教育法	春	週1回	2単位
担当者: 川瀬 敏行			
講義の目標及び概要 「社会」で学んだ社会科の目標や内容を再確認するとともに、社会科の指導について事例研究を行う。 次に、自分たちで選んだ「単元」について実際に指導計画を立て、それに基づき各自が模擬授業を行う。その際互いに模擬授業を見合って授業記録を作成し、指導の在り方を話し合うことにより授業の在り方を模索する。			
評価方法 出席を重視し、取り組む姿勢、指導計画の作成、模擬授業の結果等を加え、総合的に評価する。			
教科書 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会科編』東洋館出版社			

資料組織演習(分類)	春	秋	週1回	1単位
担当者: 河島 茂生				
講義の目標及び概要 (内容) 本演習では、資料組織概説(分類)で学んだ知見をもとにして、具体的な分類作業の演習を行うこととする。日本の代表的図書分類ツールである『日本十進分類法(NDC)』新訂9版および『基本件名標目表(BSH)』第4版を使用し、数多くの演習例題や演習問題をおして分類作業を学ぶ。 (カリキュラム上の位置づけ) 司書課程資格科目群 (学びの意義と目標) 資料の組織化とは、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することによって、図書館資料を利用者が有効活用できるようにすることである。本演習では、多くの演習を通じて、利用者の要求に資する資料組織法の体得を目指す。				
評価方法 出席状況と授業態度および試験結果を総合して評価するが、演習科目であるので特に出席状況を重視する。				
教科書 プリントを配布する				

資料組織演習(目録) 春 秋 週1回 1単位
担当者：榎本 裕希子
講義の目標及び概要 1. 内容 「資料組織概説(目録)」で得た知識を基に、『日本目録規則(NCR)1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。 2. カリキュラム上の位置づけ 「資料組織概説(目録)」と共に、司書資格取得のための必須科目である。 3. 学びの意義 目録は図書館の蔵書管理や資料検索を行うために必要不可欠なツールである。この目録の機能を正常に保つために、どのような情報が記載されるのか等を学ぶことは、正確な目録作成のためだけでなく、資料管理や運用においても重要である。
評価方法 授業に出席することは基本条件のため、成績評価は筆記試験を中心とし(80%)、それに加えて出席状況(10%)、授業態度等(10%)を合わせて評価を行う。演習科目であるため、無欠席であっても試験の結果によっては不可と評価する場合もある。
教科書 吉田憲一編著『資料組織演習』日本図書館協会

資料組織概説(分類) 春 秋 週1回 2単位
担当者：河島 茂生
講義の目標及び概要 (内容) 図書館における分類作業とは、資料の内容にもとづいてその資料を区分し分けることである。本授業では、分類作業の意義、方法、歴史、そして業務の実際などについて講義する。また、『日本十進分類法(NDC)』新訂9版や『基本件名標目表(BSH)』第4版、著者記号表を使って、分類作業のごく基礎的な訓練も行いたい。 (カリキュラム上の位置づけ) 司書課程資格科目群 (学びの意義と目標) 資料の組織化とは、図書館資料を利用者が有効に利用できるように、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することである。この作業は、大別すると目録作業と分類作業の2つに分けられるが、この授業では後者の分類作業を集中的に学ぶこととする。分類作業は図書館の運営にとって必要不可欠な業務であり、分類作業を行うことによってはじめて利用者が資料の主題を手がかりとしながら資料を探ることができるようになる。
評価方法 出席状況と授業態度および試験結果を総合して評価する。
教科書 プリントを配布する

資料組織概説(目録) 春 秋 週1回 2単位
担当者：榎本 裕希子
講義の目標及び概要 1. 内容 利用者が必要とする情報資料を迅速かつ的確に提供することが、図書館の基本使命である。この使命を果たすために必要な図書館業務の1つに資料組織法がある。本講義は、資料組織法における記述目録法を中心に解説する。国際標準規則である『パリ原則』や『国際標準書誌記述(ISBD)』や我が国の標準的ツールである『日本目録規則(NCR)』において定められている規則を解説し、図書館における目録法の意義や機能について学習する。 2. カリキュラム上の位置づけ 「資料組織演習(目録)」と共に、司書資格取得のための必須科目である。 3. 学びの意義 目録法の意義や機能について学ぶことは、図書館に収集されている膨大な資料群を効率よく運用する仕組みへの理解を促し、正確な目録作成へとつなげるためにも重要である。
評価方法 授業に出席することは基本条件のため、成績評価は筆記試験を中心とし(70%)、それに加えて出席状況(20%)、授業態度等(10%)を合わせて評価を行う。
教科書 田窪直規(ほか)著『資料組織概説』樹村房

資料特論 秋 週1回 2単位
担当者：宮田 洋輔
講義の目標及び概要 1. 内容 授業では、コンピュータを使った実習を通して、電子資料の特性の理解、電子資料の作成、電子資料の管理・組織化などについて学習していきます。 2. カリキュラム上の位置づけ これまでの図書館資料に関する知識を発展させ、図書館資料・情報資源に関するさらなる理解を身につけること。 3. 学びの意義と目標 これまで図書館は、印刷された本(図書)を中心としながら、マイクロ資料、録音資料、貴重書など様々な資料を扱ってきました。そして、社会の電子化・情報化が進むにつれて、扱う資料の種別は増えており、そのような新しい資料への関心と重要度も益々大きくなっています。そこで、「資料特論」では、さまざまな図書館資料の中から電子資料に焦点をあて、今後の図書館資料についての理解と展望を得ることを目的とします。
評価方法 評価は、出席(30%)と課題(70%)で行います。また、欠席回数が1/4を越える場合は単位を認定しません。
教科書 授業の中で指示する

人体の構造と機能及び疾病	秋 週1回 2単位
担当者： 齋 今	
講義の目標及び概要 <ul style="list-style-type: none"> 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 リハビリテーションの概要について理解する。 社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。 	
評価方法 1. 教員による講義のみではなく、ディスカッションや学生によるプレゼンテーションを取組んだワークショップも実施する。 2. 通常講義出席、WS出席&レポート60% 3. 期末レポート40%	
教科書 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座（1）人体の構造と機能及び疾病—医学一般 第2版』中央法規出版	

身体表現	秋集中 2単位
担当者： 森 さゆり	
講義の目標及び概要 1、内容：なぜ現代社会では他者とコミュニケーションを図ることが苦手の若者が多いのか。演劇創造の過程で行うシアターゲームを通して、心身の解放を試みるとともに、言葉と身体表現を学び、人と人との関わりを考えていきます。 2、カリキュラム上での位置づけ：応用科目群の科目。体験を重視します。演劇だけでなく、他者とのコミュニケーションについて興味のある全ての学年の学生に推奨します。 3、学びの意義と目標：言葉を他者へ伝えることや他者から受け取れることを体感しながら、コミュニケーションとは何かを考えることを目的とします。 【補足】 1、受講者数に応じて授業の内容が変更になる場合、また、それにもない詩や戯曲などの一部をテキストとして使用する場合があります。その際には講義が開始されてから順次配布します。 2、事前講習、観劇会、フォローアップ講習以外の実習授業の際には全てジャージなどの動きやすい服装（ジーンズ、スカートは不可）、上履き、汗ふきタオルが必要です。	
評価方法 毎授業の出席と授業に対する意欲（60%）、レポート（20%）、発表（20%）によって総合的に評価します。	
教科書 授業の中で指示する	

人文地理学概説	春 週1回 2単位
担当者： 飯島 康夫	
講義の目標及び概要 人文地理学の基本的な考え方を紹介し幅広い分析の視角を提供する。一般に地理学は総合的な科目といわれる。ある地域のことを理解するためにはその地域の自然地形、気候・風土とそれらから派生する生活様式、また政治や経済の制度、歴史や文化という知識を総動員させなければその実態が理解できない。 この講義は地理学に関係する隣接科学の諸分野（経済や政治、歴史など）をバランスよく配分することに配慮したが、特に世界経済の進展のなかで諸地域がいかなる空間の形成を伴って発展するのかという問題に関心を置いた。本講義は人文地理学の発展過程とそれに伴って生じた諸問題を紹介したうえで制度や歴史、文化的背景の違いのなかで生じる諸都市・地域の発展形態の違いに焦点をあてる。本講義の参加者が諸都市・地域の現象面に埋没することなくその背後にひそむ、より本質的な空間形成の仕組みと地域ごとの差異について理解するよう工夫した。	
評価方法 授業への貢献度、レポートや試験により総合的に評価する。レポート70%、出席率20%、その他10%	
教科書 ビーター・ディッケンほか『立地と空間 上』古今書院	

心理学	秋 週2回 4単位
担当者： 小山 義徳	
講義の目標及び概要 <ul style="list-style-type: none"> 人の理解とその技法の基礎について理解する。 人の成長・発達と心理との関係について理解する。 日常生活と心の健康との関係について理解する。 心理的支援の方法について理解する。 	
評価方法 数回の小テストまたはレポートと、定期試験により評価する。	
教科書 プリントを配布する	

心理学概論	春 週2回 4単位
担当者：吉田 沙蘭	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>心理学とは、人のこころの動き、すなわち人間の感情や意識、行動について科学的に研究する学問であり、物理学や化学同様、実証的な科学として成立してきた。心理学の研究対象は、知覚、記憶、学習、発達、性格、対人関係、異常行動などというように多様な領域に分かれており、この授業では、それぞれの領域での研究成果について学んでいく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「心理学概論」という科目名が示すように、心理学全体を概観し、なるべく多くの領域を対象として、それぞれの領域での基本的な考え方を紹介することにある。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>心理学の初歩とも言うべき授業であり、この授業を受講することで、受講生には、心理学の基本的な考え方、知識を身につけてもらいたい。また、心理学を通じた自己理解・他者理解の機会にでももらいたいと考えている。なお、心理学を初めて学ぶという人たちにも理解しやすいよう、なるべく身近で具体性に富むエピソード等を紹介しながら授業を進めるつもりである。</p>	
評価方法	
平常点（授業への参加、授業時に出された課題の提出）50%、および期末レポート（もしくはテスト）50%によって評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

心理学概論	春 週1回 2単位
担当者：山田 麻有美/井上 知洋	
講義の目標及び概要	
<p>(1) 〈内容〉 人は、様々な場面で、他の人と自分との違いに気づく。また、誰かと心が通じたと感じることもあれば、全く理解できないと感じることもある。このような経験を通して、人は心に興味を持ち、それらの関心や疑問の答えを心理学に期待する。一方、学問としての心理学という学問は実証科学であり、一般に流布している心理学イメージとは異なるものである。本講義では、初めて心理学を学ぶ人が、実証科学としての心理学を深く理解できるようになることを目的に、心理学の歴史、知覚とは何か、学習と記憶のメカニズム、思考と推理の心理学的過程、人の行動と動機づけ・情動との関連、個人の多様性ないし個人差などについて、代表的な研究を紹介し、心理学の基礎的な考え方を講義していく予定である。</p> <p>(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 こども心理学科の専門科目であり、入門的な位置づけである。卒業必修科目である。</p> <p>(3) 〈学びの意義と目標〉 心という一見とらえどころのない対象を研究する心理学という学問の考え方や実証科学としての研究の方法などを学ぶことで、こども心理学科での学びの基礎の形成を目指している。</p>	
評価方法	
出席状況による評価（10%）と、授業に出される質問への応答や課題に対する取組みなどの参加度による評価（30%）、最終回に行う理解度の確認による評価（60%）の合計を、全体の評価とする。	
教科書	
G. バトラー、F. マクナマス／山中康裕訳『心理学—Psychology』岩波書店 Gillian Butler, Freada McManus『Psychology A Very Short Introduction』Oxford University Press	

心理学研究法	秋 週2回 4単位
担当者：小山 義徳	
講義の目標及び概要	
<p>この講義は大きく分けて2つのパートに分かれています。前半部（1～14回）の記述統計学の部分では、データの特徴の記述の仕方を学びます。後半部（15～30回）の推測統計学の部分では、統計的仮説の検定の仕方や実験計画法について学びます。心理統計は講義を聴いているだけでは理解が進まず、自分で手を動かして計算してみればじめて分かるという部分がありますので、講義と実習（コンピュータ室でのEXCELの操作と電卓）を織り交ぜた授業内容を予定しています。心理学実験演習A,Bを受講することを考えている学生は、事前にこの授業を履修しておくことと実験演習の内容をより深く理解できます。</p>	
評価方法	
小テストと期末テスト、複数回の実習課題の提出及び出席点で評価します。	
教科書	
山田剛・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルバ書房	

心理学実験実習 A	秋 週2回 2単位
担当者：山田 麻有美/井上 知洋/川村 良枝	
講義の目標及び概要	
<p>(1) 〈内容〉 心理学実験は、実証科学としての心理学の基礎である。本実習は、初めて心理学を学ぶ人が、実証科学としての心理学の基礎を学び、その方法を実践的に理解することを目指している。具体的には、古典的な心理学実験を取り上げ、現代心理学における問題の捉え方や見方についての知見を広めるとともに、心理学研究のまとめ方についても学べるようにする。実習する心理学実験のテーマは、知覚、学習・記憶、情意・行動、人格・測定、社会・集団の各分野から代表的な実験を取り上げて実習を行い、受講生が、各実習の目的・方法や、実験実習で得られた結果の整理のしかた、考察のしかたなどを学んでいく。</p> <p>(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 こども心理学科の専門科目であり、心理学の学びの基礎と位置づけられる。卒業必修科目である。2コマで2単位である。</p> <p>(3) 〈学びの意義と目標〉 心という一見とらえどころのない対象を研究する心理学という学問の考え方や実証科学としての研究の方法などを学ぶことで、こども心理学科での学びの基礎の形成を目指している。</p>	
評価方法	
出席状況による評価（10%）と、各階の実験実習に対する取組みなどの参加度による評価（30%）、実験終了後のレポートの提出状況（30%）と内容（30%）の評価を合計し、全体の評価とする。	
教科書	
プリントを配布する	

心理学実験実習A	春 週2回 2単位
担当者：長谷川 恵美子/小山 義徳	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 少人数のグループに分かれ心理学各領域（知覚、学習、記憶、欲求、態度など）の研究実践の基礎を、実習をとおして学ぶことを目的としている。実験実施とともに各実験が終わるごとにレポートの提出が求められる。他のグループメンバーに負担がかからないよう欠席・遅刻・レポート期限などは厳しくチェックされる授業である。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学科、心理系、基礎～応用科目である。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、春学期の「心理学実験実習B」とあわせて本授業を履修すること。可能なら実験実習A,Bの順に履修することが望ましい。尚、レポートを書く際に、心理統計の知識が必要となるため、心理学研究法を並行履修することが望ましい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 基礎的な心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、統計的処理などを学び、心理学の実験的な研究方法を習得する。</p>	
評価方法	
成績は出席状況・実験態度・レポートの内容等によって総合的に評価される。欠席・遅刻・レポート期限後提出・レポート未提出などは厳しくチェックされ、減点の対象になるので注意すること。	
教科書	
プリントを配布する	

心理学実験実習B	秋 週2回 2単位
担当者：長谷川 恵美子/牟田 隆郎	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 研究を遂行していくうえで留意しなければならない倫理の問題をはじめ、仮説設定、実験デザインの決定などの作業を取り上げながら、心理学各領域（認知心理、社会心理、臨床心理、生理心理など）の研究実践の基礎を実習をとおして学ぶことを目的としている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学科、心理系、「応用科目」であり、できる限り、心理学実験実習Aを履修後に受講することが望ましい。特に心理系で卒業研究を行う学生は受講することが望ましい。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、秋学期の「心理学実験実習A」とあわせて本授業を履修すること。</p> <p>3. 学びの意義と目標 少人数のグループに分かれ、心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。</p>	
評価方法	
成績は出席状況・実験態度・レポートの内容等によって総合的に評価される。欠席・遅刻・レポート期限後提出・レポート未提出などは厳しくチェックされ減点の対象になるので注意すること。実験によっては動きやすい服装を持参すること。	
教科書	
授業の中で指示する	

心理学実験を対象としたコンピュータ実習	秋 週1回 1単位
担当者：渡辺 正人	
講義の目標及び概要	
<p>心理学を学ぶ上で不可欠な資料の整理をコンピューターを用いて行う事が出来るようにするための科目である。具体的には、心理学実験実習Aで行う実験で得られた各種のデータを表計算ソフトを用いて集計し整理する方法を習得し、整理した実験の結果を表やグラフで表し、実験結果の考察に利用できる形で出力することができ、コンピューターを用いて心理学実験実習のレポートが作成することが出来るようになることが目的である。</p>	
評価方法	
課題の作成・提出100%	
教科書	
授業の中で指示する	

心理言語学	春 週2回 4単位
担当者：川手 恩	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆ 本講義では、言語使用や言語行為、コミュニケーションを言語学と心理学の両方向から分析し、より理解を深めることを試みる。この目的を達成するため、「心理言語学へのアプローチ」「動物のコミュニケーション」「言語と思考」「母語の習得」「音声と単語の認知」「文と文章の理解」「言語と脳」「言語とジェスチャー」そして「第二言語学習」という九つの心理言語学の研究分野のテーマに焦点をあて授業を展開していく。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2-4年生での受講を推奨。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 本講義では、コミュニケーションを心理言語学的視点より分析し、様々な状況や場面におけるコミュニケーションの成り立ちを理解する。そしてその大切さやすばらしさを見出す。</p>	
評価方法	
期末レポート 30%、復習クイズ 30%、プレゼンテーション 10%、クラス参加 30%	
教科書	
重野純（編）『言語とこころ-心理言語学の世界を探検する-』新曜社	

図画工作	通年 週1回 2単位
担当者：山領 直人/柴田 和豊/喜田 敬	
講義の目標及び概要	
1) 内容 授業では、小学校教育としての図画工作科が担うべき役割とその目指すところを示した「小学校学習指導要領」に準拠して、この教科の目標と内容などを学ぶ。また、創造表現活動の研究・製作を設けて、造形技法・表現技法の工夫などを実践的に学習する。	
2) カリキュラム上の位置づけ 小学校教諭1種免許、幼稚園教諭1種免許、保育士資格のための必修科目である。1年生を対象としている。	
3) 学びの意義と目標 上記資格取得を目指し、児童教育の現場での実践に役立つ知識と技術の修得を目標としている。	
評価方法	
授業中の活動性、出席状況50% 提出作品50%	
教科書	
プリントを配布する	

図画工作科教育法	秋 週1回 2単位
担当者：柴田 和豊	
講義の目標及び概要	
目標 子どもたちにとってなぜ造形的な表現活動が大切かを考えるとともに、具体的な授業の在り方を考える。	
概要 そのために、図画工作教育がどのような歴史を辿ってきたか、そして現代の学校と社会の中で何をなすうるか、実際の図画工作科の目標・内容・評価などの諸点を考えていく。 また、子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさを実感できるよう、概論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進める。	
評価方法	
出席状況、レポート、課題製作への取り組み、試験などをもとに総合的に判断する。	
教科書	
プリントを配布する	

図表理解	秋 週1回 1単位
担当者：大森 達也	
講義の目標及び概要	
本教科では、図表を作るうえで必要とされる数式の練習を行うと同時に、様々な図表を用いて、その意味するところを解いていくという形式で行っていく。 現代社会では、パソコンを使つてのプレゼンテーションが一般的となり、情報の伝達における図表の有効性はゆるぎないものとなってきている。その理由は、テキストでは理解が難しい事実関係や論理構成などを、図表では数値の大小、位置関係などでより明示的に表現できるためといわれている。このような図表理解は、大学における学びを進めていくためにも必要とされており、コミュニティ政策学科では初年時の教育として行うものである。 したがって、本教科の目標は、図表の意味するところを理解できるようにすることにある。	
評価方法	
(1)ドリル問題 (60%) (2)中間テスト (20%) (3)期末テスト (20%)	
教科書	
プリントを配布する	

スピリチュアルケア論	春 週1回 2単位
担当者：窪寺 俊之/平山 正実/藤掛 明	
講義の目標及び概要	
スピリチュアルケアの必要性、定義、内容を具体的例を用いて説明する。 特に、ヒューマンサービスの領域でのスピリチュアルケアの必要性について触れ、スピリチュアルケアの基礎概念を理解し、自分の言葉で表現できるようになることを目標にする。	
評価方法	
授業出席 (2/3以上が必須) 30% 提出物 70%	
教科書	
窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』三輪書店 平山 正実『精神科医の見た聖書の人間像』教文館	

スペイン語 I (初級 A)	春 秋 週2回 2単位
担当者: 越智 直子	
講義の目標及び概要	
(1) 内容 この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。	
(2) カリキュラム上の位置づけ スペイン語を始めて学ぶ学生 (1~4年生) を対象とします。	
(3) 学びの意義と目標 現在、スペイン語は世界の国々で、4億以上の人々に話されていると言われていています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。	
評価方法	
出席日数、平常点 (25%) 単語テスト、提出物 (25%) 中間試験、期末試験 (50%)	
教科書	
エウヘニオ・デル・プラド 斉藤華子 仲道慎治『Unas pinceladas del español 「スペイン語でスケッチ」』第三書房	

スペイン語 I (初級 A)	春 秋 週2回 2単位
担当者: 宮内 ふじ乃	
講義の目標及び概要	
(1) 内容 この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。	
(2) カリキュラム上の位置づけ スペイン語を始めて学ぶ学生 (1~4年生) を対象とします。	
(3) 学びの意義と目標 現在、スペイン語は世界の国々で、4億以上の人々に話されていると言われていています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。	
評価方法	
出席日数、平常点 (25%) 単語テスト、提出物 (25%) 中間試験、期末試験 (50%)	
教科書	
エウヘニオ・デル・プラド 斉藤華子 仲道慎治『Unas pinceladas del español 「スペイン語でスケッチ」』第三書房	

スペイン語 II (初級 B)	春 秋 週2回 2単位
担当者: 越智 直子	
講義の目標及び概要	
(1) 内容 「スペイン語 I」で学んだ基礎をベースに、さらに新しい表現を身に付け、初級文法の取得を目指します。また、映画などに出てくるいきとした表現を学び、スペイン語を使って自己表現ができるようにしていきます。また、希望があれば、スペイン語検定の練習問題も授業で取りあげる予定です。	
(2) カリキュラム上の位置づけ 「スペイン語 I」を履修した学生を対象とします。	
(3) 学びの意義と目標 様々な表現や初級文法を取得することにより、スペイン語の歌を訳してみたり、簡単な手紙などをスペイン語で書くという楽しみができることと思います。	
評価方法	
出席日数、平常点 (25%) 単語テスト、提出物 (25%) 中間試験、期末試験 (50%)	
教科書	
エウヘニオ・デル・プラド 斉藤華子 仲道慎治『Unas pinceladas del español 「スペイン語でスケッチ」』第三書房	

性格心理学	秋 週1回 2単位
担当者: 須川 聡子	
講義の目標及び概要	
1. 内容 人間の行動や意識的経験は、同じ状況においてでさえ、人によって少なからず異なります。一方、状況が変化しても、その人に特有の、ある程度一貫した行動や意識的経験が認められます。性格とは、このような個人差と個人内の一貫性に関わる概念であり、その人のその人らしさを形作っているものです。本講では、1) 性格研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論を紹介し、2) 自己や他者の性格についての理解を深めるため、講義にあわせて、実習等具体的な課題を盛り込みながら授業を進めます。	
2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理系、基礎~応用科目です。	
3. 学びの意義と目標 性格研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論について学び、心理学において個人差の問題を取り扱うための基礎知識を習得します。その上で、多面的なアプローチをもとに考えたり体験したりすることで、自己、他者の内面をより深く理解できるようになることを目標としています。	
評価方法	
平常点 (授業への参加、実習への取り組み方、授業中に出された課題の提出など) 70%と学期末レポート30%により評価します。	
教科書	
プリントを配布する	

生活	春 秋 週1回 2単位
担当者：船田 信昭	
講義の目標及び概要	
1. 内容 生活科創設までの経緯や背景となる教育思想についてみていく。また、学習指導要領に示されている9の内容及び生活科特有の概念である「気付き」をはじめ、生活科の特質についてとらえる。また、おもちゃづくりの体験をする。	
2. カリキュラム上の位置付け 生活科の基本的な考え方や指導内容の習得を目指すことから入門期としての位置付けになる。	
3. 学びの意義と目標 平成元年(1989)に小学校低学年に新設された生活科の理念や原理を正しく理解するところに学ぶ意義がある。 「小学校学習指導要領解説 生活編」の教科書を活用し、教科目標、9の内容及び生活科の特質の概要について説明することができるようにすることを目標にする。	
評価方法	
出席を重視し、出席カードまたは小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。	
教科書	
文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』日本文教出版	

生活科教育法	春 週1回 2単位
担当者：船田 信昭	
講義の目標及び概要	
1. 内容 生活科の指導計画、本時案の作成を通して、子どもの学びと教師のかかり方を学ぶことである。	
2. カリキュラム上の位置付け 先年度学習した「生活」の内容理解を基に、本年度は指導案の作成という方法理解が中心になる。	
3. 学びの意義と目標 生活科における子どもの学び、教師の役割等について自分なりの考察ができるようになることが大切である。 生活科の目標や内容を理解するとともに、それを踏まえて本時案を自力で作成できる。また、本時のねらい、学習活動、評価を一体的にとらえるとともに、発問、板書、子どものみとり方が身に付くことを目標にする。	
評価方法	
出席を重視し、出席カードまたは小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。	
教科書	
文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』日本文教出版	

政治学	春 週2回 4単位
担当者：谷口 隆一郎	
講義の目標及び概要	
【学習の内容・目標・意義】 この科目では、現代政治学の主な領域の重要な知識を網羅的に学習します。将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくというテーマと内容が、この講義には含まれています。地方上級・警察・消防・国家Ⅱで出題される政治学の頻出テーマのほぼすべてをカバーします。加えて、この科目の内容は、一般の企業の採用一次試験の対策としても有効です。	
【カリキュラム上の位置づけ】 大学、特にコミュニティ政策学科というところで専門的に学ぶ内容（特に、その政治学的基礎）とはどういふものかを知ることのできる数少ない基礎的科目の一つです。	
【授業の進め方】 受講生は、(1)各授業に対応するテキストの箇所（章／節）を予習してきて、(2)講義を聴き、理解し、質問に答え、(3)各単元に対応した小テスト（公務員試験にも対応）に回答してもらいます。原則、テキストに沿って講義を進めていきます。ほぼ毎回、授業内レポートを作成してもらいます。	
評価方法	
授業内レポート20%、小テスト20%、期末試験60%、に対する評価で総合的に評価する。平常点（授業への積極的な参加）を加点する場合（最大10%）もある。なお、遅刻は平常点においてマイナスに評価する。	
教科書	
授業の中で指示する 朝羽道明『新書で大学の教養科目をモノにする政治学』光文社新書 TAC公務員講座『70点で合格！ 厳選100問 政治学』TAC出版	

政治学	春 週2回 4単位
担当者：川添 美央子	
講義の目標及び概要	
(1)内容 現代日本の政治の仕組み、および政策決定に至るまでの流れなどを概括的に講義する。国民の意思が可能な限り反映され、なおかつ多数者の暴走を抑制できるような国会や内閣や政党の仕組み、官邸と党の関係、選挙やメディアのあり方はどのようなものか、といった観点から考察する。	
(2)カリキュラム上の位置づけ 今後専門科目を学んでゆくために、最低限必要な基礎的な知識を身に付けてもらうことを目的としている。よって、カリキュラムの中でも最も初歩的かつ基礎的な科目である。	
(3)学びの意義と目標 皆さんが新聞やテレビのニュースに接したとき、「何故この決定がなされたのか」「この動きはどのような方向へ向かうものか」を、自分で判断できることを目指す講義をしたいと考えている。	
評価方法	
平常点（毎回の小レポートや質問）4割、定期試験（中間試験と期末試験）6割の比率で評価	
教科書	
プリントを配布する	

政治学	春 週2回 4単位
担当者：高橋 愛子	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉現実の政治的な課題、諸現象について、歴史的に捉える視座（座標軸）、自分で考える基本的な力を身につけることを目的とする講義である。今日の歴史的な位置としては、1945年の「敗戦」から始まった「戦後政治」が国際社会における「冷戦終結」、国内における「政界再編」という転換点を経て新たな国際秩序、国内秩序を模索する過渡期であると同時に、21世紀という新たな時代の方向付けをめぐる分岐点でもある。こうした「現在（についての）認識」に立ち、現代の「文脈」（コンテキスト）の中でさまざまな政治課題・現象を「政治学的に」考察するとはどのようなことを学ぶことを目的とする。つまり、「政治学」の概念、理論を学ぶだけでなく、「政治現象」を「週刊誌的に」「ワイドショー的に」取り上げるのとは異なる「政治学的な考察」とは何か、という点を、できる限りリアルタイムな時事問題を素材としつつ考えてゆく。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉政治学を学ぶための入門的な講座であり、かつそのための基礎的な概念、理論を学ぶ講座である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉1) 政治学とはどのような学問であるかを理解する。2) 現実の政治現象について、「政治学的に」考察する資質を学ぶ。</p>	
評価方法	
第一に平常点（出席率）（30%）、第二に新聞コメントの提出、第三に、学期末に提出が課せられるブック・レポート、以上の総合的評価。	
教科書	
授業の中で指示する	

政治学	春 週2回 4単位
担当者：森 達也	
講義の目標及び概要	
<p>〈テーマ〉政治の基礎知識／政治学の基礎</p> <p>政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ工具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。本講義ではまず政治学の基本的な考え方を学び、次に現代政治の基礎知識を習得しながら、政治学内部の各テーマを順に考察していきます。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>政治学の専門的学習の前提となる入門講義です。また教養として政治学を学ぼうとする者にも適しています。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。身近な問題を政治（学）的に捉え、それに意見を表明し、他者と議論することができるようになること。</p>	
評価方法	
最終試験 50% 授業内課題 50%	
教科書	
加茂利男ほか著『現代政治学 第3版』有斐閣 『最新図説政経』浜島書店	

政治学	春 週2回 4単位
担当者：森分 大輔	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。</p>	
評価方法	
学期末試験（40%）、中間レポート（20%）、および平常点（40%）とを総合して評価する。詳細は初回に説明する。	
教科書	
授業の中で指示する	

政治学	春 秋 週2回 4単位
担当者：松尾 秀哉	
講義の目標及び概要	
<p>1) 内容</p> <p>主にヨーロッパ政治を題材に、政治学の基本的な概念を理解する授業です。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>国際政治学などより専門的な授業の基礎的授業。社会人としての常識的知識を身につける授業でもある。</p> <p>3) 学びの意義と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験の「政治学」の問題集に（基礎的な解説を読むことなく、問題解答に）入ることができる。 ・レポートなどを通じて自分の考えを他者に発信することができる。 	
評価方法	
平常点（授業後コメント）50%、期末試験30%、レポート、小テスト20%で総合的に評価します。	
教科書	
阿部斉『概説 現代政治の理論』東大出版社 松尾秀哉『ベルギー分裂危機』明石書店	

政治学	春 週2回 4単位
担当者：浅井 亜希	
講義の目標及び概要	
1. 内容 政治学の基礎的な概念、および政治制度を理解する授業です。講義の前半では、デモクラシーや権力といった政治学における主要な概念や理論を解説します。様々な政治制度への理解を深めた上で、講義の後半では、現代政治の中心的なトピックを扱うことによって、政治学の方法を理解します。	
2. カリキュラム上の位置づけ 今後、専門的な授業をより深く理解するための基礎知識を身につける授業です。大学における勉強方法を学ぶ授業でもありません。	
3. 学びの意義と目標 政治学をどのように学んでいくのかを理解し、読解力・論述する力を高めます。そして、自ら学ぶ力を身につけることを目標とします。また、公務員試験などに対応した勉強を始めることができます。	
評価方法 出席を加味した平常点(レポート提出含む)30%、中間試験30%、期末試験40%(試験はすべて論述式)	
教科書 荻部直・宇野重規・中本義彦[編]『政治学をつかむ』有斐閣	

政治学	秋 週2回 4単位
担当者：小畑 俊太郎	
講義の目標及び概要	
1. 内容 日本を含めて、現代の多くの国で採用されている政治体制は、一般的に「自由民主主義」と言われる。それは、制度の体系であると同時に理念の体系でもある。本講義では、その思想的基盤と制度的構造を検討することによって、「自由民主主義」についての理解を様々な角度から深めていく。	
2. カリキュラム上の位置づけ 政治学の入門的かつ基礎的な講義である。	
3. 学びの意義と目標 政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。	
評価方法 出席(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)によって評価する。	
教科書 プリントを配布する	

政治学	秋 週2回 4単位
担当者：張 殷珠	
講義の目標及び概要	
【講義の内容・意義】履修者が将来、地方公務員試験や民間企業採用試験を受けることを念頭に、オーソドックスな政治学に関する基礎的な講義を行う。また、聖学院の理念に則り、履修者がプロテスタント・キリスト教の精神をもって国際化した時代と激動する社会、および地域の問題を体系的に見通す眼を養ってもらうようにしたい。具体的には、政治学における基本概念及び理論についての講義を通じて履修者が必要な知識を得るとともに、良い社会のための政治について自分自身の考えを持つことができるよう政治の現状やについて議論することにした。このため、講義では特に現代日本政治を対象とし、政治アクター間関係や対応様態を民主主義という観点から熟考することにした。	
【カリキュラムの位置づけ】コミュニティ政策学科の専門科目を学ぶための基礎になる政治学の講義を目指す。したがって、カリキュラムの中で最も基礎的、基本的な科目にする。	
【学びの目標】履修者全てが日常生活の中で起きている様々な社会問題に興味を持ち、そのような社会問題の原因から解決方法までの一連の流れを自分自身が理解しながら、キリスト教の精神という観点からより望ましい解決を探る姿勢を保つことを目標としたい。	
評価方法 定期試験(中間試験と期末試験)7割と平常点(出席、レポート、発表)3割	
教科書 プリントを配布する	

政治過程論	秋 週2回 4単位
担当者：高橋 愛子	
講義の目標及び概要	
(内容)政治学の学問史のなかにおける「政治過程論」の史的立場づけ・特徴について考察し、その後、各論をテキストを参考にしながら学んでいく。基本的なテキストとして下記の教科書を使い、必要に応じて資料を配布する。リアルな政治現象への認識を得るため新聞やニュース映像を適宜使用する。受講者は、政治にかかわる新聞記事のスクラップに各自のコメントを付したコメント・シートの提出が課せられる。	
(カリキュラム上の位置づけ)必修の専門基礎科目「政治学」修得済みの学生が、「政治過程に」についてより専門的に学ぶための科目である。	
(学びの目標)本講義の狙いは以下の三点である。第一に、政治現象の分析や考察において不可欠かつ主要な位置を占める「権力(power)」概念の多面的な学びを通して、政治プロセスの各局面で「権力」がどのように作用しているかを考察すること、第二に、政策決定過程の全体像についての概観を得ること、そして第三に、政策決定の各プロセスの中に潜む様々な問題が私達にとってどのような「意味」を持っているかを考えることである。	
評価方法 第一に平常点(出席率)30%、第二に新聞スクラップについてのコメント・シートの提出(30%)、第三にテスト(中間・期末)(40%)、以上の総合的評価。	
教科書 伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣	

<p>政治経済学特論A(自然を体験するA) 春 週1回 2単位</p>
<p>担当者：秋吉 祐子</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>〈内容〉人間は実体験・体感により意識・認識を確実にすることができる。人工的環境の中で生活してきた若者が真に人間の生き方を模索することができる空間は自然・農業体験学習と認識される。授業メニューは2形態である。(1)実習として里山での循環型農法の野菜作りを行う、アグリビジネスとしての販売活動も試みる(収穫量によって)実習報告書は必須。(2)循環型農法の事例見学(農場と牧場)を行う。見学報告書は必須。</p> <p>各授業のメニューや課題等はNet Commons(担当者と履修生間の双方向通信に使用するウェブサイト)。</p> <p>〈カリキュラム上の特徴〉政経学科が提供する多様なカリキュラム「政治経済学特論」の中に位置づけられる。</p> <p>〈学びの意義と目標〉1. 自然・農業と人間との関わりを実感する。2. 栽培から発展してアグリビジネスの展開を試みる。3. 将来の食の在り方を考える。4. 将来の職業選択の参考にする。</p>
<p>評価方法</p> <p>作業60%、レポート30%、授業態度10%</p>
<p>教科書</p> <p>赤峰 勝人『循環農法』なづなワールド 安部司『食品の裏側』東洋経済新報社</p>

<p>政治経済学特論A(経営学の可能性) 春集中 2単位</p>
<p>担当者：金子 毅</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>〈内容〉一般に、経営とは「人、物(金を含む)、情報の効率的な活用に向けて駆使される技法とそれが行なわれる場(市場)の適正な管理」定義される。だが、近年のリストラや派遣切り、これにあたかも追い打ちをかけるかのように発生した3・11以後の過酷な現状ほど、人間という本質的立脚点に立ち返る学としての経営学の必要性を露わにしたものはかつてなかったといえよう。講義では学生たちがやがて直面する「就職」を念頭に置き、「経営」と「労務」という二つの管理をテーマとする幾つかの事例を取り上げることにはしたい。その延長上にこそ、創造的な知に向けた学としての「可能性」は存在すると考えられる。</p> <p>〈学びの目標〉</p> <p>本講義は「企業で働く、仕事をする」自己の立ち位置を理解し、そこから今後の不透明な世界情勢を透視し、かつ生き抜く上での学知を獲得させることを目標とするもので、「企業経営を考える」と連動する科目である。</p>
<p>評価方法</p> <p>レポートを基本とするが、受講者数によってはテストに替える場合もある。なお、成績評価の配分は出席(20%)、授業への参加姿勢(10%)、毎時提出する感想文(10%)、レポート、またはテスト(60%)となる。</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

<p>政治経済学特論A(財政学の探求) 秋 週1回 2単位</p>
<p>担当者：谷 達彦</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容</p> <p>少人数ゼミ形式を採るこの授業では、財政学に関する文献の輪読を通じて、財政の役割や仕組みについて学ぶとともに、日本の財政が直面する課題及び問題点についての理解を深める。取り上げる文献は受講者と相談のうえ決定する。また、受講者が各自設定したテーマ(財政学に関するもの)についてレポートを作成・報告する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>必修の専門基礎科目における内容を踏まえて、自分の問題意識を掘下げ議論する力を養う専門科目である。専門科目「財政学」の発展科目として位置づけられると同時に、経済学、政治学、行政学、公共政策論等に対する関心にも応えられる科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>私たちの生活に深く関わっている財政に対して自分なりの問題意識を持てるようになることを目標とする。受講者には議論への積極的な参加と主体的なレポート作成が求められる。</p>
<p>評価方法</p> <p>出席(30%)、報告や議論への参加に基づく平常点(30%)、学期末レポート(40%)により総合的に評価する。</p>
<p>教科書</p> <p>授業の中で指示する</p>

<p>政治経済学特論A(自然を体験するB) 秋 週1回 2単位</p>
<p>担当者：秋吉 祐子</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>〈内容〉人間は実体験・体感により認識を確実にすることができる。人工的環境の中で生活してきた若者が真に人間の生き方を模索することができる空間は自然・農業体験学習と認識される。授業メニューは2形態である。(1)は実習であり、里山での野菜作りを行う。各授業後は作業レポートの提出が必須。アグリビジネス学習の意味から収穫野菜の販売方法を履修生主導で試験的に行う。天候状況が農作業に不適切な時間は教科書やVTRの活用によるクラスディスカッションを行う。(2)循環型農法の事例見学(農場と牧場)を行う。報告書は必須である。</p> <p>各授業のメニューや課題等は、NetCommons(担当者と履修生間の双方向通信に使用するウェブサイト)にても通知する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉政経学科が提供する多様なカリキュラムの一教科。</p> <p>〈学びの意義と目標〉1. 自然・農業と人間との関わりを実感できる。2. 将来の食の在り方を考えることができる。3. 農業体験(試験的販売を含む)により将来の職業の選択肢を広げることができる。</p>
<p>評価方法</p> <p>実習50%、レポート40%、授業態度10%により評価する。</p>
<p>教科書</p> <p>赤峰 勝人『ニンジンから宇宙へ』なづなワールド 安部 司『何を食べたらいいの?』新潮社</p>

<p>政治経済学特講(消費社会論) 秋 週1回 2単位</p>
<p>担当者：横山 寿世理</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 文献講読を行う講義とする。ジョージ・リッツアの「マクドナルド化」や「お客様社会」をテーマに共通文献を決めて、ゼミ形式で講読する。したがって、受講者は自分が担当した箇所のテキストをレジュメにまとめて、報告、質問に対して応答を行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科の3年生以上対象の科目で、専門演習および卒業研究の修得者が卒業論文執筆に向けて、この消費社会というテーマをより深く学ぶための科目となる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 卒業論文を執筆できるだけの文献読解能力と、論文を執筆するためのスキルと身につけることを目標とする。</p>
<p>評価方法</p> <p>担当課題への取り組み(40%)と講義内での質疑応答(60%)によって評価する。</p>
<p>教科書</p> <p>授業の中で指示する</p>

<p>政治経済学特論A(メディア制作) 秋 週1回 2単位</p>
<p>担当者：上田 信一郎</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容ーコミュニケーションメディアの制作。(ワープロレベルで可) Webメディア(ホームページ)作成を通して、情報発信型のコミュニケーション力をつけることを目標とした演習講座。 (1)テーマの企画、情報収集 (2)取材インタビュー・撮影 (3)原稿制作 (4)PR・リンク対策 (5)情報更新 などを行う。担当講師が行ってきた、政治経済学部新聞「政経塾」、2010年度のWebメディア「The Interview」の実績を踏まえて行う。Webサイトの制作はワープロレベルでできるCMS(コンテンツマネジメントシステム。NetCommonsなどの簡易ホームページ制作システム)を使用予定。企画は自由。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 単なる知識ではなく、身につけたコミュニケーション力を養う。</p> <p>3. 学びの意義と目標 企画する力、取材インタビューを通しての話し力・聞く力、原稿作成での書く力、プレゼンテーション力など、コミュニケーション全体に関わる力を身につける。自分の署名の原稿は、就職活動でのプレゼン資料にもなり、Webの制作は自分のスキル、キャリアになる。</p>
<p>評価方法</p> <p>内容評価ーテーマの企画、情報収集、取材インタビュー・撮影、原稿制作、PRなどを通しての演習力50%。プロジェクト推進力ーメディア制作を通じてのリーダーシップ30%。出席率20%。単位認定には標準の規定により3分の2以上の出席が必要。</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

<p>政治経済学特論A(企業経営を考える) 秋集中 2単位</p>
<p>担当者：金子 毅</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>(内容) 経営とは「人、物(金を含む)、情報の効率的な活用に向けた技法とそれが行なわれる場(市場)の管理」と定義されるが、3.11の打撃はこれまで以上過酷なリストラや派遣切りが予測される今日、創造的な知を生み出す人間像こそが企業社会において求められている。これには日本という対象地と企業の考え方、すなわち「文化」を知ることがまず不可欠と考えられる。講義では経営者たちの視点を学ぶことに加え、学生自らが新たな視野を獲得すべくスーパーマーケットなど大学地元を舞台とした「フィールドワーク」を実施することにした。</p> <p>(学びの目標) 本講義は「企業経営の可能性」と連動したものであり、先行き不透明な世界情勢を透視する上での実践的学知を養う問題解決型の科目である。</p>
<p>評価方法</p> <p>レポートを基本とするが受講者数に応じてテストにかえる場合もある。なお、成績評価の配分は出席(20%)、授業への参加姿勢(10%)、レポート、またはテスト(60%)とする。</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

<p>政治経済学特講(西洋政治思想講読A) 春 週1回 2単位</p>
<p>担当者：高橋 愛子</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>(内容)本講座では、西洋の政治思想に関する高度の専門性をもつ文献を講読する。受講者がそれぞれ分担のうえ、レジュメに基づくプレゼン及び議論を行っていく。卒論執筆指導を伴う。 (カリキュラム上の位置づけ)3年次必修の「専門演習」「卒業研究」を修得済みである4年次生が、さらに自らの研究テーマを掘り下げて学ぼうとする際に高度の専門性を身につけるための場として提供される。予め「西洋政治思想史」を履修していることが望ましい。</p> <p>(学びの意義と目標)西洋政治思想の諸概念について掘り下げた理解を得、一層掘り下げた議論ができるようになること。特に、大学院進学希望者にとって不可欠となる文献の読解力および論文執筆に必要とされる基礎的な能力を養成することを狙いとする。 (受講の条件)3年次に「専門演習」「卒業研究」を修得済みであること、卒論執筆予定であること(講義担当者の「専門演習」「卒業研究」履修者には限らないが、それ以外の演習履修者の場合には事前にコンタクトをとること)。</p>
<p>評価方法</p> <p>平常点(出席率)30%、議論とプレゼンにおける参加意欲(30%)、学期末提出の小論文(40%)により評価する。</p>
<p>教科書</p> <p>授業の中で指示する</p>

政治経済学特講(比較政治学)	春 週1回 2単位
担当者：松尾 秀哉	
講義の目標及び概要	
<p>内容) 卒業演習(比較政治学)の履修者を主な対象者とした、より発展的な事例研究を行う授業。ゼミ形式とし、自身の研究の報告と参加者による討論を中心とする。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 卒業論文の執筆を具体的な目標とし、高度な専門的知識を自らの調査、他者との討論を通じて身につける。</p> <p>学びの意義と目標) 論理的思考力と文章の書き方を身につけること、またそれをプレゼンテーションする実践力を身につける。</p>	
評価方法	
<p>数回の報告(50%)。そのうえで出席と討論への積極的参加(50%)によって評価する。</p> <p>卒業演習(比較政治学)未履修者で履修希望の者は必ず事前に教員と面談すること。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

政治経済学特講(西洋政治思想講読B)	秋 週1回 2単位
担当者：高橋 愛子	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) 本講座では、西洋の政治思想に関する高度の専門性をもつ文献を講読する。受講者がそれぞれ分担の上、レジュメに基づくプレゼン及び議論を行ってゆく。卒論執筆指導を伴う。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 3年次必修の「専門演習」「卒業研究」を修得済みである4年次生が、さらに自らの研究テーマを掘り下げて学ぼうとする際に高度の専門性を身につけるための場として提供される。予め「西洋政治思想史」を履修していることが望ましい。</p> <p>(学びの意義と目標) 西洋政治思想の諸概念についての掘り下げた理解を得、議論を通して自らの見解を鍛えること。特に、大学院進学希望者にとって不可欠な諸論文の読解力養成、及び、論文執筆に必要とされる基礎的な能力を養成することを狙いとする。</p> <p>受講の条件:3年次に「専門演習」「卒業研究」を修得済みであること(講義担当者の「専門演習」「卒業研究」履修者には限らないが、講義担当者以外の演習履修者の場合には事前にコンタクトすること)。</p>	
評価方法	
<p>平常点(出席率)30%、議論とプレゼンにおける参加意欲(30%)、学期末提出の小論文(40%)により評価する。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

政治哲学	秋 週2回 4単位
担当者：森分 大輔	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) 政治学の専門単位として、現代政治を考察する際に手助けとなる、様々な政治哲学、政治理論について取り扱う。とりわけ、20世紀以降の政治理論家の議論を参照することで、現代に通ずる政治認識の一端を紹介することを目的とする。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 必修の専門基礎科目「政治学」の知識を踏まえて、より専門的、抽象的な議論を学ぶことを目的とする。</p> <p>(学びの意義と目標) 現実の問題を取り扱うことが政治学の重要な役割であるが、本講義ではそれを取り扱うための抽象的ツール、およびその思考様式に触れ、親しむことに意義を見出している。同時にそれらの思考を理解し、使いこなすことができるようになることがその目的となる。</p>	
評価方法	
<p>(1)出席を含む授業態度(60%)、(2)学期末テスト(40%)によって総合的に評価する。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

聖書と現代	秋 週1回 2単位
担当者：左近 豊	
講義の目標及び概要	
<p>現代において聖書を読むことの意義を問う。特に旧約聖書を題材に、アウシュヴィッツや広島・長崎後の現代社会において聖書は何を語りかけているのか、また現代は聖書に何を問うているかを考察する。</p>	
評価方法	
<p>出席・授業参加 20% 札拝出席レポート20% クラス発表 30% 期末レポート 30%</p>	
教科書	
<p>授業の中で指示する</p> <p>W.ブルグマン『聖書は語りかける』日本基督教団出版局</p>	

聖書の世界A	春 週1回 2単位
担当者：左近 豊	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>現代世界に多大な影響を与えているキリスト教、ユダヤ教、イスラム教は「聖書」をベースにした宗教です。「聖書」を初めて学ぶ人々を対象に、特にこれら3宗教が共有している「(旧約)聖書」を取り上げ、主たる内容を概観し、それぞれの文書にみられる思想的な特徴、歴史的な背景などにも触れながら理解を深めてゆきます。春学期は、旧約聖書の思想的核を形成する「モーセ五書(トラー)」と呼ばれる部分に焦点をあてます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>聖書について初めて学ぶ人を対象とした、入門的なコースです。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>「旧約聖書」の3つの区分と、それらに属する諸文書の内容について概略を記述することができる</p> <p>旧約聖書の「モーセ五書」の思想的意義について記述できる</p> <p>旧約聖書を成立させた古代イスラエルとそれを取り巻く古代近東世界について、その歴史的背景について説明できる</p>	
評価方法	
出席・授業参加 30% 礼拝出席レポート 20% 期末試験50%	
教科書	
『聖書』日本聖書協会	

聖書の世界B	秋 週1回 2単位
担当者：左近 豊	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>「聖書の世界A」に引き続き、「聖書」を初めて学ぶ人々を対象に、「(旧約)聖書」を取り上げます。秋学期は、旧約聖書の「預言者」と「諸書」と呼ばれる部分に焦点をあてます。これらは古代イスラエルにとどまらず、現代社会にも多大な影響を与えている部分です。このコースでは現実に身を沈めつつ、同時にそこに溺れない預言者の視点、聖書に蓄積された喜びと悲しみ、道理と不条理を語る詩人の言葉を学びます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>聖書について初めて学ぶ人を対象とした入門的なコースです。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>「旧約聖書」の3つの区分と、それらに属する諸文書の内容について概略を記述することができる</p> <p>旧約聖書の「預言者」「諸書」の思想的意義について記述できる</p> <p>旧約聖書を成立させた古代イスラエルとそれを取り巻く古代近東世界について、その歴史的背景について説明できる</p>	
評価方法	
出席・授業参加 30% 礼拝出席レポート20% 期末テスト50%	
教科書	
『聖書』日本聖書協会	

聖書の中の環境問題	春 週1回 2単位
担当者：村上 公久	
講義の目標及び概要	
<p>「聖書」をテキストとする。</p> <p>キーワード：聖書、キリスト教、創造、文化、環境保全、農耕、遊牧、砂漠、森林</p> <p>1. 内容：最近では「環境問題ブーム」に乗って多くの本や講演があり、今では多くの大学で環境問題に関する各種科目を掲げているが、それらは「地球にやさしい」(?)と装いながらも、実は現在の環境問題そのものを引き起こした原因である「人間中心」のヒューマニズムに由来する環境問題意識に基づいたものである。</p> <p>キリスト教の教典『聖書』は環境問題を考える際の知恵の宝庫である。最近になって、地球環境問題と取り組んでいる科学者たちが環境問題の原因を「ヒトと自然との関係の崩れ」に見始めているが、そのほとんど全てが既に『聖書』の中に記されている。森林科学を中心に地球環境問題の研究をライフ・ワークにしているクリスチャンの自然科学者が「聖書」の中に観た環境問題を取り上げ、21世紀を生きる学生たちと共に考えてみたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：キリスト教関連科目。</p> <p>3. 学びの意義と目標：聖書の宗教が内包する環境問題の観方を理解する。</p>	
評価方法	
学期中複数回の試験(60%)、出席状況(欠席が1/3を超える場合は不合格)、討論によるクラスへの貢献(20%)、レポート(20%)を総合的に評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

精神医学	春 週2回 4単位
担当者：高野 寛	
講義の目標及び概要	
<p>精神医学は難解な学問ですが、これまでの臨床の経験を極力交えながらなるべく分かりやすい講義を心がけていたと思っています。</p> <p>そのためあえて教科書に漫画を採用したり授業で映画などの映像を用いたりしますが、精神保健福祉士国家資格受験のための必須事項は網羅するつもりでいます。</p>	
評価方法	
授業内容の中から簡単な基礎事項確認のための正誤問題50題の期末試験にて評価いたします。 出席は基本的に規定回数を満たせば良いですが、期末試験の成績がぎりぎり不可の場合は出席を加味します。	
教科書	
日本精神保健福祉士養成校協会『新・精神保健福祉士養成講座(1)精神医学』中央法規出版 ゆうき ゆう『マンガで分かる心療内科 1』ヤングキングコミックス ゆうき ゆう『マンガで分かる心療内科 2』ヤングキングコミックス ゆうき ゆう『マンガで分かる心療内科 3』ヤングキングコミックス ゆうき ゆう『マンガで分かる心療内科 4』ヤングキングコミックス ゆうき ゆう『マンガで分かる心療内科 5』ヤングキングコミックス 高野 良英『対人恐怖と不潔恐怖』金剛出版	

精神科リハビリテーション学	秋 週2回 4単位
担当者：田村 綾子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>本科目は、精神保健福祉士の視点から、精神科リハビリテーションについて必要な知識を学ぶ目的で開講するもので、講義を中心として進める。</p> <p>(1)精神科リハビリテーションの概念の理解、(2)精神科リハビリテーションのプロセスと技術の理解、(3)精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割の理解、(4)リハビリテーションのプロセスと、連携の意義や方法の理解、を目指す。関連科目と合わせて履修し、理解を深めることが望ましい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>精神保健福祉士国家支援受験資格取得のための必須科目である。</p>	
評価方法	
授業態度（出席日数・発言・リアクションペーパーへの記載）、提出レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。	
教科書	
新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『新版精神保健福祉士養成セミナー第5巻 精神保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版	

精神保健	春 週1回 2単位
担当者：上野 直子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>子どものこころとからだの健康な発達、子どもの保育に基本的に重要なことです。この授業では、特に子どものこころの健康について理解し、保育の中でどのように子どもとかわかっていくかを考えていきます。子どもの各時期でのこころの発達と、時期に応じた保育のあり方についても学びます。</p> <p>子どもを取り巻く環境は、虐待やいじめなど、穏やかで安定したものとは言いがたい状況にあります。現状を理解しながら、子どもたちが健やかに育つための様々な要因（家庭や地域など）についても学びます。子育て支援の実際についても学び、保育の果たす役割についても理解を深めていきましょう。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>保育士資格取得のための必修科目です。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>子どもが元気であるためには、保育者のこころも健康であることが大事です。自分自身のこころの健康についても考える機会をもちたいと思います。</p>	
評価方法	
授業（授業内でのディスカッション）への参加・講義内での課題（50%）、学期末試験あるいは期末レポート（50%）の結果を基に総合的に評価したいと思います。	
教科書	
内山 源（編）『精神保健』同文書院	

精神保健学	秋 週2回 4単位
担当者：小林 政子	
講義の目標及び概要	
<p>1 精神保健についての基本知識について理解させる。</p> <p>2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。</p> <p>3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。</p> <p>4 地域精神保健と地域保健について理解させる。</p> <p>5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。</p> <p>6 関連法規および施設について理解させる。</p>	
評価方法	
授業出席率 6割以上 各回授業中のレポート提出 学期末レポート提出	
教科書	
精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『増補版改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学』へるす出版	

精神保健福祉援助演習	春 秋 週1回 4単位
担当者：相川 章子/田村 綾子	
講義の目標及び概要	
<p>1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。</p>	
評価方法	
<p>(1) 出席および授業態度（発言等含む）</p> <p>(2) レポート課題等の提出</p> <p>(3) 期末試験</p> <p>(1)～(3)の総合評価とする。</p>	
教科書	
精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉援助演習（基礎）（専門）』へるす出版 監修 精神保健福祉研究会『我が国の精神保健福祉 22年版』株式会社太陽美術	

精神保健福祉演習	秋 週1回 1単位
担当者：相川 章子	
講義の目標及び概要 精神保健福祉士を目指す学生を主な対象に、より実践的なソーシャルワークについて学び、深める。	
評価方法 出席、受講態度、グループへの参加等を総合して評価	
教科書 授業の中で指示する	

精神保健福祉援助技術各論	秋 週2回 4単位
担当者：相川 章子	
講義の目標及び概要 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 3 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。 4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。	
評価方法 出欠席および授業態度 30% レポート 30% 試験 40%	
教科書 日本精神保健福祉士養成校協会編集『新・精神保健福祉士養成講座第6巻 精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版	

精神保健福祉援助実習	通年 週1回 9単位
担当者：相川 章子/田村 綾子	
講義の目標及び概要 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。	
評価方法 事前学習における課題の明確化への取り組み、実習時の状況、実習先による実習評価、事後指導での実習報告書作成等を総合的に判断し評価	
教科書 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版	

精神保健福祉論	春 週3回 6単位
担当者：相川 章子/大野 和男/行貴 志都子	
講義の目標及び概要 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。 2 精神障害者の人権について理解させる。 3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。 4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。 6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。 7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。	
評価方法 (1)出席および授業態度 (25%) (2)レポート課題等の提出 (25%) (3)期末試験 (50%)	
教科書 大熊由紀子/北野誠一/佐藤久夫/竹端 寛/山本深雪編著『精神保健福祉士養成テキストブック 第4巻 精神保健福祉論』ミネルヴァ書房	

<p>生徒指導論(進路指導を含む。) 春 週1回 2単位</p>
<p>担当者：小川 隆夫</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 子どもたちを取り巻く社会環境は、時代とともに大きく変化している。生徒指導は学校教育現場において教科指導とともに大切な教育活動であり、子どもの素質・能力・興味を引き出し、成長を援助する指導である。この授業では現代の複雑な学校現場の中で、児童生徒や保護者を理解し的確に指導するために必要な知識や考え方を学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 教職に関する科目の中の必修科目である。教科以外の児童生徒理解を伴う指導として重要なものである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 生徒指導論を学ぶことは、教師と児童生徒及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てることであり、児童生徒が主体的に判断して行動し、積極的に自己を生かしていくことができるように援助する姿勢を養うことである。</p>
<p>評価方法</p> <p>出席及び授業への積極性及び貢献度30% レポート提出2回30% 期末試験 40%</p>
<p>教科書</p> <p>稲垣應顕 犬塚文雄『わかりやすい 生徒指導論 改訂版』文化書房博文社 篠田輝子 佐々木史之 高島翠 久我隆一 齋藤雅英『新生徒指導論 12講』福村出版</p>

<p>生徒指導論(進路指導を含む。) 春 週1回 2単位</p>
<p>担当者：小川 洋</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容：「生徒指導」は「教科指導」と並んで学校における重要な教育活動の柱であり、近年、学校を取り巻く環境の変化などから、その重要性を増している。「生活指導」とも呼ばれる「生徒指導」をめぐる、幅広いテーマを取り上げながら、教師として必要な知識や考え方を取り上げる。さらに多くの場合「進学指導」や「就職指導」となっている「進路指導」の問題を扱う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」「教師論」の履修を終えて教育についての基礎的基本的な知識や考え方を理解したうえで、教科指導以外の面での生徒の指導のあり方について幅広く扱う。</p> <p>3. 学びの意義と目標：生徒の指導のあり方について表面的な知識を理解するのではなく、指導の理念などについての理解を深め、これからの学校教育の中での生徒指導のあり方について、諸君が自分なりの考えを持てるようになることを目指したい。</p>
<p>評価方法</p> <p>授業出席状況 (30%)、レポート2本:授業のテーマから2つ (一つは進路指導) を選び作成 (30%)、期末テスト (40%)</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

<p>青年心理学 春 週1回 2単位</p>
<p>担当者：藤掛 明</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>現代社会にあって、多くの人が実に多様な生活様式を持っている。とりわけ青年期から成人前期にかけては、従来からの比較でいえば、時代の影響を受けてもっとも多様化し、変化している時期といえる。</p> <p>こうした青年期の心理のあり様を、発達的な観点からだけではなく、臨床心理学的(心理カウンセリング)な観点から理解することが、本講義の目標であり、特徴である。</p> <p>そのためには、(1)青年期に起こりがちな心理的問題や、関連した社会病理現象をとりあげ、その理解や援助・解決の道筋を考えると、そして(2)それを人生全体から眺め直してみること、そして(3)青年期にある自分自身を洞察すること、この3つの作業を行っていききたい。</p>
<p>評価方法</p> <p>適宜授業内で行うミニテストおよび出席・態度 (50%) に加え、定期テストに代わるレポート (50%) を行う。</p>
<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>

<p>税法概論 秋 週2回 4単位</p>
<p>担当者：山田 直夫</p>
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容 政府は、教育・警察など様々な公共サービスを提供している。その主な財源は所得税や消費税などの税金であり、税金は私たちの生活に深く関わっている。本講義では、税金に関する法律(税法)についてできるだけわかりやすく解説する。また、より良い税制を構築するためにはどのような改革が必要か、という点にも触れていく予定である。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ ・入門的な位置づけである。 ・まったくの初学者を対象に講義をする。</p> <p>3. 学びの意義と目標 ・大まかな税金の仕組みを理解すること ・望ましい税制について考える視点を身につけること</p>
<p>評価方法</p> <p>出席 (30%)、レポート (30%)、試験 (40%)</p>
<p>教科書</p> <p>授業の中で指示する</p>

税務・会計入門	春 秋 週2回 4単位
担当者：山田 ひとみ	
講義の目標及び概要	
1. 内容 企業は日々の取引を複式簿記で記録して会計情報を作成して決算を行い、その決算に基づいて所得を計算して納税申告をします。ですから、企業会計の一連の手続を学ぶには、会計と税務の両方について理解することが重要です。会計分野は、「簿記とは何か」からスタートし、企業の会計情報の意義や種類について学びます。税務分野は、わが国の「税金とは何か」からスタートし、主として企業の所得に対して課税される法人税の理論と計算について学びます。	
2. カリキュラム上の位置づけ 「簿記（初級）」を履修するための基礎的知識を身につけることができる。また、会計学・経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きます。	
3. 学びの意義と目標 企業会計の一巡を理解し、企業の所得の計算プロセスや法人課税の基礎を理解することができる。	
評価方法	
提出課題 25%、定期試験 25%、出席 50%	
教科書	
授業の中で指示する	

生命・栄養科学	秋 週2回 4単位
担当者：菊川 忠裕	
講義の目標及び概要	
1. 【内容】 ヒトの生命活動の基本は、バランスのとれた食事を摂取して、適切な運動を行い、生活環境の衛生面に気配りをしなければならない。健康を維持するためには、食物という自然への畏敬の念を持ち、生命への尊厳が大切である。学問の発展は素晴らしいものがあるが、私たちは自然のなかで生きていることを再認識しなくてはいけない。	
2. 【カリキュラム上の位置づけ】 ヒトが生きているということ何を食して、自己の健康を維持するかを理解できる。	
3. 【学びの意義と目標】 ヒトの生きる力とは何なのかを理解するため、わかりやすい人体の構造と機能を中心に学び、栄養素と栄養の違いを学び、健康を維持するための栄養学を説明できる。さらに、自らの実生活に実践できることを理解できる。現代社会で起きている事象は、タイムリーに授業へ取り入れる。	
評価方法	
授業参加度20%、貢献度70%、平常点10%とし、総合的に評価する。 記述試験（ノート、授業内で配布したプリントの持込み可）	
教科書	
坂井堅太郎『基礎栄養学』化学同人 吉里勝利『最新図説生物』第一学習社	

生命の科学	春 週2回 4単位
担当者：近藤 雅雄	
講義の目標及び概要	
【内容】地球および生命の誕生から人間の誕生、成長、生涯を通して、地球と宇宙の恵みに感謝し、自然の営みを大切にすることを育て、人類の持続可能な発展をもたらす社会をつくるためにはどうしたらよいかを健康を中心として、わかりやすく展望します。	
【カリキュラム上の位置づけ】健全なところからだの働きのメカニズムを学び、地球市民として人類の健康と平和および地球環境の保全に貢献できる教養を身につけます。	
【学びの目標】生命の誕生、そして生体を構成する多くの細胞、組織、臓器およびそのネットワーク（生命系）の特有な現象および様々な機能を科学的に究明し、人類の発展に貢献するという、自然科学から人間・総合科学にまたがった広領域の分野です。今、地球環境問題、経済産業や社会保障の問題は、私たち人類の存続基盤にかかわる大きな問題となっています。人類が、いのちを大切にし、平和で健康な生活を営む中で、豊かさを味わい、心の安らぎを感じられる新たな社会システムの構築が望まれます。そこで、これからの社会を担う学生として、生命のしくみ、健康・病気の概念、こころの問題、生命倫理を理解し、平和で、健康的な生活を送るための方法及びそれに必要な生命科学の基本的知識を身につけます。	
評価方法	
学習意欲・受講態度（20%）、中間および期末試験（80%）によって評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

生命倫理学	春集中 2単位
担当者：香川 知晶	
講義の目標及び概要	
1. 内容 本講義では生命倫理学の基本的な考え方と問題を理解することを目標とする。そのために、生命倫理学で議論されてきた問題を背景にまでさかのぼって詳しく吟味し、さまざまな意見や立場を整理しながら、理解を深めることにする。	
2. カリキュラム上の位置づけ 生命倫理学の入門的な概説であり、現代における医療と社会について考えるための基礎のひとつである。	
3. 学びの意義と目標 さまざまな問題についてまず十分に理解することが目標となる。そうすることで、各自が自分自身の判断を下すための基礎が確保されるはずである。	
評価方法	
レポート40%、リアクションペーパー30%、出席30%	
教科書	
香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー・トゥエンティワン	

西洋音楽A	春 週1回 2単位
担当者：稲垣 俊也	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 私たち人間は本質的に「かかわる」存在です。それ故、人がなすことができるもっとも深い体験とは、他者との関係を築くことと云えましょう。古今東西、音楽はこの「かかわり」をより深く、広く実現するために用いられてきました。本講座では各時代の作曲家と音楽様式を学ぶと同時に、その様式を生み出すに至った文化的背景、歴史的背景を紐解いてゆきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけとします。</p> <p>3. 学びの意義と目標 「音楽様式」とは、彼の時代に音楽を留め置くものではなく、「今」にその音楽を生かす術（すべ）と云えましょう。歴史の淘汰を生き抜き「新しい今」を創り出す音楽の生命力を味わっていただきます。</p>	
評価方法	
出席点 25% 平常点 25% 試験 50%	
教科書	
授業の中で指示する	

西洋音楽B	秋 週1回 2単位
担当者：稲垣 俊也	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 私たち人間は本質的に「かかわる」存在です。それ故、人がなすことができる最も深い体験とは、他者との関係を築くことと云えましょう。古今東西、音楽はこの「かかわり」をより深く、広く実現するために用いられてきました。本講座では各時代の作曲家と音楽様式を学ぶと同時に、その様式を生み出すに至った文化的背景、歴史的背景を紐解いてゆきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけとします。</p> <p>3. 学びの意義と目標 「音楽様式」とは、彼の時代に音楽を留め置くものではなく、「今」にその音楽を生かす術（すべ）と云えましょう。歴史の淘汰を生き抜き「新しい今」を創り出す音楽の生命力を味わっていただきます。</p>	
評価方法	
出席点 25% 平常点 25% 試験 50%	
教科書	
授業の中で指示する	

西洋史	春 週2回 4単位
担当者：小田原 琳	
講義の目標及び概要	
<p>(1)内容 欧米文化を学ぶ上で必要不可欠な、西洋史概論です。西洋世界の変化を、事象相互の関連や現代とのつながりを意識しながら学んでいきます。</p> <p>毎回の授業で提出していただくレスポンスシート（講義内容の要約、疑問点等をまとめていただきます）、トピックごとの小レポートおよび期末レポートが課題となります。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 欧米の歴史や文化についての学習・研究の基礎となる、入門的な授業です。</p> <p>(3)学びの意義と目標 現代社会に生きる私たちは、さまざまな点で西洋文化から多大な影響を受けています。西洋史を学ぶことによって現代社会についての理解を深めることができます。そのための歴史的な基礎知識を着実に身につけることが目標です。</p>	
評価方法	
平常点（受講態度およびレスポンスシート）20%、小テスト40%、期末レポート（オンライン）40%	
教科書	
成瀬治他『山川世界史総合図録』山川出版社	

西洋史	春 秋 週2回 4単位
担当者：田中 史高	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 この科目では、古代から中世、近世、さらに近代、現代へと、年代を追ってヨーロッパ史上の重要な人物や事象を論じていきます。毎回、講義内容の概要と図版を載せたプリント（レジュメ）を配布します。また、なるべく毎時、視覚教材（ビデオ）を用いる予定です。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 西洋史の基本的な認識をつちかう序論的講義です。</p> <p>3. 学びの意義と内容 30回の講義は、毎回ことなるテーマを扱い、西洋史の基本的な流れがつかめるように配列してあります。</p>	
評価方法	
授業の出席点（25%）、毎回のまとめのレポート（25%）と、3回の小テスト（50%）を総合して評価します。	
教科書	
成瀬治他『山川世界史総合図録』山川出版社	

西洋史	春 秋 週2回 4単位
担当者：森 齊丈	
講義の目標及び概要	
1:内容 本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。 また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。	
2:カリキュラム上の位置づけ 西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかにして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。	
3:学びの意義と目標 ここの事項を細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。	
評価方法	
テスト(20%×3回)、授業内レポート(20%)、出席(20%)、を用いて総合的に評価する。	
教科書	
成瀬治他『世界史総合図録』山川出版社	

西洋史	秋 週2回 4単位
担当者：村瀬 天出夫	
講義の目標及び概要	
1:内容 本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。 また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。	
2:カリキュラム上の位置づけ 西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかにして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。	
3:学びの意義と目標 ここの事項を細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。	
評価方法	
テスト(20%×3回)、授業内レポート(20%)、出席(20%)、を用いて総合的に評価する。	
教科書	
成瀬治他『世界史総合図録』山川出版社	

西洋史概説A	春 週1回 2単位
担当者：和田 光司	
講義の目標及び概要	
1. 内容 本講義では、西洋史の中でも西洋古代・中世史を対象として、その中にあらわれる様々なトピックを時系列にとりあげ、個々の問題の概要だけでなく、ある程度専門的な議論を射程におさめた内容を紹介する。ただしトピックは時系列的な順序に従っているが、必ずしも網羅的ではない。そのため、西洋史の全体的な流れ、あるいは個々のトピックの位置づけを学ぶためには自分なりの学習が必須である。参考となる西洋史全体の概説書としては以下を挙げておく。 近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社、1999年	
2. カリキュラム上の位置づけ 西洋古代・中世史上の重要な問題をトピックとしてあつかうため、入門としての側面を持つが、内容が専門的な議論におよぶこともあるため、入門よりやや踏み込んだ個別研究の側面も持つ。	
3. 学びの目標 西洋中世・古代史上の諸問題をある程度掘り下げて理解するとともに、複眼的な歴史学的視野を養うことを目標としたい。	
評価方法	
学期末の試験で評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

西洋史概説B	秋 週1回 2単位
担当者：和田 光司	
講義の目標及び概要	
1. 内容 本講義では、西洋史の中でも西洋近世史を対象として、その中にあらわれる様々なトピックを時系列にとりあげ、個々の問題の概要だけでなく、ある程度専門的な議論を射程におさめた内容を紹介する。ただしトピックは時系列的な順序に従っているが、必ずしも網羅的ではない。そのため、西洋史の全体的な流れ、あるいは個々のトピックの位置づけを学ぶためには自分なりの学習が必須である。参考となる西洋史全体の概説書としては以下を挙げておく。 近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社、1999年	
2. カリキュラム上の位置づけ 西洋近世史上の重要な問題をトピックとしてあつかうため、入門としての側面を持つが、内容が専門的な議論におよぶこともあるため、入門よりやや踏み込んだ個別研究の側面も持つ。	
3. 学びの目標 西洋近世史上の諸問題をある程度掘り下げて理解するとともに、複眼的な歴史学的視野を養うことを目標としたい。	
評価方法	
学期末の試験で評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

西洋思想史	秋 週2回 4単位
担当者：原 一子	
講義の目標及び概要	
(1) 内容 本講義では古代から現代に至るヨーロッパの重要な考え方を、時代背景を踏まえながら平易に解説する。原典資料により思想家たちの生の声にも触れながら、それぞれの時代の思想が現代の私たち自身の生き方とどんな関わりを持つものかも考えてゆく。	
(2) (カリキュラム上の位置づけ) 欧米文化学科の専門科目「哲学・思想」に属する科目である。	
(3) 学びの意義と目標 ヨーロッパ文化を学ぶ者にとっては、その根底にある思想の歴史を学ぶことはぜひとも必要なことである。各時代に何が問題となり、また何が次の時代への課題として引き継がれたか、思想がその時代の政治、経済、宗教、芸術などいかに関わっているかを理解することが本講義の目標である。そしてそれを常に現在の自分に引き付けて考えることは、自己の生き方を問う上でも有効である。	
評価方法	
学期末試験を筆記試験にするかレポートにするかは受講者数によって決める。試験またはレポートの成績(50%)、授業中の発表・課題の習得度(20%)、出席率(30%)などから総合的に評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

西洋美術史	春 週2回 4単位
担当者：瀧井 直子	
講義の目標及び概要	
(1) 講義の内容 本講義では、古代ギリシアから20世紀までの西洋美術を時代にそって見ていきます。対象とする地域はヨーロッパと北アメリカ、また取り上げる美術は絵画だけでなく、彫刻、建築、装飾美術など多岐にわたります。講義は具体的な作品に焦点をあてながら進め、美術の作り手と受け手、作品の形態、作品が作られた時代の社会や文化背景などの諸問題について考察します。	
(2) カリキュラム上の位置づけ 1年生から対象としています。2年生から履修可能となる文化系の演習の準備ともなりうる科目です。本講義は資格用の科目ではありません。	
(3) 学びの意義と目標 西洋美術の歴史を学ぶことを通して、今後各自の専門的関心を深めるための基礎を養うことができます。様々な美術作品に親しむと同時に、その背後に宿っているメッセージを読み解く力を身につけましょう。なお、教科書以外に高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』(美術出版社)も参考にしてください。	
評価方法	
出席(出席状況と授業態度、講義中に課すリアクション・シートの内容)40%、中間試験30%、期末試験30%	
教科書	
泉谷淑夫『美との対話—鑑賞への誘い—』日本文教出版株式会社	

生理心理学—心と身体の科学—	秋 週2回 4単位
担当者：小川 時洋	
講義の目標及び概要	
1. 内容 本講義では、最初に様々な精神活動の基盤となる神経の働きや脳の構造、生理心理学の基本的な概念について解説する。その後、ストレスや感情、さらにはいわゆるウソ発見などを通して、心が身体に与える影響やその知識の応用例について学ぶ。その後、睡眠や食行動、知覚・記憶・学習のような、基本的な行動や心の働きについて学ぶ。	
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎総合科目であるため、生理心理学の中でも基本的な内容について紹介する。	
3. 学びの意義と目標 21世紀は「脳の世紀」とも呼ばれている。こころの働きの多くを担うと考えられている脳をめぐる研究の発展が社会に与える影響は、今後ますます増大すると考えられ、脳や神経のはたらきに関する知識・理解は、現代社会で生きてゆく上で必要不可欠な教養になるであろう。本科目では、その基礎となる知識を身に付けられるようにしたい。	
評価方法	
(1)出席(20%)、(2)各回の講義内容のまとめと学術的な感想(60%)、(3)読書レポート(20%)の合計で評価します。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。	
教科書	
プリントを配布する	

世界のこども	春 週1回 2単位
担当者：寺崎 恵子	
講義の目標及び概要	
1 内容 こどもは、やがておとなになる。その過程には文化が関わっている。こどもの生活世界は、その国や地域の歴史や政治・経済、そして風土に多大に影響される。世界のこどもたちがどのような状況を生きているのかを学ぶ。	
2 カリキュラム上の位置づけ こども心理学科の学生を対象として開講される科目である。こども理解の基本を文化の観点から学ぶためにある。	
3 学びの意義と目標 こどもの生き方は、時代によって、また住んでいる場によってさまざまである。とはいえ、多様なこどもの生活世界をありようについて学ぶなかで「こどもであること」の共通点が見出せるのではないだろうか。その共通点をこども理解の基本として学びたい。	
評価方法	
小レポート(5点×14回=70点)と期末課題(30点)とを総合して評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 (Pop Culture) I	秋 週1回 1単位
担当者: K. O. アンダスン	
講義の目標及び概要	
<p>1、内容:このゼミでは、外国の映画を通してその国の文化を学ぶ。13本の短編映画(日本語字幕付き)を鑑賞する。フランス映画3本、イタリア映画1本、イギリス映画6本、カナダ映画2本、日本映画1本。エ以外について反す時に用いられる語彙を学びいくつかの短い映画評論を読む。映画の登場人物、映画撮影法、ストーリーが繰り広げられている場所や映画のテーマなどについて検証する。映画のストーリーと自分の経験などを重ね合わせ話し合う。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ:現代の外国文化を学ぶ。2011年度春学期には、Casablanca, The Third Man and Roman Holiday を教科書を用いて学ぶ。</p> <p>3、学びの意義と目標:外国映画を通して、他国の文化を学ぶ。</p>	
評価方法	
出席 10% 小テスト結果 30% 宿題(レポート)提出結果 30% 期末試験結果 30%	
教科書	
Hiromi Akimoto / Mayumi Hamada 『Casablanca: Cool and Unforgettable English』 Macmillan Language House Mayumi Hamada, Hiromi Akimoto 『Roman Holiday』 Macmillan Language House	

専門演習 (Pop Culture) II	春 週1回 1単位
担当者: K. O. アンダスン	
講義の目標及び概要	
このゼミは2011年度秋学期、専門演習 (Pop Culture) I の継続授業である。	
評価方法	
出席 10% 小テスト結果 30% 宿題(レポート)提出結果 30% 期末試験結果 30%	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習(アイデンティティの社会学)	春 週2回 2単位
担当者: 横山 寿世理	
講義の目標及び概要	
<p>1、内容 自己アイデンティティについての社会的意識を中心に扱う。より具体的には、その社会的意識についての課題文をわかりやすくまとめ直して、他の学生の前で報告して、質問を受け、回答するというゼミ形式で進める。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科3年次春学期開講の演習科目であり、この演習を修得しないと秋学期の卒業研究(アイデンティティの社会学)が履修できない。</p> <p>3、学びの意義と目標 この演習では、自己アイデンティティに関する社会的意識について社会的に考察することを目標とする。アイデンティティという概念と、これらの概念が社会や人びとのどのような考え方から形成されるのかについて理解することは異なるので、後者が現代的アイデンティティが現代社会や社会意識を理解するための一つの指標となり得ることに気付いて欲しい。そして、その指標を検証するために、秋学期の卒業研究において社会調査を実施することにしたい。</p>	
評価方法	
演習で与えられた課題への取り組み(40%)と、演習内での態度(課題の報告、他の学生による報告への貢献、演習の運営態度)(60%)によって評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(アメリカ文化) I	秋 週1回 1単位
担当者: 柴田 史子	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容 “アメリカ合衆国は”nation of joiners”(グループに加入する人々によって創られた国)であると言われる。本演習では、アメリカ社会の礎となった集団、運動、クラブについて学ぶことを通して、アメリカ社会・アメリカ文化、そして現代社会のあり方を多面的、立体的に捉えていく。テキストは日本語と英語(プリントを配付)を併用し、テキストの要約、翻訳や発表を行なう。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ 3年次秋学期の卒業研究まで続く必修の演習科目の最初の科目である。</p> <p>◆学びの意義と目標 1年半の演習科目を通して、日本語・英語の文献を読む力、自分で問題を発見・設定する力、レポートを書く力、発表しディスカッションする力といった社会人に必要な基本的な力を身につけることを目指す。その第一歩として本演習では、英語の基礎を学びなおすことと、情報収集と収集した情報の分析に重点を置く。</p>	
評価方法	
出席(60%)、ゼミ発表(20%)、提出物(20%)で評価する。期末テストは実施しない。	
教科書	
綾部恒雄『クラブが創った国アメリカ』山川出版社	

専門演習(アメリカ文化)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：柴田 史子	
講義の目標及び概要	
◆内容 アメリカ合衆国は”nation of joiners”(グループに加入する人々によって創られた国)であると言われる。本演習では、アメリカ社会の礎となった集団、運動、クラブについて学ぶことを通して、アメリカ社会・アメリカ文化、そして現代社会のあり方を多面的、立体的に捉えていく。テキストは日本語と英語(プリントを配付)を併用し、各回担当者を決めてテキストの要約、翻訳や発表を行なう。	
◆カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰで習得したことを発展させ、卒業研究の準備をする演習である。	
◆学びの意義と目標 1年半の演習科目を通して、日本語・英語の文献を読む力、自分で問題を発見・設定する力、レポートを書く力、発表しディスカッションする力といった社会人に必要な基本的な力を身につけることを目指す。特に本演習では、問題発見と論理構成の訓練を行なう。	
評価方法 出席(60%)、ゼミ発表(20%)、提出物(20%)で評価する。期末テストは実施しない。	
教科書 綾部恒雄『クラブが創った国アメリカ』山川出版社	

専門演習(異文化間教育Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：佐藤 千瀬	
講義の目標及び概要	
1. 内容 「異文化間教育」とは、「2つ以上の文化の狭間で生活する人を対象にして、その人間形成や発達について、他者との関係性を通して把握すること」であり、その教育を考えるものである。具体例として、日本に住む外国人の子ども、海外に住む日本人の子ども、国際結婚の子どもを対象とした研究が挙げられる。本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のある基礎文献を講読し、発表とディスカッションを行う。また、世界の保育・教育や現状にも目を向け、多様な保育・教育方法や各国の課題を、体験や映像を含めて学ぶ。	
2. カリキュラム上の位置づけ 2年次の選択必修であり、2年間にわたる最初の基礎ゼミである。	
3. 学びの意義と目標 ・基礎文献の講読方法及び文献の収集方法、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。 ・日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みに気づき、多角的に考える。	
評価方法 平常点 40% レポート 15% 発表 45%	
教科書 プリントを配布する	

専門演習(異文化間教育Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：佐藤 千瀬	
講義の目標及び概要	
1. 内容 本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のあるテーマを見つけ、文献を講読し、発表とディスカッションを行う。	
2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科専門科目で、「専門演習(異文化間教育Ⅰ)」に続く、3年次の選択必修科目である。	
3. 学びの意義と目標 「専門演習(異文化間教育Ⅰ)」での学びを受けて、さらにそれを深め発展させることが最大のねらいである。 ・文献リストの作成方法、文献の講読方法及びまとめ方、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。 ・各自の関心のあるテーマとともに、日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みを広げ、多角的に考える	
評価方法 平常点40% 発表40% レポート20%	
教科書 プリントを配布する	

専門演習(英語学)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：加曾利 実	
講義の目標及び概要	
◆内容◆ 専門演習(英語学)Ⅰを踏まえて、言語と人間との関係、及びその本質に係わる諸問題について考えて行きます。テキストを輪読しながら、英語の読解力を養成します。専門演習(英語学)Ⅰで、熱心に英語基礎力を身につけた学生は、専門演習(英語学)Ⅱで英文専門書が読めるようになります。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 主として英語学に関心のある学生を望みます。例年、専門演習(英語学)Ⅱでは、「言語習得理論」がテーマになっています。	
◆学びの意義と目標◆ やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、様々な問題について、議論を深化させていきたいと思っています。更に、希望者がいれば、英語学との関連から、比較文化論などについても扱います。	
評価方法 1. 予習・復習の実行度(10%) 2. レポートの成績(20%) 3. 定期試験の成績(70%) 出席については、学生要覧を参照のこと	
教科書 Sheila Chevallier『First Steps to Linguistics』三修社	

専門演習(英米文学)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者: 氏家 理恵				
講義の目標及び概要				
<p>(内容)</p> <p>C. S. ルイスのファンタジー『ナルニア国年代記』の第1作『ライオンと魔女』を読む。前半は訳読、後半は発表とディスカッション形式ですすめる。事前に決めた担当者に分担部分についてのまとめ・解説・情報・コメントなどを発表してもらい、その後は発表を受けてのディスカッションとなる。この作品の背景にあるイギリスの歴史・社会・文化について知も考察し、さらには、映画作品との比較を通して、文学と映像という芸術分野・メディアの違いも確認する予定である。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>この科目はこれから2年間にわたる(ゼミ)の最初のものである。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>作品の分析方法を学ぶと同時に、作品を題材とした発表の仕方・レジユメの書き方・レポートの書き方などを身につけることも目的とする。文学作品を原書で読む楽しさを知るとともに、物語の「読み方」を学んでほしい。また、ディスカッションを通して自分の意見を積極的に発言することに慣れてほしい。</p>				
評価方法				
<p>1. 平常点 30%</p> <p>2. 課題 10%</p> <p>3. 発表(レジユメ作成含む) 30%</p> <p>4. 期末レポート30%</p> <p>なお、レポートはオンライン提出とする。</p>				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習(英米文学)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者: 氏家 理恵				
講義の目標及び概要				
<p>(内容)</p> <p>前半は「専門演習Ⅰ」で作成したレポートの合評会、後半は「専門演習Ⅱ」に引き続き『ライオンと魔女』を読む。後半は事前に決めた担当者による発表と、発表を受けてのディスカッションですすめる。担当者は内容のまとめ・調べてきたこと・分析・コメントをレジユメを作成した上で発表する。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>この科目は2年間続くゼミの一環である。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>「専門演習Ⅰ」では、原文で作品を鑑賞しながらレジユメの作り方や発表の仕方を学んだが、Ⅱではさらに調べ物の仕方、引用の仕方、論理的な文章の書き方を学ぶ。特にレポートについては、専門演習Ⅰで作成したレポートを合評しあうことで、レポートを書くコツ・読むコツを知り、アウトラインの組み立てや説得力のある文章・表現に慣れるようにする。また、文学作品を通してイギリスの歴史・社会・文化についての知識を深めることも目標とする。</p>				
評価方法				
<p>1. 平常点 30%</p> <p>2. 課題 20%</p> <p>3. 発表(レジユメ作成含む) 30%</p> <p>4. 期末レポート20%</p>				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習(音楽創造論Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者: 村山 順吉				
講義の目標及び概要				
<p>「専門演習(音楽創造論Ⅰ)」での学びを受けて、さらにそれを深め発展させることが、最大のねらいである。</p> <p>特に「専門演習(音楽創造論Ⅰ)」で経験してきた様々な実践を踏まえたうえで、各自の卒業研究に繋がるものとしての研究テーマの検討、またそれに則した創造的音楽実践のプログラムの立案が中心となる。</p>				
評価方法				
授業態度と出席状況及びレポート。				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習(外国語教授法)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者: 長崎 睦子				
講義の目標及び概要				
<p>1. 内容</p> <p>外国語教育、第二言語習得研究の分野は1960年代後半から急速に発展してきたものであるが、現在その研究領域は多岐に渡る。第二言語を取り扱う性格上、複雑ではあるが、非常にダイナミックで勢いのある研究分野である。まずは、演習を通して基本的な文献を読み、外国語を身につけるとはどういうことなのかを考察していく。さらに、第二言語習得理論やこれまでの研究結果などから、各自が効果的な外国語学習法、指導方法を考えていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>欧米文化学科専門科目群の演習科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>外国語教育、第二言語習得研究に関する文献を通して基礎的な知識を得る。さらに活発なディスカッションを通して、この分野の様々な研究領域の中で、自分の興味のある研究課題を見つけていく。プレゼンテーションやレジユメの書き方も学ぶ。</p>				
評価方法				
平常点(出席や授業への貢献度など)(30%)、プレゼンテーション(20%)、プレゼンテーションのレジユメ(10%)、レポート(20%)、輪読(20%)(*評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業で説明するので確認すること。)				
教科書				
<p>白井恭弘『外国語学習に成功する人、しない人—第二言語習得論への招待』岩波書店</p> <p>白井恭弘『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』岩波新書</p>				

専門演習(外国語教授法)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：長崎 睦子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 専門演習Ⅰに引き続き基本的な文献を読み、外国語教育、第二言語習得に関する知識・知見をさらに広げ深めていく。またこの分野の様々なテーマに関するディスカッションやプレゼンテーション、ブック・レビューを通して、主体的かつ積極的に学問に取り組む。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 外国語教育、第二言語習得に関する文献を通して基礎的な知識を得る。さらに活発なディスカッションを通して、この分野の様々な研究領域の中で、自分の興味のある研究課題を見つけ、卒業研究へとつなげる。</p>	
評価方法	
平常点(出席や授業への取り組み)30%、プレゼンテーション35%(=レジュメ10%+発表25%)Book Review 35%(=発表10%+レポート25%) *評価内容は変更する場合がある。その場合は、授業にて説明をするので確認すること。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(カウンセリング論)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：長谷川 恵美子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 心理学など、「ひと」に関する研究テーマの中で、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法の基礎を身につけることを目的としている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰ⇒専門演習Ⅱ⇒卒業研究 の順に履修する必修科目である。)</p> <p>3. 学びの目標 心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献講読、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。</p>	
評価方法	
発表内容、授業への貢献度、課題レポート	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(カウンセリング論)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：長谷川 恵美子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 心理学など、「ひと」に関する研究テーマの卒業研究をひかえ、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法を身につけることを目的としている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰを履修後、専門演習Ⅱ⇒卒業研究 の順に履修する必修科目である。)</p> <p>3. 学びの目標 心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献講読、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。</p>	
評価方法	
報告発表、学期末課題レポート	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(学習・教育心理学)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：小山 義徳	
講義の目標及び概要	
<p>【内容】人間の学びや、人がスキルを獲得するプロセスについて研究を行います。例えば研究テーマとしては、英単語を覚えるのにどうすれば良く覚えられるのか、分かりやすい文章を書くにはどうすれば良いのかなどが考えられます。しかし、学びとは学校における勉強に限りません。スポーツにおけるトレーニング方法の開発(100mを速く走るにはどのようなトレーニングが有効か)や、バイト先における仕事への熟達化なども研究テーマになります。幅広く、「人の学び」を扱います。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 人間福祉学科専門科目の2年間のゼミの基礎段階にあたります。</p> <p>【学びの意義と目標】 最初は、何をテーマに研究を進めれば良いのか分からないと思います。しかし、自分の意見を他のゼミ生に話し、コメントをもらい、時にはぶつかり合うことで、自分ひとりでは思いつかないアイデアを得ることができます。他者とのコミュニケーションが重要になります。本、新聞、自分の日常に目を向けて、まずは、「人の学び」の中でも、自分が特に何に興味があるのかに気づくことが目標となります。</p>	
評価方法	
出席、発表内容を総合して評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(学習・教育心理学)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：小山 義徳	
講義の目標及び概要	
問いの立て方及び、良い問いとは何かを議論する。また、文献購読、演習やディスカッションを通して、自分が興味があるテーマを絞る。	
評価方法	
出席を重視する。発表内容、レポート等の評価を含めて成績評価を行う。	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習(環境保全論)	春 週2回 2単位
担当者：村上 公久	
講義の目標及び概要	
1. 内容 環境史概観 この演習では先ず、システム“人間—環境”系の考察を中心に環境史を概観して、環境問題をめぐる理念の変遷を資料により学び、古代から近代まで(地中海文明から近代合理主義まで)の環境論の変遷を辿る。 次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、特に事例研究のテーマに「北米の森林史における森林保護思想と実践」を選び、自然保護と環境保全という立場の違いの検討を手がかりに21世紀の人類の課題 Sustainable Development 保続的(持続的)開発(地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』)の可能性を探る。	
2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目「環境保全論」で学んだ内容を事例研究を中心に展開する演習科目。	
3. 学びの意義と目標 環境問題の事例研究を通じて、解決への実際的な方途について学ぶ。	
評価方法	
出席状況、討論によるクラスへの貢献、レポートを総合的に評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習(教育文化論Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：寺崎 恵子	
講義の目標及び概要	
1 内容 ルソーの『エミール』を読み解く。彼は「誕生とともに私たちは学びはじめる。私たちの教育は私たちとともに始まる」と述べている。18世紀に書かれたこの作品を読むことによって著者と対話し、私たちが教育を通じて人間として生きていることを確認する。	
2 カリキュラム上の位置づけ 児童学科2年生を対象に開講される専門演習(ゼミナール)である。	
3 学びの意義と目標 教育学の基本文献を読むことを通じて、各受講生の教育観や子ども観を確認する。また、ゼミの仲間とディスカッションする力を養う。	
評価方法	
報告(5点×13回=65点)と期末課題(35点)とを総合して評価する。	
教科書	
授業の中で指示する ルソー/今野一雄『エミール(上)』岩波書店(文庫)	

専門演習(教育文化論Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：寺崎 恵子	
講義の目標及び概要	
1 内容 子育てと昔話との関連について研究する。昔話は、それを聞いてたのしむためのものであるだけでなく、生きていくうえでのわざや知恵が年長者から口伝されるものでもある。昔話の構造を分析することによって、わざや知恵が伝承されるありようについて考察する。	
2 カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰに引き続いて開講される専門演習(ゼミナール)である。前演習の発展的研究をおこなうものである。	
3 学びの意義と目標 文献精読を通じて基本的な研究方法を学ぶ。各受講生がその方法を次の卒業研究に応用できるようにしたい。また、報告の工夫についても学ぶ。	
評価方法	
研究進展状況報告(5点×12回=60点)と期末課題(40点)とを総合して評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(キリスト教社会倫理)	春 週2回 2単位
担当者：山口 博	
講義の目標及び概要	
<p>本演習では、各自が今日にいたる生涯の中で、最も興味のあるテーマを選び、その内容を客観的、学的に解析した後、キリスト教社会倫理の立場から分析し、内的な洞察 (analysis reflection) を加えるものとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生諸子の個性と創造性を大切にしながら、問題に取り組む意欲を育む。 ・あらゆる方法で文献に当たり資料を収集していく。 ・コンピューターを道具としてインターネットの活用していく。 ・各自の興味あるテーマについて自由討論を行う。 ・輪番で発表してもらい、各レポートをワープロ文書として蓄積していく。 	
評価方法	
出席状況、授業態度、発表の内容や授業参加の積極性等で、総合的判断をする。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(金融市場論)	春 週2回 2単位
担当者：柴田 武男	
講義の目標及び概要	
<p>専門演習(金融市場論)では、できるだけゼミ生の問題意識に沿って講義を行いたい。同時に現在何が起きているのかをまず一緒に学習したい。金融市場は日々大きく変化している。ギリシャの国債問題からユーロ危機へ、日本の国債市場はどうなるのか、また、オリンパスをはじめとする日本企業の不祥事はどうなっているのか、それら現代的課題を学ぶ。具体的には、新聞・経済雑誌から関心のある記事コピーを用意して、その内容について教員・ゼミ生で議論していく。さらにそこから生ずる問題を担当者がレポートしていくという形式で行う。『週刊エコノミスト』『週刊東洋経済』『週刊ダイヤモンド』などの有力経済誌の特集テーマを取り上げたい。近年では、「郵政民営化の是非」「中日貿易の変遷」「中小企業と高齢化社会」「インターネット取引の手法」「電子マネーの現状と課題」などがテーマとして取り上げられた。また専門演習は卒業研究レポートに結びつくものであるからテーマに対する問題意識の涵養を目標とする。はじめに、教員がゼミの進め方を解説し、その後はそれに沿ってゼミ生が関心のあるトピックをレポートしていく。</p>	
評価方法	
評価は、出席点(単にゼミの時間に存在したと言うことではなく、議論に参加したという意味で50%)とまとめのレポート(50%)。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(経営管理)	春 週2回 2単位
担当者：後藤 兼一	
講義の目標及び概要	
<p>講義の目標:マネジメント又は経営管理で学習した内容をさらに発展させることが本演習の目的です。マネジメント及び経営管理に関心のある人、将来親の会社を継ぐかも知れないと思っている人を対象とする。講義では自分の目で見、自分の頭で考え、自分の体で行動するという態度を大切にします。そして、マネジメント及び経営管理の必要性を実感することを演習の目標とします。</p> <p>講義の概要:経営管理の現場をどのように分析・把握したらよいか、経営管理の問題・課題などをどのように整理したらよいか、そして経営管理の改革案・改善案をどのようにして立てればよいか、さらにどのように実施して行けばよいかなどについて、実例をもとにわかりやすく勉強する。演習の特徴は、経営管理で使われている、用語を比較する形で行われるところにある。</p>	
評価方法	
専門ゼミでは演習を進めると同時に、学生同士及び教員との親睦をはかることも大切にしている。学期末定期試験はない。従って評価は出席状況40%とレポート60%を総合して決める。	
教科書	
プリントを配布する 松下 幸之助『道をひらく』PHP研究所	

専門演習(言語と社会) I	秋 週1回 1単位
担当者：D. バーガー	
講義の目標及び概要	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 内容:この演習では言語と社会に関するいくつかの研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語と社会」と並行するが、専門演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、Ⅱではこの調べを続けるので、各課題をより深く追求することができる。専門演習Ⅰでは、『言語学的に言えば——ことばにまつわる「常識」をくつがえす』(原作『Language Myths』)から選択された章を読み、話し合い、言語に関する神話(誤った通念)や思い違いに焦点が当てられる。「言語」と「社会」を人間の普遍的な現象として受け止め、また、特定の「言語」や「社会」を取り上げ、比較する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。 2. カリキュラム上の位置づけ:専門演習Ⅰは最初の演習で、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。 3. 学びの目標:この演習の目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、この演習は受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。演習の言語(日本語または英語)は受講生が決める。従って、英語に強い関心を持っている学生にとってこの演習は興味深いであろう。 	
評価方法	
15% 授業への出席; 15% 授業での参加態度; 20% 各章についての要約、独自の研究レポート; 10% その口頭発表; 25% 専門演習Ⅰ最終研究レポート; 15% その口頭発表	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習(言語と社会)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者: D. バーガー			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容: この演習では言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語と社会」と並行するが、専門演習Ⅰと同様に、より深く追求することができる。専門演習Ⅱでは、方言と標準語という言語変種、またはなまりについて研究する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生はそれぞれの課題を研究し、研究発表をすることが求められている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ: 専門演習Ⅱは専門演習Ⅰの続きで、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。</p> <p>3. 学びの目標: この演習の目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、この演習は受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。</p>			
評価方法			
15% 授業への出席; 15% 授業での参加態度; 20% 各課題についての独自の研究レポート; 10% その口頭発表; 25% 専門演習Ⅱ最終研究レポート; 15% その口頭発表			
教科書			
プリントを配布する			

専門演習(現代ヨーロッパ事情)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者: 佐藤 啓介			
講義の目標及び概要			
<p>1) 内容</p> <p>現代ヨーロッパの諸問題を学びつつ、その社会(政治、企業の理念など)や文化(製品デザイン、景観など)を形成している考え方や価値観について、日本語のテキスト講読を通して理解を深める演習です。各回担当者を決め、要約や発表をおこないます。取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決めます。専門演習Ⅰでは主に、20世紀ヨーロッパの製品と都市のデザイン、およびその背後にある思想を扱います。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>欧米文化学科専門科目の選択必修科目であり、2年間のゼミの基礎段階にあたります。</p> <p>3) 学びの意義と目標</p> <p>ゆっくりでよいので、専門的に書かれた日本語の文章を自分の言葉で平易に置きかえながら読めるようになることが目標です。また、そこで書かれたことに基づいて、自分なりの考えを他の人に分かるように発言し、相手の発言を受けて議論できるようになることも目標です。ゼミ2年間かけて、現代のヨーロッパの社会や文化の一端を理解・分析できるグローバルな職業人になることを目指し、この科目はその土台作りに相当します。</p>			
評価方法			
発表点(40%)、討論への参加度(20%)、学期末レポート(20%)、出席点(20%)			
教科書			
授業の中で指示する			

専門演習(現代ヨーロッパ事情)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者: 佐藤 啓介			
講義の目標及び概要			
<p>1) 内容</p> <p>専門演習Ⅰに続き、現代ヨーロッパの社会や文化を形成している考え方や価値観について、日本語のテキスト講読を通して理解を深める演習です。演習Ⅰでは美的価値が主題だったのに対し、演習Ⅱでは倫理的価値を主題とします。各回ごとに担当者を決め、翻訳や発表、参加者同士の議論をおこないます。取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決めます。また、後半では、特定のテーマを選んで研究を行ない、その成果を発表してもらいます。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>欧米文化学科の専門科目としての選択必修科目であり、ゼミの基礎段階にあたります。</p> <p>3) 学びの意義と目標</p> <p>専門的な文章を自分の言葉で平易に置きかえながら読む力を磨き、それに基づいて、自分なりの考えを他の人に分かるように発言し、相手の発言を受けて議論できるようになることも目標です。ゼミ2年間かけて、現代のヨーロッパの社会や文化の一端を理解・分析できるグローバルな職業人になることを目指し、この科目はその土台作りに相当します。</p>			
評価方法			
発表点(60%)、討論への参加度(20%)、出席点(20%)			
教科書			
プリントを配布する			

専門演習(高齢者福祉論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者: 古谷野 亘			
講義の目標及び概要			
<p>高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。</p>			
評価方法			
平常点(ゼミへの貢献度)			
教科書			
古谷野亘・安藤孝敏『改訂 新社会老年学: シニアライフのゆくえ』ワールドプランニング			

専門演習(高齢者福祉論)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：古谷野 亘	
講義の目標及び概要 高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。	
評価方法 平常点（ゼミへの貢献度）	
教科書 授業の中で指示する	

専門演習(国際政治論)	春 週2回 2単位
担当者：秋吉 祐子	
講義の目標及び概要 〈内容〉地球上の人間の存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において共通な国際的課題を分析・考察する。授業メインメニューは1. 共通認識を持つための指定教科書の輪読と自主研究のプレゼンテーション（プレゼン）、それらに基づく質疑・応答、討論。2. 上記世界観関連のテーマのディベート。3. レポート類作成（輪読レポート・自主研究論文、フロアーの評価レポート等）である。適時に講義・VTR活用授業を行う。4. 体験学習の意義に鑑み:i中心テーマである食・農業の体験合宿:米作り（田植え）を行う。ii大学行事参加（アッセンブリーアワー支援）もあり得る。各授業のメニューや課題等の双方向通信はNet Commonsを用いる。 〈カリキュラム上の位置づけ〉国際政治学系の専門演習である。 〈学びの意義と目標〉1. 人間社会の根本的在り方を模索する。2. 受講生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 実社会でも有効な様々な能力・スキルを育成する。（AO・AV機器を活用した様々な形態の発表・発言能力と技術力の育成を含む。）	
評価方法 評価項目 プレゼン・レジュメ・司会・質疑/応答・討論・ディベート・レポート等60%、体験学習30%および授業態度10% 但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。	
教科書 授業の中で指示する レスター ブラウン 『プランB4.0』 ワールドウオッチジャパン	

専門演習(子ども家庭論)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：中谷 茂一	
講義の目標及び概要 目標:演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかることを目標とする。 概要:履修者の興味関心に基づき、児童福祉に関連するテーマをいくつか自分で設定し、学生による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員による補足をする。テーマ設定は自由だが、家族社会学関連領域、子ども虐待・ネグレクトに関連する内容が望ましい。 個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。 ※講義科目の「家族社会学（中谷担当）」を履修済みまたは同時履修すること。	
評価方法 (1)発表内容 (2)ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。	
教科書 岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む 家族（改訂版）』有斐閣 山縣文治・柏女霊峰 編『社会福祉用語辞典』ミネルヴァ書房	

専門演習(子ども家庭論)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：中谷 茂一	
講義の目標及び概要 目標:専門演習Ⅱにおける発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に発表レジュメの質を高めることも目標とする。 概要:自己の興味関心に基づいて設定したテーマについて学生個人による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。 個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティアなどから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。 ※講義科目の「家族社会学（中谷担当）」を履修済みまたは同時履修すること。	
評価方法 (1)ディスカッション参加状況 (2)発表内容 (2)演習レポート内容 上記の総合評価による。	
教科書 授業の中で指示する	

専門演習(コミュニティ政策)		春	週2回	2単位
担当者: 国分 道雄				
講義の目標及び概要				
(内容) 本演習では、コミュニティ政策に関する諸問題について学ぶ。テキストをもとに、各自が関心のある課題について自由に報告・議論する。その上で、さらに深めたいと思った課題を選び、調査・報告する。 (カリキュラム上の位置づけ) コミュニティ政策学科の専門科目で、選択必修の演習科目である。専門知識の基礎を学び、「卒業研究」の準備とする。 (学びの意義と目標) コミュニティ政策について理解を深め、各自の問題関心のある領域で一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。				
評価方法				
ゼミへの参加状況(出席、質問・討論の積極性、発表の完成度)50%と期末レポート50%				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習(算数 I)		秋	週1回	1単位
担当者: 佐藤 逸子				
講義の目標及び概要				
(内容) 算数の数・量の指導を中心に、子どものつまずきの原因と解決方法を探る。立体図形のみえる力を補強していく。数学では論理を正しく発展させる必要があり、その技法も体験を通して学ぶ。 (カリキュラム上の位置づけ) 小学校教員を目指す学生を対象とする (学びの意義と目標) 算数にとどまらず、数学の知識と論理性を身につけることを目標とする				
評価方法				
研究発表・課題レポートの内容・討論の参加度を総合して評価する。毎回の出席が前提となる。				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習(算数 II)		春	週1回	1単位
担当者: 佐藤 逸子				
講義の目標及び概要				
専門演習(算数I)の内容を発展させて、論理的思考を深めていく。折り紙その他の立体教材を用いて、立体感覚を養う。数学の基礎知識を増やし、発表を通して、論理的な展開の習熟を目標とする。				
評価方法				
研究発表・レポートの内容・討論の参加度を総合的に評価する。毎回の出席が前提となる。				
教科書				
石橋康徳『算数学』日本評論社				

専門演習(児童英語教育) I		秋	週1回	1単位								
担当者: 東 仁美												
講義の目標及び概要												
1. 内容 小学校での外国語活動必修化が決まり、早期英語教育に対する関心が高まっている。 専門演習Iでは、入門書を読み合わせしながら、児童英語教育の理論と実践を学んでいく。 英語教育への興味を高めるために、小学校英語に限らず、幼稚園、民間の英語教室、中高の英語の授業の見学などのフィールドワークの課題を課す。 また、小グループで英語学習のテーマを決め、自らを学習者のサンプルとしてプロジェクトを遂行することを通して、効果的な英語学習法を考察していく。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。 3. 学びの意義と目標 児童英語教育の基礎的な資料を読み、自分の興味分野への知的好奇心を高めていく。また、プレゼンテーションやグループディスカッションの力もつけていく。												
評価方法												
<table border="0"> <tr> <td>授業への出席、参加</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>学期末課題</td> <td>20%</td> </tr> </table>					授業への出席、参加	20%	プレゼンテーション	30%	レポート	30%	学期末課題	20%
授業への出席、参加	20%											
プレゼンテーション	30%											
レポート	30%											
学期末課題	20%											
教科書												
Mary Slattery & Jane Willis 著 外山節子 監訳 『子ども英語指導ハンドブック』旺文社												

専門演習(児童英語教育)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：東 仁美	
講義の目標及び概要	
<p>文献の読み合わせをしながら、子どもが英語を学ぶことを理論と実践の両面から考えていく。</p> <p>授業は担当者による発表と活動の紹介の形で進める。発表者はレジメを準備し、事前に決められた分担部分についてのまとめ、解説を行なう。</p> <p>専門演習Ⅰに引き続き、小学校現場、幼稚園、民間の英語教室及び中高の英語科の授業を見学するフィールドワークも課題として行い、見学した授業の内容を授業の中でフィードバックしていく。</p> <p>学期中に各自興味のある文献を一冊読み、ブックレビューをまとめる。ブックレビュー集を作成することにより、英語教育の様々な分野の情報交換をし、卒業研究のテーマ決定の題材としていく。</p>	
評価方法	
授業への出席、参加	20%
プレゼンテーション	30%
レポート	30%
学期末課題	20%
教科書	
アレン玉井光江『小学校英語の教育法 理論と実践』大修館書店	

専門演習(児童学Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：田澤 薫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>子どもをめぐる様々な場面に目を向けながら、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。</p> <p>2. 学びの意義と目標</p> <p>子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究の入り口に立って、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。</p>	
評価方法	
出席した上での積極的な参加(発言)	20%
課題報告	30%
レポート	50%
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(児童学Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：田澤 薫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>専門演習(児童学Ⅰ)の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って子どもをめぐる様々な主題に取り組むことで、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。</p> <p>2. 学びの意義と目標</p> <p>子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。</p>	
評価方法	
出席した上での積極的な参加(発言)	20%
課題報告	30%
レポート	50%
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(児童教育学Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：永井 理恵子	
講義の目標及び概要	
<p>専門演習の入門である。</p> <p>本ゼミナールでは、将来的には各自で研究主題を選択しておこなう研究を目指す。その入門である本講義においては、参加者全員での専門書の購読をおこなう。</p> <p>本ゼミナールは将来的に文献を用いた研究を、歴史的基礎に基づいておこなうようになるゼミであるため、専門書購読の力量の育成は必須である。その観点から本ゼミでは、履修者の専門や興味関心に応じたテキストを選択し、それを担当者と履修者として輪読していく。専門書については、履修者と相談して決める。履修者は必ず一回は発表を担当するほか、ゼミ指導者が毎回コメントする他に、1コマ担当する回も適宜、導入する。</p>	
評価方法	
出席態度、出席回数のほか、全員1回以上は担当する読書担当の成果によって評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(児童教育学Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：永井 理恵子	
講義の目標及び概要	
<p>専門演習(児童教育学Ⅰ)でおこなった基礎的学習をもとに、各自の専門に応じた、より高度な専門知識を習得するとともに、研究の基礎的手法についての学習をおこなう。本ゼミナールは文献購読をもととしたゼミナールであるため、そうした研究に必要な手法を、この段階で修得する。</p> <p>テキストを用いるが、履修学生の学問的興味関心に応じたテキストを個別に選んで用いる。</p>	
評価方法	
平素の受講姿勢と、適宜おこなわれる発表やレポート提出の内容を参考とする。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(児童福祉実践論Ⅰ)(110C以上)	春 週1回 1単位
担当者：金谷 京子	
講義の目標及び概要	
<p>本演習では、子どもの発達に応じた支援をどのように実践していくか、そのための基礎知識を学んでいく。また、自己課題を設定し、ボランティアを積極的に実践していくことを目標とする。</p>	
評価方法	
レポートと課題の発表をもって評価する	
教科書	
本郷一夫編『保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』建帛社	

専門演習(児童福祉実践論Ⅰ)(111C)	秋 週1回 1単位
担当者：坂本 佳代子	
講義の目標及び概要	
<p>本演習では、保育を必要とする乳幼児、養護に欠ける児童、身心に障害をもつ児童等様々な対象への支援を実践していくにはどのようにしていったらよいのでしょうか。ボランティア等の実践を通して方法論をさぐっていきます。</p> <p>テーマは各自設定し、調べた結果や実践の体験報告を行い、受講生相互の討論のなかで、学習を深めていきます。</p>	
評価方法	
出席状況およびレポートによって総合評価します。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(児童福祉実践論Ⅱ)	秋 週1回 1単位
担当者：金谷 京子	
講義の目標及び概要	
<p>本演習では、児童福祉実践論Ⅰでの学びを踏まえて、自己課題を発展させていく。</p> <p>自己課題をゼミの場で発表し、ディスカッションを通してさらに、学びを深めていく。</p> <p>また、児童福祉分野での実践計画を自ら立てる方法を学んでいく。</p>	
評価方法	
レポートと課題の発表をもって評価する	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習(児童福祉論) I	秋 週1回 1単位
担当者：池 弘子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 子どもを取り巻く環境や子どもの生活等について学び、関心をもったテーマについて、討論したり、わからない点について調べたり、レポートを書いたりすることによって、子どもや子どもにかかわる問題に関する理解を深める。具体的には、まず、子どもにかかわる問題について概観し、その後、関心をもったテーマについてグループで調べたり、討論したりしてまとめ、発表する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童福祉論、家族社会学、発達心理学Aなどで学んだことに基づいて、さらに子どもや子どもにかかわる問題に関する理解を深める。</p> <p>3. 学びの意義と目標 子どもや子どもにかかわる問題の理解を深めるとともに、必要な情報の探し方、報告用資料の作り方、報告方法についても学習する。</p>	
評価方法	
<p>(1)出席状況 40%</p> <p>(2)演習への参加度 30%</p> <p>(3)レポート 30%</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(児童福祉論) II	春 週1回 1単位
担当者：池 弘子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 専門演習Iで学んだ子どもや子どもにかかわる問題で関心をもったテーマについて、各自が資料や論文を探し、それらの概要について発表し、内容について討論したり、わからない点について調べて再度発表するという形で進めていく。これによって、自分が関心をもったことに関する知識を深めるとともに、専門演習Iで学んだ必要な情報の探し方、報告用資料の作り方、報告方法について習熟する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 家族社会学、児童福祉論、発達心理学Aなどに加えて、専門演習Iで学んだことをさらに深めて、卒業研究I、IIにつなげていく。</p> <p>3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを書くための基礎をつくる。</p>	
評価方法	
<p>(1)出席状況 40%</p> <p>(2)演習への参加度 30%</p> <p>(3)レポート 30%</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(児童文学 I)	秋 週1回 1単位
担当者：松本 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>(1)〈内容〉初回の授業で、各自「小中学生に勧めたい物語ベスト10」のリストを用意してくる。その中から特に1冊を選び、毎回、一人ずつ、自分の選んだ作品について分析、発表する。ディスカッションを可能にするため、受講者全員がその作品を読んでくると。発表とディスカッションを中心に、毎回、読書会のスタイルで授業を進める。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉卒業研究、卒業論文へと続く最初のゼミであり、最終的にきちんと研究論文を書くことができるようになるための基礎力を養う授業である。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉このゼミは、主に小学校教員を目指す学生たちの国語力向上を目的とする。様々な児童文学作品を通して、母国語である日本語についての理解を深めてゆきたい。</p>	
評価方法	
授業時の発表40%、学期末レポート40%、平常点20%によって算出する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(児童文学 II)	春 週1回 1単位
担当者：松本 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>(1)〈内容〉小学校教科書、文学作品、新聞、インターネットなど、様々なメディアから国語的課題を見つけ出し、分析・考察しながら、母国語である日本語の理解を深めてゆく。授業の後半は、教育実習準備のため、実際に模擬授業、ブックトークなど、実践的な発表力を身につける練習をする。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習Iで身につけた基礎的国語力をさらに向上させ、卒業研究、卒業論文へつなげていく授業である。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉社会人としての教養と日本語力を身につけること、また、幼稚園・小学校教諭を目指す学生たちの国語力を向上させることを目標とする。</p>	
評価方法	
毎回の宿題40%、模擬授業・ブックトークの発表40%、平常点20%で評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(児童臨床心理学Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：山田 麻有美	
講義の目標及び概要	
<p>(1) 〈内容〉 専門演習Ⅰ(児童臨床心理学)で得た心理学の基本的な知識とその考え方をもとに、心理学的な問題に関する理解をさらに深め、各自の興味関心のある分野を発見することを目指す。具体的には、毎回、受講生は、各自の興味関心を持つテーマを取り上げ、そのテーマに沿った文献を収集し、読み解き、要点をまとめてレポートすることが求められる。またレポートされる内容について全員で討議し、心理学的に考える力を養う。</p> <p>(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 児童学科専門科目で、専門演習Ⅰを履修した者が受講する卒業必修科目である。卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱに続く。</p> <p>(3) 〈学びの意義と目標〉 心理学的な問題をより深く理解するため、各自の興味関心のある分野や課題に関する文献を収集し、読み解き、要点をまとめる過程を通して、現代を生きる社会人の資質として必須の、情報の収集とその整理法とを身につけることができる。また、レポートの内容の討議を通して、創造的な思考ができるようになることを期待される。</p>	
評価方法	
文献収集とレポートの準備(60%)と、討議への参加度(30%)、出席(10%)の合計により評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(社会科Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：川瀬 敏行	
講義の目標及び概要	
<p>小学校社会科指導に必要と思われる内容について、「社会科とは何か」「社会科はどうあるべきか」といった問題意識の観点に立ち、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会科の本質 2 社会科の内容 3 社会科学習指導論 4 社会科の授業実践 5 社会科の評価 <p>などの内容の中からメンバーの話し合いをもとに適宜課題を取り上げ、研究討議し合う。</p> <p>なお、1～2回は、現地学習を行う予定である。</p>	
評価方法	
授業参加状況、レポート内容等を参照し総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(生涯学習Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：小池 茂子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。本演習では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。</p> <p>また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を 目指そうとしているのか、資料を収集し、それを読み、検討し合うことを通じて現代社会における人間の教育が子どもだけに留まらない生涯に亘って必要である意味とは何かについて考察する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>児童学科の必修科目。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革とそこに於ける課題などを理解する。現代社会とそこにおける問題と教育改革の流れについて、受講者が自ら関心のあるテーマを選んで掘り下げていく為の、基礎知識と研究方法の習得を目指す。</p>	
評価方法	
出席(40%)と、平常点(60%)を踏まえ総合的に評価を行う。	
教科書	
鈴木眞理『学ぶこと・学ばないこと』学文社	

専門演習(生涯学習Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：小池 茂子	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容</p> <p>各受講生が、研究テーマを設定して研究を深める。テーマ設定の方法、研究方法、研究成果のまとめ方を身につけることをねらいとしている。また、研究仲間とのかかわりあい研究を進めるには不可欠であることを確認する。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ</p> <p>卒業研究の前期プロセスとして考えている。</p> <p>3 学びの意義と目標</p> <p>各自、研究テーマを追究する力を身につける。研究は決して独りよがり成り立つものではないことを互いに皆で確認し、科学的かつ普遍性をもつ研究の在り方とは何かについて学ぶことを目指したい。</p>	
評価方法	
通常点で評価を行う。	
教科書	
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会	

専門演習(障害児心理Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：石川 由美子	
講義の目標及び概要	
<p>専門演習I(障害児心理I)を終えた方々を対象とします。 子どものへの支援を土台とする実践研究の方法の基礎を学ぶ。 観察法、調査法など、心理測定法の基礎を学びつつ、子どもの支援に結びつく心理的知識、記述、実践を学んでいくことを目的とします。</p> <p>なお、ゼミでは障害児支援に理解のある幼稚園、保育園などでの観察学習、大学の発達相談で個別援助にも取り組むことで学びを深める機会を提供したい。</p> <p>[カリキュラムの位置づけ] 専門演習Iの学びの上に位置づけられる科目である。卒業研究前の基礎知識を修得する。</p> <p>[学びの意義と目標] 観察および調査技法についての知識を修得する。</p>	
評価方法	
文献講読、研究法および研究手法の学習と発表など、それぞれがまとめ発表する内容で評価します。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(声楽Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：藤田 明	
講義の目標及び概要	
<p>1) 内容 専門演習(声楽I)に引き続き、発声法や歌唱表現について学びながら環境の一部を担う要素を更に研究するとともに感動ということとは何かを研究する。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ 音楽全般について学ぶことと歌唱表現や詩の朗読、語りについて研究する。</p> <p>3) 学びの意義と目標 専門演習(声楽I)で研究してきた事柄を更に進める。</p>	
評価方法	
試験・発表50% 積極性30% 出席20%	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(生活支援論)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：田村 綾子	
講義の目標及び概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・人が生まれてから死ぬまでの各段階(ライフサイクル)における発達課題を軸に、「生きる」ことについて各自のこれまでの体験や各種文献を元に考察する。 ・学生間での意見交換を通じ、生きることに對する多様な価値観を知り、ソーシャルワーカーとして「人の暮らし」に寄り添う上で大切な理念や姿勢について、自己覚知を深めながら考えることを目指す。 ・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。 ・授業は、教員からの講義や文献紹介を元に意見交換する他、各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動(施設見学、ボランティア等)を活用した意見交換等により進める。 	
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率(20%)及び参加態度(50%)を重視する。 ・プレゼンテーションとレポートの内容(30%)を加味する。 	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(生活支援論)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：田村 綾子	
講義の目標及び概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・前学期の内容を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する考察を深化させる。 ・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。 ・専門職としてふさわしい価値観、倫理観を習得することを目的として文献講読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。 ・授業は、各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動(施設見学、ボランティア等)を活用した意見交換等を中心に進め、教員からの講義や文献紹介も行う他、学生の興味・関心領域に合わせて年間テーマを設定して全員で調査研究に取り組む。 	
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率(20%)及び参加態度(50%)を重視する。 ・プレゼンテーションとレポートの内容(30%)を加味する。 	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(政治過程論)	春 週2回 2単位
担当者：高橋 愛子	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉今日の政治社会が直面するさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。</p> <p>以上の基本的な考え方に立ち、本年は、「民主主義社会における教育のありかた」を一つの切り口としながら、共通のテキストを輪読しつつ学び議論をしてゆく。一学期間を通して学んだことを「学期末レポート」として提出することが求められる。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉3年次春学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。</p> <p>〈学びの意義と目標〉基本的なテキストの読解力を得ること（著者の主張の要点を把握し、発表用のレジュメを作成し、プレゼンを行う）、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、政治にかかわる独自の研究テーマを見出すこと。</p>	
評価方法	
<p>第一に平常点（出席率）30%、第二に授業への「コミットメント」（毎回必ず発言し議論に積極的に参加すること）（30%）、第三に学期終了時に提出する「学期末レポート」（40%）。以上三点を総合して評価する。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(政治哲学)	春 週2回 2単位
担当者：森分 大輔	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉政治哲学の専門演習として、今回は特に洋の東西にまたがる近・現代の政治理論家のテキストを読み込むことを主眼とする。また、それに関連する議論をおこなうことで参加者の政治学的素養を深める。同時に各参加者独自の関心からテーマを選択し、それぞれの関心を深める作業を並行しておこなう。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉これまでに身につけてきた、様々な社会科学的教養を前提として、三年生向けの専門演習として、政治哲学に興味、関心を持つ学生諸君の問題意識を深めることを手助けすることを目的としている。</p> <p>〈学びの意義と目標〉アカデミックな専門的知識のみならず、それらを現実の問題に適用する能力の獲得を目的とする少人数のゼミ形式授業であることから、時事問題を議論することで、現実理解能力を鍛えることをねらいとする。受講者にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。</p>	
評価方法	
<p>第1に「出席」（20%）、第2に授業への「コミットメント」（発言頻度：毎回1回以上の発言を求める）（30%）、第3に学期終了時に提出する「学期末レポート」（50%）。以上3点を総合して評価する。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(精神保健福祉論) I	秋 週1回 1単位
担当者：相川 章子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学ぶためにおこなう、わかりやすい基礎的な文献を指定し講読する。文献の読み方、文献から何を学び、疑問を持ち、自らの関心ごとや疑問をどのように広げ、またつなげていくかを学ぶ。また、ゼミ内での発表およびディスカッションを経験することによって自らの意見を表現していくことを学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学び、それをもとに自らの関心や疑問を表現し、自ら疑問について調べてみる段階。「研究」とはなにかをつかむ。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>それぞれがもつ漠然とした関心や疑問を表現していくことが重要な作業となる。そのために広くさまざまな文献を読み、豊かな発想力を養い、それらを表現していくことに慣れていく。</p>	
評価方法	
<p>(1) 出席状況 (30%) (2) ディスカッション等への参加や発表 (30%) (3) レポート (40%)</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(精神保健福祉論) II	春 週1回 1単位
担当者：相川 章子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>専門演習Iで深めた学びをもとに、各受講者の関心あるテーマについて文献を収集し先行研究を吟味する。文献講読を通し研究のすすめかた、仮説のたてかた、研究方法などについて学ぶ。また、研究レポートおよび研究活動のいずれかを選択し、各自関心のあるテーマについて取り組む。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>専門演習IIにおいて精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学び、それをもとに自らの関心や疑問を具体化させる段階であり、基礎から応用へと展開させる位置づけである。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>自分自身の関心のあるテーマをみつけていくことが重要な作業となる。そのためにさまざまな文献を調べ、読み、知識を広げ、豊かな発想力を養う。</p>	
評価方法	
<p>(1) 出席状況 (30%) (2) ディスカッション等への参加や発表 (30%) (3) レポート (40%)</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(造形教育論Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：喜田 敬	
講義の目標及び概要	
1) 内容 就学前好きであった造形活動が、小学校入学後嫌いになる例が、多く報告されている。その原因として、作品に対する教師の評価や、生徒の認知発達による、他者との比較などがあげられる。では、保育現場での造形活動には、全く問題はないのか。幼児期の造形体験・造形教育の望ましい在り方とは如何なるものか。本授業では、造形教育の歴史と現状を中心にこの点を考える。	
2) カリキュラム上の位置づけ 児童学科2年生の必修科目。	
3) 学びの意義と目標 作者である子どもの心を知る知性と感性を身につける。	
評価方法	
出席状況、レポート80% ディスカッション20%	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習(造形教育論Ⅱ)	秋 週1回 1単位
担当者：喜田 敬	
講義の目標及び概要	
1) 内容 保育者は、園児の描画活動を指導すべきではない、と考える幼稚園は日本では少なくない。「これまでの教育論が、知的な領域と情的な領域に人間の心を分化し、知的教育が推進されるために情的な育成が阻害されるという二元論に立つことが多かった」(『造形表現 理論・実践編』)ことも、その理由の一つであろう。だが、「造形的な活動は単に行為とか表出とか、経験、記録のみにとどまってしまって、芸術的な感動とか思いの表現に入らないで」よいのか。 専門演習Ⅱでは、内外の造形教育の研究と実践から、保育造形の望ましい在り方を探る。	
2) カリキュラム上の位置づけ 児童学科3年の必修科目。	
3) 学びの意義と目標 造形教育とは何か。知識の蓄積とともに、考える習慣を身につける。	
評価方法	
レポート60%、発表20%、制作20%。	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習(ソーシャルワーク論Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：助川 征雄	
講義の目標及び概要	
1 内容 基本的な課題解決能力を高めるために、テキストや関連資料などを用いて、考える力、表現する力、傾聴する力、集中する力などに関する演習を行う。具体的には、特定の書籍、新聞記事、小論文などをテキストとし、輪読、ディスカッションを行う。あわせて、学外の研究会参加、社会見学、ゼミ合宿等も行う。	
2 カリキュラム上の位置づけ 一義的には、個別・小グループ演習などを通じて、自分の強み(素質、能力、希望、身近な社会資源)を自覚し、社会福祉専門職に不可欠の常識や素養を身につけるための授業。	
3 学びの意義と目標 各自の強み(ストレングス)発見し、深化させるとともに、次年度に向けた研究テーマや進路を発見すること。	
評価方法	
出席率、平常点、ゼミレポートなどにより総合的に評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習(ソーシャルワーク論Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：助川 征雄	
講義の目標及び概要	
1 受講学生の個別研究テーマ別の研究内容の深化 2 卒業論文またはゼミ論文(本文8、000字以上)の作成指導 3 研究成果の評価と共有	
評価方法	
卒業論文またはゼミ論文の成果による。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(地域圏研究ロシア)	春 週2回 2単位
担当者：飯島 康夫	
講義の目標及び概要	
<p>巨大な隣国ロシア、そしてロシアやウクライナなどを育んだ悠久のユーラシアの大地と文化について考察する機会とする。詳細は、学生との相談による</p>	
評価方法	
ゼミ論文(30%)と発表(20%)、出席(50%)による	
教科書	
授業の中で指示する	
司馬遼太郎『ロシアについて』文芸春秋	

専門演習(地域福祉論) I	秋 週1回 1単位
担当者：牛津 信忠	
講義の目標及び概要	
<p>地域の中における社会福祉として身近になった福祉を、毎日の生活の中に感じるとともに、それを地域に本当に根付かせるための方策、政策や技術を考えていく。</p> <p>身近な問題から出発していき、その必要性、今後の展開可能性をも理解しつつ、単なる現実の福祉状況としてのみではなく、その現代における意味をも深く解明することに努めたい。それを研究途上の発表として他のゼミ生に聞いてもらうことにより、自らの成長の糧とすることができるゼミ参加者であってほしい。</p>	
評価方法	
発表の機会が多く与えられるので、その折のまじめな取り組みの姿勢、および学期末のレポートの完成度によって評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(地域福祉論) II	春 週1回 1単位
担当者：牛津 信忠	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉演習受講者各自が演習(地域福祉論)I における研究テーマをいっそう深め、その研究の地域福祉論上の位置と役割を明確にしていくことを目指し演習を進める。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉専門研究の糸口を開く演習Iに基礎付けられ、さらに学びを深め専門研究IIとして、選び取った専門課題についての知識と思考力の高度化を図る演習である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉自らの研究が、地域福祉ネットワークの形成及びその質的向上のためにどのようなインパクトを与えることができるかを、それぞれ課題解明を通して具体的に問うてもらう。さらに、自らの研究テーマに関連する知識を書物、官公庁及び各種民間組織・団体の資料の収集と読破により広げ、自らの学びの独善性から離脱していく努力を着実に進めることを目指す。そうした努力と共に、自らの研究の価値論上の位置づけにも注意を向け、前提されている価値について学ぶことをも目標にする。</p>	
評価方法	
各自のテーマに即した発表とその発表時における質疑応答、さらに学期末に提出を義務付けるレポートにより評価を行う。発表と質疑応答30%、最終レポートを70%として評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(日本政治思想史)	春 週2回 2単位
担当者：吉田 博司	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 近代日本の政治家及び思想家の研究を紹介しますが、後半は学生諸君にテーマを設定させ、報告・討論となります。</p> <p>2. カリキュラム上の位置 専門演習は、すぐれて受講者の主体性を要求する科目です。</p> <p>3. 学びの意義と目標 自分で調べ、報告するという活動をとおしてタフな人間性を確立してほしい。</p>	
評価方法	
レポート報告と討論評価	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(比較憲法)	春 週2回 2単位
担当者：松村 芳明	
講義の目標及び概要 憲法に関するテキストを素材に、各受講者が調査・発表・討論を行うことによって、憲法や法律に関する知識の習得と理解の進展をはかるとともに、調査・発表・討論の手法を学ぶ演習である。	
評価方法 調査・発表・討論の内容によって評価する。	
教科書 石埼学ほか『リアル憲法学』法律文化社	

専門演習(比較政治学)	春 週2回 2単位
担当者：松尾 秀哉	
講義の目標及び概要 内容)我々は物事を考えるとき、おおよそ頭の中で「比較」をしている。比較政治学とは、単に各国を比べるのではなく、比較の分析枠組みを作る学問でもある。本演習では、受講者の関心のある事例を「比較政治学」的に考える訓練をする。グループワークによって担当諸国を調べレポートで報告し、最終的にはゼミで冊の報告書を作成する。 カリキュラム上の位置づけ)卒業研究(比較政治学)ではより高度な応用力が必要になる。その前提となるテキストを理解し「比較」の方法論を習得する。 学びの目標と意義)難解な文献を自力で読解する(調べながら読む)力を身につける。また、議論を通じて分析的に考える力を身につける。	
評価方法 出席と討論への参加(50%)、割り当てられた報告(英字論文の訳を必ず含む)(50%)にて評価する。	
教科書 授業の中で指示する 田村哲樹・堀江孝司『模索する政治』ナカニシヤ書店	

専門演習(比較文化) I	秋 週1回 1単位
担当者：稲田 敦子	
講義の目標及び概要 【1. 内容】 異文化との出会いは、新しい認識の出発となる。 私たちがあたりまえであり、特に何の疑問を抱かなかったことが、他の文化圏の人々にとっては非常な驚きであることがある。異文化に触れるということは、自分がそれまで、当然であると思っていたことや価値観などを捉え直して行く機会があたえられるということである。この演習では基本的な文献(J. Saywell, "Beneath the Surface")を中心に、主題の内容を検討し、テーマ別の発表も行う。 【2. カリキュラム上の位置づけ】 欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。 【3. 学びの意義と目標】 本演習の目標は、比較文化を学ぶ上での基礎的な資料を原文を通して読み解き、理解することを通して、専門性への足がかりとすることである。	
評価方法 1) 資料講読(25%) 2) テーマ別発表(25%) 3) ゼミレポート(25%) 4) 参加度(25%) これらの総合計100点で算出する。	
教科書 プリントを配布する	

専門演習(比較文化) II	秋 週1回 1単位
担当者：稲田 敦子	
講義の目標及び概要 【1. 内容】 専門演習I(比較文化)をふまえて、それぞれに異なった文化を背景とする個別の具体的事例をとりあげることにより、目に見える表層的なものだけではなく、その奥にある目に見えない深層の部分にも踏み込んで考えながら、視野を広げ、柔軟に考えていく一助になることを期待している。 【2. カリキュラム上の位置づけ】 欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。 【3. 学びの意義と目標】 本演習の目標は、比較文化を学ぶ上での基礎的な資料を原文を通して読み解き、理解することを通して、専門性への手がかりとすることである。	
評価方法 (1) 資料講読(25%) (2) テーマ別発表(25%) (3) ゼミレポート(25%) (4) 参加度(25%) により算出します。	
教科書 プリントを配布する	

専門演習(福祉環境論) I	
春	秋
週1回	1単位
担当者: 野口 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。</p> <p>専門演習Iでは小グループでの研究を中心に行います。まずは問題意識を持って、研究テーマを定め、文献研究や調査などを行いながら理解を深め、レポート作成と発表を行います。</p> <p>同時にそれらの研究に必要な情報収集、レポート作成、プレゼンテーション等の基礎的技術の学習も行います。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>卒業研究は個人で研究を行いますが、その前段階としてグループで研究を行います。ここでは研究の基礎的な方法を学びます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>グループで研究を行うことにより、ゼミの仲間との共同作業やディスカッションに慣れ、研究の進め方全般を理解し、研究の面白さを体験することを目標にします。</p>	
評価方法	
出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(福祉環境論) II	
春	週1回
1単位	
担当者: 野口 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。小グループで研究テーマを定め、文献研究や資料収集、調査等を実践しながら課題を整理し、考察を行っていきます。また、相互に研究経過を報告し、ディスカッションをすることにより、理解を深めます。そして、研究の成果として、グループによる発表、個人によるレポート作成を行います。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>専門演習Iに引き続き、グループで研究を行ないます。専門演習Iで残された課題を振り返りつつ、卒業研究に向けた準備として、研究の枠組みを理解し、より深く考察を行います。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>個人が自立して研究テーマやその方法を考え、役割を分担し、それを確実に遂行しながら研究を進めていきます。そして、学生同士で主体的にディスカッションを行い、自分の言葉で成果をまとめていくことを目標にします。</p>	
評価方法	
出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(福祉倫理) I	
秋	週1回
1単位	
担当者: 左近 豊	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>ソーシャルワークに携わる中で、どのように判断し、決断し、行動し、生きるかが問われる局面に遭遇する。その時に生じる倫理的葛藤、そしてそこでなされる倫理的判断基準等について、文献、発表、討論、レポート作成を通して考察する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>専門演習</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>先人の思想に学び、ゼミの仲間との議論を踏まえ、自己の視座を確認し再検討する。</p>	
評価方法	
毎回の演習への参加 25%	
発表 35%	
レポート 40%	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(福祉倫理) II	
春	週1回
1単位	
担当者: 左近 豊	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>ソーシャルワークに携わる中で、どのように判断し、決断し、行動し、生きるかが問われる局面に遭遇する。その時に生じる倫理的葛藤、そしてそこでなされる倫理的判断基準等について、文献、発表、討論、レポート作成を通して考察する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>専門演習</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>先人の思想に学び、ゼミの仲間との議論を踏まえ、自己の視座を確認し再検討する。</p>	
評価方法	
毎回の演習への参加 25%	
発表 35%	
レポート 40%	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(フランス文学) I	秋 週1回 1単位
担当者：鹿瀬 颯枝	
講義の目標及び概要	
<p>この授業は、講義科目ではなく専門演習ですから、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思ひます。</p> <p>最初は、ゼミ生全員にフランス語基礎力とフランス文学の基礎知識を確かなものにするため、やさしいフランス語教材を使用しながら、フランス文学への関心を高めてもらひます。第二段階で個々の関心分野、研究したい分野を報告してもらひ、共通文学テキストを決め、精読に入っていきます。この段階から各人の研究発表も順次行ひます。第三段階、仕上げの段階では、次の秋学期に同じく集中で始まる「卒業研究」に向けて、研究テーマについて全員で議論を重ね、参考文献などについてもアドバイスをしながら、まとめていく予定です。</p> <p>テキストは、Jacques Prévert "Paroles" で導入、続いて永遠のベストセラーAntoine de Saint-Exupéry "Petit Prince" を精読していきたいと考えています。</p>	
評価方法	
授業への積極的な参加度50%、研究発表+研究レポート50%	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習(フランス文学) II	春 週1回 1単位
担当者：鹿瀬 颯枝	
講義の目標及び概要	
<p>この授業は、講義科目ではなく専門演習ですから、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思ひます。</p> <p>最初は、ゼミ生全員にフランス語基礎力とフランス文学の基礎知識を確かなものにするため、やさしいフランス語教材を使用しながら、フランス文学への関心を高めてもらひます。第二段階で個々の関心分野、研究したい分野を報告してもらひ、共通文学テキストを決め、精読に入っていきます。この段階から各人の研究発表も順次行ひます。第三段階、仕上げの段階では、次の秋学期に同じく集中で始まる「卒業研究」に向けて、研究テーマについて全員で議論を重ね、参考文献などについてもアドバイスをしながら、まとめていく予定です。</p> <p>テキストは、Jacques Prévert "Paroles" で導入、続いて永遠のベストセラーAntoine de Saint-Exupéry "Petit Prince" を精読していきたいと考えています。</p>	
評価方法	
授業への積極的な参加度50%、研究発表+研究レポート50%	
教科書	
プリントを配布する	
Antoine de Saint-Exupéry 『Le Petit Prince』 Folio	

専門演習(保育実践論 I)	秋 週1回 1単位
担当者：相川 徳孝	
講義の目標及び概要	
<p>1. 目的</p> <p>保育の基本は、小学校などの画一的な教育と違って、それぞれの幼稚園・保育所のおかれている地域や家庭の実態、乳幼児の特性などに応じて、保育を創造していくところにある。したがって、園が異なれば当然保育も異なるし、乳幼児の実態が異なれば保育も異なるといってよい。また各幼稚園、保育所ではいろいろな保育方法、保育形態で保育が実践され、その中で子どもたちは生活をしているのである。この演習ではさまざまな幼稚園・保育所で行われている保育について、多角的に見つめ、保育者として求められる役割や乳幼児に相応しい教材とはどのようなものかについて考えていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>児童学科必修科目である。</p>	
評価方法	
レポート (50%) と手作り教材の提出 (50%)	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(保育実践論 II)	春 週1回 1単位
担当者：相川 徳孝	
講義の目標及び概要	
<p>1. 目的</p> <p>本演習は、「専門演習(保育実践論I)」の延長線上にあり、前演習を受けて、それをさらに深化、発展させることをねらいとする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>卒業するために必修となる科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>ここでは遊びの意味や理解、子どもの行動の意味を考えること、さらには保育者の援助方法について保育事例を多く取り上げながら議論を重ね、各自の保育観を構築していくことを目標としている。</p>	
評価方法	
事例レポート (80%) と討論に対する参加度 (30%)	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(法思想史)	春 週2回 2単位
担当者：加藤 恵司	
講義の目標及び概要	
<p>「法思想史」の講義を基礎として、その内容を更に深める。本年度の主たるテーマとして、法制度の源流に焦点をあて、そこから流れ出す法思想を学んでみたい。</p> <p>津田市正『法の理念と法律の理想』及び加藤恵司『法・思想・歴史』（ジーオー企画出版、2008年）をテキストにして、法思想史の発展ないし革命に寄与した法制、人物、学説を検証する。特に、講義で十分に出来なかった箇所重点をおいて進めていく。思想は、政治、経済、社会、文化、歴史などさまざまな角度から形成され、また、把握されなければならない。法思想史は、法制度に目を据えて考察しようとするが、法的規範を設けざるを得なかった理由とか、時代的制約なども整理していく。</p>	
評価方法	
研究報告を基礎とし、出席を重視する。	
教科書	
授業の中で指示する 加藤恵司『法・思想・歴史』ジーオー企画出版 津田市正『法の理念と法律の理想』津田学院	

専門演習(ヨーロッパ史) I	秋 週1回 1単位
担当者：和田 光司	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) この授業では、「砂糖の世界史」をテキストにし、各学生がその中から関心がある部分を選択して発表する。このテキストは現在史学界で注目されている世界システム論の入門書としては最適であり、それにより現代の歴史学の発想方法に触れることができるであろう。また、細かい評価表により学生相互に批評を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。</p> <p>(カリキュラム上の位置) 小グループ学習の入門である。</p> <p>(目標) プレゼンテーション能力開発過程において基礎力を養成する。またヨーロッパ史の世界に親しんでもらう。</p>	
評価方法	
出席・授業参加への積極性 (50%)、発表内容 (50%)	
教科書	
川北 稔『砂糖の世界史』岩波書店 (ジュニア新書)	

専門演習(ヨーロッパ史) II	春 週1回 1単位
担当者：和田 光司	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) この授業では、専門演習 I の延長線上にプレゼンテーション能力の一層の向上を図る。第二次世界大戦についてすでに通達した小テーマから各学生関心がある部分を選択して発表する。同じテーマを様々な角度より眺めることにより、歴史的視点の多様性、重層性を学んでいく。また、専門演習 I と同様に、細かい評価表により学生相互に批評を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。</p> <p>(カリキュラム上の位置) 専門演習 I の一層の発展 (学びの意義と目標) プレゼンテーション能力の向上。複眼的歴史理解力の養成</p>	
評価方法	
出席・授業参加への積極性 (50%)、発表内容 (50%)	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習(理論社会学)	春 週2回 2単位
担当者：土方 透	
講義の目標及び概要	
<p>本ゼミナールは、社会現象および社会そのものの相対的把握をめざす、諸アプローチを多角的・多面的に研究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会の解明に際して用いられる諸意味体系 (主体、時間、宗教、世界、歴史等) 2 社会的コミュニケーションを可能とする諸メディア (正義、貨幣、愛、信仰、真理等) 3 思想ないし方法論そのものの検討 (M. フーコー、P. ブルデュー、N. ルーマン、ポランニー、ガダマー、J. ハーバーマース、あるいはポスト構造主義、ポスト・モダンと呼ばれる思想家等) <p>上記三視点を念頭に、ゼミ員との討議のなかで、テーマを絞っていく。</p>	
評価方法	
日々の準備、毎回の参加内容。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (文化④)	秋 週1回 1単位
担当者：熊谷 芳郎	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆ ヒューマンティ어의 詩人と言われた吉野弘「夕焼け」を扱う国語教育について宇佐美寛によって発せられた批判は、どのような課題を突き付けるものであったのかをたどる。また、卒業生の研究発表レポートから文化を研究する方法論を確認する。その上で、自分の興味関心に基づいて1冊の本を読みレポートを作成する。これらの活動を通して、論文の読み方やゼミ発表のやり方を身に付けていく。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2年生の秋学期として、演習という場で学ぶことの意味とその方法とを学ぶ場である。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 世界は完成し閉じたものではなく、今も動きゆれているものである。ことば・子ども、どちらも身近な存在ではあるが、あまり考えたことの無い人も多いただろう。このゼミで、大きな論争となった問題をたどっていくことにより、その論争を通じてどのような課題が明らかとなったのかを捉えてほしい</p>	
評価方法	
出席、発表、研究協議への参加 (50%)、学期末レポート (50%) による。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (キリスト教社会倫理)	春 週1回 1単位
担当者：菊地 順	
講義の目標及び概要	
<p>この授業では、キリスト教社会倫理に関連する人物や思想に、テキストをとおして直接触れてもらい、それぞれの世界をより深く理解し、また味わってもらうことに主眼を置いています。</p> <p>具体的には、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアについて学びます。1950年代の半ばから始まったキングの戦いと公民権運動の歩みを、キングの文献を中心に学びながら、その背後にあるキリスト教の精神を尋ねます。またキングのみならず、その歩みに関わった人物たちにも目を向けたいと思います。そして、そうした学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などについて考えることができればと思います。</p>	
評価方法	
評価は、授業への取り組みと課題そしてレポートの3点から判断します。全体に占める割合は、授業が40%、課題が30%、レポートが30%です。ただし、授業の欠席が3分の1以上の人、あるいは課題を出さない人は、レポートを出す資格がありません。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (金融論)	春 週1回 1単位
担当者：鈴木 真実哉	
講義の目標及び概要	
<p>「金融論」に関するテキストを選定し、発表担当者の報告とゼミ員全員による討論という形式をとる。テキストの性格にもよるが、なるべく毎回1~2のテーマに絞って議論をすすめる予定である。テキストの選定は、こちらがいくつかの候補を挙げ、ゼミのメンバーが決定した際に、その中から話し合いによって行う。</p>	
評価方法	
春学期に「金融論」を受講していることを条件とする。担当報告の内容と質疑応答への対応によって評価する。小レポートを課すこともある。出席は重要な評価要素となる。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (言語②)	秋 週1回 1単位
担当者：川口 さち子	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉本演習では、課題を言語にしぼり、教材を分析しながら、日本語の特徴を探っていく。そして言葉の研究に必要な基礎知識を身につけ、自分の身の周りの事象から日本語の問題点を見つけ出す力をつけてほしい。</p> <p>講義前半では、主語の問題、代名詞の問題を中心に取り扱う。後半では、「日本語の乱れ」を中心にテーマに沿った調査・発表の方法を身につけることを目標とする。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉課題にしたがってデータ検索や調査を行う方法を学ぶ第一歩である。</p> <p>〈学びの目標〉身の周りの事象に疑問を持ち、問題点を見つけて出す力をつけること。</p>	
評価方法	
調査発表・レポートの内容 (60%)、討論への参加度 (20%)、出席状況 (20%) を総合して判定する。	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習 I (言語③)	秋 週1回 1単位
担当者：黒崎 佐仁子	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>多文化共生および日本語教育を考えていく一視点として「やさしい日本語」を共通テーマとして取り上げ、「やさしい日本語」が必要となった社会背景、研究調査のあり方、運用の実態を受講生による発表の形式で行う。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>専門研究の入門に位置付けられる。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>どのような背景から研究が始まり、どのような方法で研究調査が行われ、どのような結果が導かれているのかを学ぶことを学習目標とする。</p>	
評価方法	
指定文献のレビュー発表 30% 関連課題に関する発表 30% 質疑応答 10% レポート 30%	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (公共哲学)	春 週1回 1単位
担当者：谷口 隆一郎	
講義の目標及び概要	
<p>【この演習の狙いと目的】は、(1)公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにあります。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していきます。(2)論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。演習の課題等については、私の「公共哲学」のシラバスも参照してください。</p> <p>【演習の進め方】(1)1年かけて、多くの文献を精読・精解する。(2)文献をレジメにまとめ報告・議論する。(3)卒業論文のテーマにつながるトピックを決める。</p> <p>研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやっていきたいと考えています。</p>	
評価方法	
小論文1本(4000字以上)、レジメ、授業貢献度、出席率で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。合宿を何度か実施する。	
教科書	
授業の中で指示する 川崎修・杉田敦『現代政治理論』有斐閣	

専門演習 I (コミュニティ・ビジネス論)	春 週1回 1単位
担当者：瀬名 浩一	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>日本経済は、かつて1980年代には国際競争力のある体質を作り上げたが、バブル経済を経、バブルの崩壊を経験した1990年代以後は、「失われた10年」、国際競争力の低下、デフレ体質に陥り、なかなか抜け出せない。まず「デフレの正体」を学ぶ。次に問題解決のために中心市街地活性化、構造改革特区、地域再生などさまざまな政策が実施されたが、効果は限られているのはなぜかを問う。最後にデフレから抜け出すために、現在提案されている「若者への所得移転」「女性の就労率向上」「外国人観光客の招致」などについてその可能性を探る。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>次に学ぶ専門演習II「日本の地域力」を学ぶための準備段階</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>日本および日本を取りまくアジア圏の経済・社会の現状を把握する。</p>	
評価方法	
レジメの作成 30%、プレゼンテーション 40%、小論文30%	
教科書	
蘆谷浩介『デフレの正体—経済は人口の波で動く—』(株)角川グループパブリッシング	

専門演習 I (情報倫理)	春 週1回 1単位
担当者：竹井 潔	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆</p> <p>工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれてきた。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆</p> <p>「情報倫理」を平行履修することが望ましい。また、コミュニティ情報系の科目の履修することが望まれる。</p> <p>◆学びの意義◆</p> <p>情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく</p>	
評価方法	
平常点(40%)、レポート(60%)	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (政治学)	春 週1回 1単位
担当者：川添 美央子	
講義の目標及び概要	
履修者の興味や関心を把握した上で、戦後日本の政治史、あるいは現代日本の政治に関連するテキストを選び、輪読する。過去にとりあげたテキストには以下のようなものがある。 ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』 岩波書店 山口二郎『戦後政治の崩壊』 岩波文庫 野中尚人『自民党政治の終わり』 ちくま新書 など。	
評価方法	
平常点（出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等）と、学期末提出のレポートを1:1の比率で評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (地域社会論)	春 週1回 1単位
担当者：大高 研道	
講義の目標及び概要	
1. 内容 本演習では、コミュニティ活動の実践と文献講読・討論によって構成される。前者は、宮原駅コンコース緑化活動を実施する。後者は、地域社会を規定している「現代社会」そのものが抱える問題点（雇用やニート問題、子ども犯罪、いじめ、引きこもり、高齢化社会、女性の社会的地位、結婚・離婚問題など）について、テキストをもとに各自が興味のあるテーマを設定して報告・議論する。その上で、現代的課題を解決する舞台として期待されている「地域社会（コミュニティ）」の向かっていく方向について考えたい。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の必修科目である。専門知識の基礎を学ぶと同時に、次年度の卒業研究レポートの準備段階として調査・報告・レポート執筆の方法・技術を習得する。 3. 学びの意義と目標 最終的には、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや市民社会組織の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。	
評価方法	
・ゼミへの参加状況（報告内容、討論時の積極性:70%）およびレポート(30%)。 ・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は大幅な減点の対象となる。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (日本経済論)	春 週1回 1単位
担当者：大森 達也	
講義の目標及び概要	
本演習では、1990年代に入るまで順調な経済成長を持続してきた日本経済の特徴を、欧米経済先進国との制度的な比較から理解すると共に、90年代の「失われた10年」を経て、21世紀を迎えた今日においてもいまだ問題を抱える日本経済についての講義、ディスカッションを通して、各自考えることをする。 日本経済の抱える問題への意識を高めるため、日本的雇用制度、銀行系列や階層的な下請け制度など、これまでの制度についての基礎知識を、各自深めることから始め、90年代、そして21世紀に起きる世界経済の変化について学ぶこととする。 本演習では、卒業研究で取り扱う問題に対する意識を高めることを目的とする。	
評価方法	
(1) 2,000字程度のレポート提出 (50%) (2) 講義でのディスカッションへの参加 (40%)	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (比較文化②)	秋 週1回 1単位
担当者：菊池 有希	
講義の目標及び概要	
1. 内容 本演習は、受講者自身の問題意識と比較文化という学問領域とがいかにして交差するのか、ということ、それぞれ自覚してもらおうことを主眼としている。まずはじめに比較文化という学問のおおよそ守備範囲を理解してもらった上で、各自の問題意識に沿った比較文化の論文をそれぞれ担当してもらい、その論文の要旨を口頭で発表してもらい、というかたちで授業を進めてゆく予定である。 2. カリキュラム上の位置づけ 「ゼミとは何か」「比較文化とはどのような学問か」といったことを知るための入門的な位置づけである。 3. 学びの意義と目標 本演習を通して、比較文化的な問題というのは実は身近なところにあるのだ、ということが実感できたら、本演習の目標の半分以上は達成されたということになるであろう。	
評価方法	
授業への参加度20%、口頭発表30%、最終レポート50%で算出。 (ゼミなので原則的に全出席のこと。なお、授業を進める際に邪魔と判断されるような行為を行なった者に対しては、以降の出席を認めない。)	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習 I (比較文化③)	秋 週1回 1単位
担当者：濱田 寛	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉 平安時代の源為憲撰『世俗諺文』の輪読形式の演習発表を行う。テキストは写本(観智院本)の影印を用いる。本書は中国古典の故事を分類し、その出典からの引用によって構成される。受講生は指定された箇所について訓読・語釈・現代語訳・出典調査を行い、資料を作成して発表を行う。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 中国の古典テキストを扱う上での基本的なノウハウを学習し、卒業研究における各自の独自のテーマを考察するための基礎力の涵養を目指す。与えられた課題の中から「問い」を設定し、自ら解決するための一連の手続きを学ぶことは極めて重要である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 研究においては、まず先行文献の正確な理解が前提となる。写本に施された鎌倉期の訓点の解釈を通して、現代の解釈との相違点を学び、複眼的な解釈の方法の会得を目指す。</p>	
評価方法	
出席点:30% 演習発表:50% レポート:20%	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習 I (文化③)	秋 週1回 1単位
担当者：清水 均	
講義の目標及び概要	
<p>1、内容 現代文化全般(文学・音楽・マンガ・映画・ドラマ・メディア・風俗・流行・スポーツ・お笑い・ファッション・食等々)を扱う。まずは興味、関心のあるテーマを発見し、発表・討議を通して「文化を研究すること」を実際に体験してもらう。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ いわゆる「ゼミ形式」に授業による専門研究の最初の段階に位置づけられる。</p> <p>3、学びの意義と目標 この段階ではまだ自分の研究テーマを確定する必要はない。研究の方法とゼミ形式での授業を体得することが目標となる。次のステップである「専門演習Ⅱ」に向けてのよりよい準備となることが期待される。</p>	
評価方法	
(1)出席点:50% (2)発表とレポート:50% (3)授業、質疑への取組をこれに加味する	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習 I (文学②)	秋 週1回 1単位
担当者：渡辺 正人	
講義の目標及び概要	
<p>古典文学を取り扱う。 本演習では、作品は『伊勢物語』とし、和歌を含めた古典文学作品の読解の基礎を学ぶ。 同時に、各自の選んだ作品も取り上げ、その文学史的・研究史的立場の基礎的な知識を学びたい。</p>	
評価方法	
出席40%、発表40%、授業時の質問等参加の姿勢20%で評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習 I (文学③)	秋 週1回 1単位
担当者：黒木 章	
講義の目標及び概要	
<p>〔内容〕 島崎藤村の『破戒』と田山花袋の『蒲団』を読む。 〔カリキュラム上の位置付け〕 演習の形で研究の方法等を学ぶ文学入門である。ここでは文学研究のアプローチ法として幾つかの代表的な先行文献を読んで自分の主体的な読みとを重ねて問題を把握するとともに今後の自分の研究方法を探る。もちろん、その後には予定されている演習や卒業研究・卒業論文に繋げるように基礎訓練を重ねる。</p> <p>〔学びの意義と目標〕 『破戒』は日本近代文学の可能性を開き、『蒲団』はその可能性を歪めたと言われて久しい。だが、現代の我々からみて本当にそうに言えるのだろうか。作品と周辺の事情を再検討して日本近代文学史特に自然主義文学の問題を把握する。</p>	
評価方法	
発表と質疑を中心とする普通の授業参加態度を40%、学期途中で課す小レポートを20%、学期末のレポートを40%とみる。	
教科書	
島崎藤村『破戒』新潮文庫 田山花袋『蒲団』新潮文庫	

専門演習 I (法学)	春 週1回 1単位
担当者：渡辺 英人	
講義の目標及び概要	
<p>「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければならない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2012年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。</p>	
評価方法	
<p>1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (まちづくり学)	春 週1回 1単位
担当者：平 修久	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。何気なく毎日を過ごしている身近なまちをもう一度見直し、埋もれている価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きも各地で見られる。あるいは、まちの問題を自ら市民が取り組む動きも起きている。 そこで、本演習では、具体的なまちの課題を取り上げ、実際のまちづくり活動を行う。授業の性格上、グループ作業があるとともに、学外で行うこともある。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 身近な大学周辺のまちを題材に、まちの見方、問題などへの対応方法を学ぶとともに、実際のまちづくりを体験することにより、考える力と行動する力を身につけること。</p>	
評価方法	
出席 (30%) 及び授業への参加度合い (発表、グループ作業など、40%)、期末レポート (30%) により評価する。	
教科書	
<p>プリントを配布する 田村明『まちづくりの実践』岩波新書</p>	

専門演習 I (歴史・思想①)	秋 週1回 1単位
担当者：東島 誠	
講義の目標及び概要	
<p>◆講義内容◆ 歴史・思想の文献から、比較的取り組みやすいものを選び、二人一組で調べ、発表してもらおう。</p> <p>◆カリキュラム上の位置と目標◆ 日本語表現法を終えた2年生の秋学期は、いよいよ卒業研究へとつながる専門的な研究への端緒につくこととなる。とは言えまだ2年生。まずはレジュメを作成するなど、研究発表の練習をしよう。その際、辞書を引く労を惜しんではならない。専門性の高い辞書を引き、調べることの大切さを学ぶのが、この段階での最終的な目標となる。</p> <p>◆学びの意義◆ 文献を読んで初めて出会った言葉や考え方を丁寧に調べ、不明点や疑問点を率直に出してほしい。必ずやそこに、新しい、未解決の問題が立ち現れるはずである。そんな体験をしてほしいし、それが可能なゼミである。</p>	
評価方法	
出席、発表、議論への参加 (以上50)、および学期末レポート (50) による。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (歴史・思想②)	秋 週1回 1単位
担当者：川崎 司	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 原則として「日本近現代の歴史・思想」を対象とするが、特に範囲は設けない。自由なテーマで伸び伸びと〈研究〉を楽しんでもらいたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 考える力、読む力、書く力、聞く力、調べる力、発表する力を身につける場となり、こころ豊かな感性を研く場ともなれば幸いである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 研究発表を積み重ねていくうちに、ゼミ生同士の友情が芽生えていけば、これ以上の喜びはない。皆さんの、真実を見つめる目と、優しい手と、温かい心が永遠であることを祈る。</p>	
評価方法	
発表の内容と出席状況を重視します。	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習 I (歴史・思想③)	秋 週1回 1単位
担当者：清水 正之	
講義の目標及び概要	
1. 内容 専門で日本の思想・歴史を学ぶ学生のために、必須の日本思想のテキストを読みます。 本年度は、内村鑑三の『代表的日本人』を最初のテキストにして、原典を読むことの意味、ノート作成法、参考資料の調べ方を、学びます。その他の基本的文献をゼミ生との相談で選びます。それとあわせて、各自の卒業研究に向けての取り組みの手がかりをえられるようにしたいと思います。 発表形式の授業です。	
2. カリキュラム上の位置づけ 専門の卒業演習への準備的演習です。	
3. 学びの意義と目標 歴史・思想文献を読み解く態度をつくることです。	
評価方法 出席 (50%)と発表の成果 (50%)によって総合的に評価します。	
教科書 授業の中で指示する 内村鑑三『代表的日本人』岩波書店 (岩波文庫版)	

専門演習 I (歴史・思想④)	秋 週1回 1単位
担当者：村松 晋	
講義の目標及び概要	
(内容) 「歴史・思想 (宗教も含む)」の分野から関心のあるテーマを自由に選び、研究発表・討論していく場所とする。「日本思想入門」「相関文化」「日本の思想(キリスト教)」に興味を持ってくれた人はもちろん、生きる上で直面する様々な「疑問」や「悩み」を解くためのヒントを手にした人への参加も歓迎する。	
(カリキュラム上の位置づけ) 第一に、「テーマの決め方・見つけ方」「本の読み方・探し方」といった、研究の基礎的な作法を学んでもらいたい。第二に、自分の意見を人に理解してもらうには何が必要か、身をもって体験してほしい。 (学びの意義と目標) 本演習をつうじ、調べること、深めること、そして、自分の視界が開けていくことによるこびを体験してもらえれば幸いです。	
評価方法 発表内容と期末レポートの提出が全てである。なお全授業数の3分の1を超えて欠席したものには発表資格を与えない。	
教科書 授業の中で指示する	

専門演習 I (歴史・思想⑤)	秋 週1回 1単位
担当者：柳田 洋夫	
講義の目標及び概要	
(内容) 担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそも日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、〈日本人の心の歴史〉に関することならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。とりあえずは共通のテキストを決めて、それを一緒に読み進めながら、各自が探求すべきテーマを考えていきたい。	
(カリキュラム上の位置づけ) 専門のテーマに取り組むための準備。	
(学びの意義と目標) テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解することを目指す。	
評価方法 出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。	
教科書 授業の中で指示する	

専門演習 II (近現代文化①)	春 週1回 1単位
担当者：清水 均	
講義の目標及び概要	
1. 内容 文学、アニメ、マンガ、音楽、風俗…。文化の研究領域は広く存在し、また、その領域はお互いに横断しています。「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がありますが、文化を研究することは何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもあります。そして、自分自身が常に変化し更新し続けるものであるとすれば、文化もまた我々の新たな体験として捉え直される続けることとなり、またその意味で、皆さんの発想と感性が試され、生かされることにもなります。つまり、文化とは固定的なものではなく、我々にとっての価値を生み出す現場なのです。	
2. カリキュラム上の位置づけ 「専門演習I」で体験したゼミ形式の授業をベースに、「卒業研究II」に至る自らの専門研究の本格的なスタートとなります。	
3. 学びの意義と目標 まずは「具体的なテーマの発見」を目指してください。	
評価方法 (1)出席点:50% (2)発表とレポート:50% (3)授業、質疑等への取組をこれに加味する	
教科書 プリントを配布する	

専門演習Ⅱ (近現代文化②)	春 週1回 1単位
担当者：熊谷 芳郎	
講義の目標及び概要	
◆内容◆ 学校教育は誰にでも体験のあるものだ。その中で、沢山の教材を読んできた。あの頃は授業についていっただけで精一杯だったけれど、今読み返したらどんな世界が見えるのだろうか。小学校から高校までの国語教科書に載っている教材を皆で読み、それぞれの価値を再検討していくことを目指す。また、それは「子どもの視線」で日本の文化、アジアの文化を眺めるということにもなるだろう。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 演習Ⅰで学んできたことを確認した上で、卒業研究でそれぞれの研究テーマに向けて研究を始めるまでの間に位置づけられる。ここでの学びを、研究の基礎として、それぞれの研究テーマを見つけていって欲しい。	
◆学びの意義と目標◆ この演習では、さまざまな教材文の検討を通して大まかな知識を身につけてもらったうえで、それぞれが自分のテーマを見つけ、課題を設定し、研究を深めていくことを目標にする。	
評価方法 出席、発表、研究協議への参加が50%、学期末レポートが50%	
教科書 プリントを配布する	

専門演習Ⅱ (思想③)	春 週1回 1単位
担当者：柳田 洋夫	
講義の目標及び概要	
(内容) 担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、(日本人の心の歴史)に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。とりあえずは共通のテキストを決めて、それを一緒に読み進めながら、各自が探求すべきテーマを考えていきたい。	
(カリキュラム上の位置づけ) 専門のテーマに取り組むための準備。	
(学びの意義と目標) テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解することを目指す。	
評価方法 出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。	
教科書 授業の中で指示する	

専門演習Ⅱ (キリスト教社会倫理)	秋 週1回 1単位
担当者：菊地 順	
講義の目標及び概要	
この授業では、キリスト教社会倫理に関連する人物や思想に、テキストをとおして直接触れてもらい、それぞれの世界をより深く理解し、また味わってもらうことに主眼を置いています。 具体的には、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアについて学びます。特に秋学期は、1964年に公民権法が成立した後の、キングの戦いについて学びます。それは、平和運動と貧困撲滅運動として展開されますが、そこに見られるキングの一貫した姿勢を学びながら、その背後にあるキリスト教の精神や生き方を学びます。またキング以外の指導者たちについても学びたいと思います。そして、そうしたい学びをとおして、人間の生き方や価値観、特に人間の尊厳とか人格・人権などについて考えることができればと思います。	
評価方法 評価は、授業への取り組みと課題そしてレポートの3点から判断します。全体に占める割合は、授業が40%、課題が30%、レポートが30%です。ただし、授業の欠席が3分の1以上の人、あるいは課題を出さない人は、レポートを出す資格がありません。	
教科書 授業の中で指示する	

専門演習Ⅱ (近現代文学①)	春 週1回 1単位
担当者：黒木 章	
講義の目標及び概要	
(内容) 夏目漱石の前期三部作『三四郎』『それから』『門』を読む。	
作品を精読しながら主題や登場人物が抱える問題を周辺の状況(作家自身・社会問題・文学批評一般)に重ねながら考える。	
[方法] できれば参加者をグループに分けて、それぞれの作品について次の3つの角度から報告・討議する。(1)作品論—同時代評・先行文献の把握と批評。(2)作家論—作品と漱石の周辺事情の連関確認。(3)我々の鑑賞—文学史的な把握を意識しながら我々の読みを提示する。	
[カリキュラム上の位置づけ]「演習Ⅰ」では、研究のための資料探しなど初歩的な取り組みをしたが、ここでは次に配置される「卒業研究」に向けて各参加者が目差す研究方法を取得して卒業論文作成の専門的な手続きと方法を身につける。	
[学びの意義] 作家夏目漱石が提示した問題は現代の我々が取り組むべき問題でもある。日本文化学科の学生が漱石文学に触れることは必須の学びであり、大学院に進むとか中高の国語科教員、日本語教員を目差す人には特にそうだとと言える。	
評価方法 普通の授業参加(発表や討議)態度を50%、学期末に課すレポートを50%とみる。	
教科書 夏目漱石『三四郎』新潮文庫 夏目漱石『それから』新潮文庫 夏目漱石『門』新潮文庫	

専門演習Ⅱ (金融論)	秋 週1回 1単位
担当者：鈴木 真実哉	
講義の目標及び概要	
<p>専門演習Ⅰ(金融論)をうけて、テーマの設定の仕方、資料の検索を調べ、調べたものをまとめる、発表する等の能力を向上させることに目標をおく。</p> <p>毎回、必ず発表の機会がある。その発表についての質疑応答も発表のうちである。</p>	
評価方法	
発表そのものと、質疑応答の内容、および提出された資料等を総合的に判断して評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習Ⅱ (言語②)	春 週1回 1単位
担当者：川口 さち子	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) 現代語の問題点を扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使ったり、参考文献に当たったりして、資料探索の方法を学ぶ ・受講生の関心あるテーマを取り上げて、参考文献を読み、ディスカッションを行う。 ・実際に身の回りの言語事象を取り上げ、用例などを集め分析を行う。 <p>(カリキュラム上の位置づけ) 専門演習Ⅰでは、共通課題を扱い、資料探索の基礎的なところを扱った。専門演習Ⅱでは、実例を集め、分析できる力を養う。</p> <p>(学びの意義と目標) 自分の身の回りの事象から用例を集め分析できる力をつけること、自分のテーマをみつけて、研究していくという姿勢を身につけることが目標である。</p>	
評価方法	
調査発表・レポートの内容(60%)、討論への参加度(20%)、出席状況(20%)を総合して判定する。	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習Ⅱ (言語③)	春 週1回 1単位
担当者：黒崎 佐仁子	
講義の目標及び概要	
<p>【内容】</p> <p>現代日本語のあり方や多文化共生社会で求められる「ことば」のあり方への関心を高め、自らの疑問点を明確にし、調査計画を立て、調査を実施し、その結果から根拠を求める練習をする。さらに、調査結果や独自の考察を発表し、演習参加者からの質疑に答えることで、口頭能力の伸長を目指す。ディスカッション形式となるため、互いに学び合う意識を常に忘れず、積極的に参加してもらいたい。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>「専門演習Ⅰ」では、学術論文を読むことで調査・研究に触れた。「専門演習Ⅱ」では、調査目標や調査資料を自ら設定し、基準を定め、分析を行うという一連の作業を行い、「研究をする」ということがどのようなことなのかを学ぶ。</p> <p>【学びの意義】</p> <p>資料を収集し、データと格闘し、結論を導くという過程を経験することで、結論に根拠を求めるといった姿勢を学ぶ。</p>	
評価方法	
出席20%、発表40%、レポート30%、ディスカッション参加度10%。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習Ⅱ (公共哲学)	秋 週1回 1単位
担当者：谷口 隆一郎	
講義の目標及び概要	
<p>【この演習の狙いと目的】は、(1)公共・民主的の市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにあります。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していきます。(2)論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。演習の課題等については、私の「公共哲学」のシラバスも参照してください。</p> <p>【演習の進め方】(1)1年かけて、多くの文献を精読・精解する。(2)文献をレジメにまとめ報告・議論する。(3)卒業論文のテーマにつながるトピックを決める。</p> <p>研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやっていきたいと考えています。</p>	
評価方法	
小論文1本(4000字以上)、レジメ、授業貢献度、出席率で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。合宿を何度か実施する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習Ⅱ(古典文学②)	春 週1回 1単位
担当者：渡辺 正人	
講義の目標及び概要 本演習では、各自の取り扱う作品を定め、読解を進めることとする。 この演習では、研究史を重要視したい。まずはその作品がどのように読まれてきたのか、それは古典を研究する基礎的な知識である。それをしっかりと身につけたい。	
評価方法 出席40%、発表40%、質問等授業参加の姿勢20%で評価する。	
教科書 授業の中で指示する	

専門演習Ⅱ(コミュニティ・ビジネス論)	秋 週1回 1単位
担当者：瀬名 浩一	
講義の目標及び概要 (内容) 社会的意義が大きいプロジェクトに共感・共鳴し、これに参加・協力したいと考え、自らの責任と負担で、市民が主体的に資金を供する。このような資金提供を通じた新しい公共への参加形態が現れ始めている。寄付、貸付、債券購入、出資という形態で提供される「志ある資金」は、「市民ファイナンス」と呼ばれる。「市民ファイナンス」のリターンは、プロジェクトの実行を通じた「社会的価値」「公益」の実現である。こうした「市民ファイナンス」が提供されることで、社会的意義が大きい一方で収益性の低い事業における資金調達が円滑化・安定化することになる。市民ファイナンスの意義はこれにとどまらず、主体的な意思で資金を提供した市民は当該事業に対する当事者意識・参加意識を持つことになる。 (カリキュラム上の位置づけ) 次に学ぶ卒業研究I「コミュニティ・ビジネスの現場」を学ぶための準備段階 (学びの意義と目標) 公民連携 (PPP) によって社会資本整備や公共サービスの提供を行う仕組みを学ぶ。	
評価方法 レジュメの作成 30%、プレゼンテーション 40%、小論文30%	
教科書 日本政策投資銀行地域企画チーム『市民資金が地域を築く』ぎょうせい	

専門演習Ⅱ(思想①)	春 週1回 1単位
担当者：清水 正之	
講義の目標及び概要 1. 内容 卒業演習にすすむ最後のしあげの演習です。各自の問題意識にそった発表形式です。日本の思想に関わることがテーマですが、生命倫理や、環境倫理を、思想からといていくこともこのゼミの内容に合致します。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門的に思想を学ぶための準備をととのえます。 3. 学びの意義と目標 思想をまなぶ方法と態度をしっかりとしたものとするを目標としています。	
評価方法 出席 (50%)と授業内での発表(50%)を重視します。	
教科書 授業の中で指示する	

専門演習Ⅱ(思想②)	春 週1回 1単位
担当者：村松 晋	
講義の目標及び概要 (内容) 近・現代日本の「歴史・思想(宗教を含む)」を対象とする。ただし私の講義「日本思想入門」「関連文化」「日本の思想(キリスト教)」にかかわる分野に関しては、「時代」を問わず責任を持って指導する。(将来の自分)とその(生き方)を、特定の人物およびその作品との(対話)をとおし、じっくり考えていきたい人の参加も歓迎する。 (カリキュラム上の位置づけ) 「専門演習I」での学びをふまえ、テーマ設定の仕方、文献の探し方、さらにその(読み解き方)を身につけていくことを目標とする。 (学びの意義) 「すぐに役立つもの」は「すぐに役立たなくなる」。即席の「知識」があふれかえる時代だからこそ、状況の変化にかかわらず、常に私たちを励まし、導き、支えてくれる(定点)を手にする必要がある。このゼミでの学びと語り合いが、皆さんの模索のための、ささやかな場となりうれば幸いである。	
評価方法 発表と期末レポートが全てである。 全授業数の三分の一以上の欠席者には、発表資格を与えない。	
教科書 授業の中で指示する	

専門演習Ⅱ(情報学)		秋	週1回	1単位
担当者：河島 茂生				
講義の目標及び概要				
<p>〈内容〉 本授業のねらいは、現代社会における情報の支持基体であるメディアを理解することである。 授業のスタイルは、前半と後半で変える予定である。前半は、メディア論の基本文献を読解しながら議論を重ねる。後半は、専門演習Iおよび専門演習Ⅱの前半で扱った議論の枠内でより細かいテーマを設定し、受講生の経験・調査を踏まえつつそのテーマについて深く議論していく。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 コミュニティ政策学科専門科目群演習科目 〈学びの意義と目標〉 現代社会では、情報を拡散するメディアが溢れている。ラジオや新聞、テレビ、インターネットなどがそれにあたる。こうしたメディアを使うことで空間的もしくは時間的な制約が乗り越えられている。本授業では、現代社会を覆うメディアの本質に接近することを目指す。</p>				
評価方法				
出席状況(25%)と授業態度(25%)および課題(50%)を総合して評価する。				
教科書				
プリントを配布する				

専門演習Ⅱ(情報処理)		秋	週1回	1単位
担当者：国分 道雄				
講義の目標及び概要				
<p>〈内容〉 本演習では、現代の情報化社会において情報および情報機器を主体的に活用するため、情報を科学的に理解し、社会との関わりについて学ぶ。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 コミュニティ政策学科の専門科目で、選択必修の演習科目である。専門知識の基礎を学び、次年度の「卒業研究」の準備とする。 〈学びの意義と目標〉 コンピュータ内部での動作を科学的に理解し、情報機器を問題解決のために主体的に利用できる態度と能力を身につける。</p>				
評価方法				
ゼミへの参加状況(出席、質問・討論の積極性、発表の完成度)50%と期末レポート50%				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習Ⅱ(情報倫理)		秋	週1回	1単位
担当者：竹井 潔				
講義の目標及び概要				
<p>◆内容◆ 工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれてきた。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 「情報倫理」を平行履修することが望ましい。また、コミュニティ情報系の科目の履修をすることが望まれる。</p> <p>◆学びの意義◆ 情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく</p>				
評価方法				
平常点40%、レポート60%				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習Ⅱ(政治学)		秋	週1回	1単位
担当者：川添 美央子				
講義の目標及び概要				
<p>履修者の興味や関心を把握した上で、戦後日本の政治史、あるいは現代日本の政治に関連するテキストを選び、輪読する。過去にとりあげたテキストには以下のようなものがある。</p> <p>ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』 岩波書店 最上敏樹『人道的介入』 岩波新書 杉田敦『デモクラシーの論じ方』 ちくま新書 など。</p>				
評価方法				
平常点(出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等)と、学期末提出のレポートを1:1の比率で評価する。				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習Ⅱ(地域社会論)	秋	週1回	1単位
担当者：大高 研道			
講義の目標及び概要			
1. 内容 演習Ⅰのテキストおよび討論をもとに各自が興味を持った(さらに深めたいと思った)課題を選び、調査・報告する。併せて、問題解決主体としてのNPOや社会的企業に関する文献購読および現地調査(資料収集や聞き取り)を行う。			
2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の必修科目である。専門知識の基礎を学ぶと同時に、次年度の卒業研究レポートの準備段階として調査・報告・レポート執筆の方法・技術を習得する。			
3. 学びの意義と目標 最終的には、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや市民社会組織の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のビジョンが提起できるようになることを目指す。			
評価方法			
・ゼミへの参加状況(報告内容、討論時の積極性:70%)およびレポート(30%)。 ・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が増加されることはない。ただし、欠席は大幅な減点の対象となる。			
教科書			
授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ(日本経済論)	秋	週1回	1単位
担当者：大森 達也			
講義の目標及び概要			
本演習では、専門演習Ⅰで学んだ日本経済の抱える問題に関する基礎知識をもとに、各自、レポート課題を設定した上で、それぞれの課題に関する文献を読み、発表、そして発表に対するクラスディスカッションを行ないつつ、4000字程度のレポート(レジュメを含む)をまとめることを目的としている。			
評価方法			
(1)4,000字程度のレポート提出(40%) (2)演習時間での発表(40%) (3)ディスカッションへの参加(20%)			
教科書			
授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ(比較文化 アジア②)	春	週1回	1単位
担当者：濱田 寛			
講義の目標及び概要			
(内容) 中国の代表的な志怪小説、干宝撰『搜神記』の輪読形式の演習発表を行う。テキストは『学津討原』所収の版本『搜神記』の影印を用いる。受講生は指定された箇所について訓読・語釈・現代語訳・考察を行い、資料を作成して発表を行う。			
(カリキュラム上の位置づけ) 中国の古典テキストを扱う上での基本的なノウハウを学習し、卒業研究における各自の独自のテーマを考察するための基礎力の涵養を目指す。与えられた課題の中から「問い」を設定し、自ら解決するための一連の手続きを学ぶことは極めて重要である。			
(学びの意義と目標) 何らかの意見を述べるためには、事前の調査・分析・考察は必要不可欠な作業となる。この一連の手続きには様々な制約がある。この制約を守らなければ説得力を持ち得ない。各自の興味の対象は様々であろうとも、それを「研究」するためには、この基本的な制約をふまえる必要がある。受講生全員が同じ作品に向き合っており、この手続きを学ぶことで、卒業研究に自信を持って進むことができよう。			
評価方法			
出席点:30% 演習発表:50% レポート:20%			
教科書			
プリントを配布する			

専門演習Ⅱ(比較文化 欧米)	春	週1回	1単位
担当者：菊池 有希			
講義の目標及び概要			
1. 内容 今年度の専門演習Ⅱでは、明治の文明開化期の日本のありようを描いたテキストを素材として、欧米文化・文明が我が国に与えた衝撃(Western Impact)について具体的に検討していきたい。受講生には、担当の箇所について下調べをしてきてもらい、それをもとに各自が考察したこと、解釈したことを発表してもらい、というかたちで進めていきたいと考えている。			
2. カリキュラム上の位置づけ 本演習では、専門演習Ⅰにおいて意識化された自身の興味・関心を手掛かりとしながら、具体的なテキストを丁寧に読み解いてゆくという作業を通じて、来るべき卒業研究の基礎体力をつけるということを眼目としている。			
3. 学びの意義と目標 巷間「第三の開国」や「平成の開国」などということが言われる昨今の状況において、「第一の開国」期の明治日本の現実について学ぶことは、現代という時代を見る視角を確保する上でも有意義ではないか、と考えている。			
評価方法			
平常点20%+発表30%+レポート50%で算出する。			
教科書			
プリントを配布する			

専門演習Ⅱ (法学)	秋 週1回 1単位
担当者：渡辺 英人	
講義の目標及び概要	
<p>「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければならない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2012年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。</p>	
評価方法	
<p>1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習Ⅱ (まちづくり学)	秋 週1回 1単位
担当者：平 修久	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。身近なまちを見直し、まちの価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きも各地で見られる。あるいは、まちの問題を市民が取組む動きも起きている。 そこで、本演習では、大学周辺で実施されているみつばちプロジェクトを学ぶとともに、景観に関して学習する。授業の性格上、学外で行うこともある。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 身近な大学周辺のまちを題材に、まちの見方、問題などへの対応方法を学ぶことにより、考える力を身につけること。</p>	
評価方法	
出席 (30%) 及び授業への参加度合い (発表、グループ作業など、40%)、レポート (30%) により評価する。	
教科書	
<p>田中淳夫『銀座ミツバチ物語—美味しい景観づくりのスズメ』時事通信社 田村明『まちづくりと景観』岩波書店 (岩波新書)</p>	

専門演習Ⅱ (歴史①)	春 週1回 1単位
担当者：東島 誠	
講義の目標及び概要	
<p>◆講義内容◆ 古文書などの「史料」には、いまだ誰も論じていない未発見・未解明の事実が、それこそ無数に埋蔵されている。歴史上の事実を構成していくには、根拠、すなわち「史料」が必要であり、そこから説得力ある議論を導き出すにはどのような手続きが必要なのか、それを実践的に学ぶゼミである。</p> <p>◆カリキュラム上の位置と目標◆ 専門演習Ⅱでは、「史料」をもとに自分で歴史像を描き出す、初めての体験をしてみよう。そのために必要な指導を、初めの第一歩から行なっていきたい。</p> <p>◆学びの意義◆ 先輩たちが証明してきたように、ゼミとは本来、日々新しい学説が生産される現場である。まずは『緑聖文化』第5・6・7号に公表されている、当ゼミの先輩たちの卒論を読んでみよう。そして、ぜひそれに続いてほしい。</p>	
評価方法	
出席、発表、議論への参加 (以上50)、および学期末レポート (50) による。なお、ゼミわけ時に説明のあったように、当ゼミ履修者は、必ず同時開講の「日本史特殊講義」を並行して履修すること。履修しない場合は専門演習Ⅱの単位を取得できない。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習Ⅱ (歴史②)	春 週1回 1単位
担当者：川崎 司	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 「専門演習Ⅰ」の成果を発展させつつ、〈歴史〉から、この世に流れる普遍的な法則をつかみとり、視野の広いしなやかな歴史観を織り込み、新たな〈自分史〉を着実に刻んでいくことを願っている。範囲は原則として「日本近現代史」とするが、〈歴史〉という大きなフィールドの中からテーマを選び、伸び伸びと〈研究〉を楽しんでもらいたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ ここでの鍛錬が「卒業研究Ⅰ」に生かされ、卒業論文作成の礎となることを祈る。</p>	
評価方法	
発表の内容と出席状況を重視します。	
教科書	
プリントを配布する	

専門演習 I (情報学)	春 週1回 1単位
担当者：河島 茂生	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>検索エンジンやマイクロブログ(Twitter)、ネットゲーム、電子書籍などを取り上げながら、情報社会が抱えている問題を意識化することを目指す。</p> <p>授業のスタイルは、前半と後半で変える予定である。前半は、新書や雑誌記事など、比較的手軽に読める文献を参照しながら議論を行う。後半は、前半で重ねた議論の枠内でより細かいテーマを設定し、受講生の経験・調査を踏まえつつそのテーマについて深く議論していく。なお、授業内で受講生に発表・報告を求めるが、その際はレジュメを準備することが必要となる。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>コミュニティ政策学科専門科目群演習科目</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>インターネット技術によって支えられている情報社会は、利便性と同時に負の側面も抱えている。本授業では、情報社会の問題を発見できるように議論していきたい。</p>	
評価方法	
出席状況(25%)と授業態度(25%)および課題(50%)を総合して評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

専門演習 I (情報処理)	春 週1回 1単位
担当者：国分 道雄	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>本演習では、現代の情報化社会において情報および情報機器を主体的に活用するため、情報を科学的に理解し、社会との関わりについて学ぶ。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>コミュニティ政策学科の専門科目で、選択必修の演習科目である。専門知識の基礎を学び、次年度の「卒業研究」の準備とする。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>コンピュータ内部での動作を科学的に理解し、情報機器を問題解決のために主体的に利用できる態度と能力を身につける。</p>	
評価方法	
ゼミへの参加状況(出席、質問・討論の積極性、発表の完成度)50%と期末レポート50%	
教科書	
授業の中で指示する	

専門資料論	秋 週1回 2単位
担当者：岡谷 大	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>専門資料の意義や学術コミュニケーションの構造、電子情報などのインフラを説明し、具体的に人文、社会、自然科学の情報や資料について説明する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>図書館資料論の具体版である。情報検索との関連や学術論、科学社会学との関連もある。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>人文、社会、自然科学の学問的・科学社会的な構造の理解のもとに、具体的に各分野の主要な情報・資料が理解できること、電子情報・資料が理解できること</p>	
評価方法	
期末試験50%、出席50%とし、出席を重視する。	
教科書	
三浦逸雄、野末俊比古『専門資料論』日本図書館協会	

相関文化	春 週1回 2単位
担当者：村松 晋	
講義の目標及び概要	
<p>[授業内容]</p> <p>「日本文化」とは何だろうか。「“日本”にしかない文化」というものは存在するのだろうか。否、そもそも『日本文化』とは何かを問い、それを探り当てようとする試みに、積極的な意義はあるのだろうか。本講義では、私たちの身の回りに息づく諸文化を、世界史的な文脈をも考慮しつつ、多角的かつ重層的な観点から問い質すことにより、上記の問いかけに対する一つの場を提示することを目的としている。</p> <p>[カリキュラム上の位置づけ]</p> <p>入門科目・概説科目に準ずる。1・2年次(なるべく1年次)の受講が望ましい。なお学生の皆さんからの質問等に応じ、授業計画に変更が生じる場合がある。</p> <p>[学びの意義と目標]</p> <p>「日本」「日本文化」「日本人」等々を問い質すための、具体的な場を獲得すること。</p>	
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験の成績によって評価する。 ・ 出席は毎回取る。 ・ 全授業数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。 	
教科書	
プリントを配布する	

相談援助	春 秋 週1回 1単位
担当者：笹瀨 悟	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容</p> <p>相談援助とは、様々な悩みや問題を抱え、それを解決するために援助を求めて来談した人と、一定の訓練と経験を経た職業的専門家である援助者との間の心理的コミュニケーションを通じて行われる援助の事である。まず、相談援助の概要や意義から入り、その理論について考察し、相談援助の方法や技術についての理解を深め、具体的な展開についても学びつつ、様々な相談援助の場面での事例分析を行っていく。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ</p> <p>相談援助によって、来談者に起きることが期待される変化は、来談者の悩みや問題の解決だけでなく、自己実現や個人としての生き方をも含んでいるので、児童学科の基礎科目を終了した段階が望ましい。</p> <p>3 学びの意義と目標</p> <p>希薄化した家族関係や地域社会とのつながりから、狭い限られた人間関係に悩まされ、傷ついている子どもや大人も少なくない時代。相談援助を学ぶことで、これを学んだ者にしかできないことは何か？を考えつつ、相談援助者の存在理由を一緒に求めていきたい。</p>	
評価方法	
定期試験が80%、出席点が20%（受講票による講義への意見、感想、疑問等のほか授業への参加度も評価）	
教科書	
プリントを配布する	

相談援助の基盤と専門職	秋 週2回 4単位
担当者：大野 和男	
講義の目標及び概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。 ・ 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 ・ 相談援助の概念と範囲について理解する。 ・ 相談援助の理念について理解する。 ・ 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 ・ 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。 ・ 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 	
評価方法	
<p>期末試験および授業毎のコメントカードの内容および授業への出席状況により評価する</p> <p>（期末試験による評価を70%、出席状況とコメントカードの内容による評価を30%として、全体評価の基準とする）</p>	
教科書	
柳澤孝主・坂野憲司『相談援助の基盤と専門職』（弘文堂）	

ソーシャルワーク論	春 週2回 4単位
担当者：助川 征雄	
講義の目標及び概要	
<p>この授業は、将来、精神保健福祉士として、精神障がい者やその家族を援助することを目指す学生向けのもので、国家資格取得のための指定科目である。</p> <p>「ソーシャルワーク論」と授業名を打ち出しているねらいは、精神保健福祉援助がソーシャルワーク（社会福祉）の一応用分野であることを常に忘れてはならないという考えに基づいている。内容的には、精神保健福祉援助技術の総論で、援助の基礎知識、実践理論と実際、精神保健福祉士の機能と役割、および先進各国の社会福祉と精神障がい者援助の実際などを紹介し、総合的に学ぶ。</p>	
評価方法	
出席率、小レポート、試験などで総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

組織行動論	春 週2回 4単位
担当者：小林 一之	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>社会生活では人は集団として行動する事が多々あります。集団の中では集団に影響され、人の行動は一人の時とは幾分違ったものになります。組織行動論では組織の中での個人がどんな行動をとるのか、また組織が持つ特徴などを探ります。更に組織をどう効率的に運営させるかなどを学びます。具体的には人の行動を決める“動機づけ”、“集団の意思決定の特徴”、“組織の活性化を促すリーダーシップ”、“組織論”などについて事例を踏まえわかり易く伝えます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>様々な組織の特徴、その効率的な運用の方法を学ぶため、或いは経営管理のための入門的な位置づけです。応用心理学や他の関連する経営管理手法なども紹介します。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>これらの成果は日常生活の中での集団活動にも活用する事が出来ます。また企業の中では重要な経営管理の道具として多く使われており、特に大企業ではマネージャーになるための必須の修得項目の一つになっています。本講ではその基本的考え方を理解すること。</p>	
評価方法	
<p>出席点 : 30%</p> <p>理解力テスト : 70%</p>	
教科書	
プリントを配布する	

卒業演習(カウンセリング論)	秋 週1回 1単位
担当者：長谷川 恵美子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 目的 「ひと」に関する卒業研究テーマを多面的にとらえ、調査、実験、ディスカッションを通して理解を深めることを目的とする。さらに近年の研究成果などを踏まえながら、自らの研究をさらに完成度の高いものへと目指す。受講者は、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習I、専門演習II 卒業研究I、卒業研究II履修後に履修する選択必修科目である。)</p> <p>3. 学びの意義と目標 心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。</p>	
評価方法	
授業への参加状況 報告発表	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業演習(高齢者福祉論)	秋 週1回 1単位
担当者：古谷野 亘	
講義の目標及び概要	
<p>高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について、個人もしくはグループで卒業研究を行った者から、研究の成果と反省点について報告してもらい、個別に指導する。また、卒業研究の成果を論文にまとめようとしている者に対し個別に指導する。</p>	
評価方法	
平常点(ゼミへの貢献度)	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業演習(子ども家庭論)	秋 週1回 1単位
担当者：中谷 茂一	
講義の目標及び概要	
<p>目標：「卒業研究I・II」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートとして4年間の総仕上げを目標とする。</p> <p>概要：自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。</p> <p>卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。</p>	
評価方法	
<p>(1) 卒業演習レポート内容 (2) ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業演習(児童福祉論)	秋 週1回 1単位
担当者：池 弘子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 卒業研究IIで提出・報告した卒業研究レポートの資料不足の部分や十分検討できていない部分等について取り上げ、よりよい卒業研究レポートとし、余裕があればさらに発展させる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習I、II、卒業研究I、IIに続く最後のゼミであり、ゼミの総仕上げとなる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを、形式、内容ともによりよいものとし、さらに発展させることで、卒業研究レポートのテーマに関する知識をより確かなものとするとともに、達成感をもってほしい。</p>	
評価方法	
<p>(1) 出席状況60% (2) レポート40%</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業演習(精神保健福祉論)	秋 週1回 1単位
担当者：相川 章子	
講義の目標及び概要 自らの研究テーマについてさらに探求する	
評価方法 出席、受講態度、グループへの参加等を総合的に評価	
教科書 授業の中で指示する	

卒業演習(ソーシャルワーク論)	秋 週1回 1単位
担当者：助川 征雄	
講義の目標及び概要 主に、グループ討議やテキストを用い、卒業研究のさらなる深化や進路選択の役に立つ授業を行う。あわせて、研究合宿も行う予定。	
評価方法 出席率、小レポート、平常点などで総合的に評価する。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業演習(地域福祉論)	秋 週1回 1単位
担当者：牛津 信忠	
講義の目標及び概要 地域福祉の実際について、ここの研究報告書をベースに自由な討論を行う。その討論の中から、今後の就職した社会福祉領域、それに留まらず地域生活や一般企業の業務においても、地域福祉的発想が、役立ち、かつ重要であることを学んでいく。 さらに、各自のテーマを越えて、他の学友のテーマに接し視野を広げて行くとともに、関連領域に関する広い視野を養うことも重視する。	
評価方法 自己のテーマについて明確な問題意識のもとに人に伝えるとともに、人の語る内容を確実に理解する。その能力を地域福祉という具体の中で養っていく。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業演習(人間関係論)	秋 週1回 1単位
担当者：小山 義徳	
講義の目標及び概要 1. 〈目的〉 卒業研究で行ったことを踏まえ、さらに質の高い研究を目指す。 2. 〈カリキュラム上の位置づけ〉 卒業研究Ⅱ履修後に履修する選択必修科目である。 3. 〈学びの意義と目標〉 論文執筆を通して、問題設定スキル、問題解決スキル、自分が発見したことをプレゼンテーションするスキルを身につけることを目標とする。自分の興味があることに思いっきり取り組めるチャンスです。楽しみましょう。	
評価方法 出席 (50%)、ディスカッションへの参加度 (10%)、プレゼンテーションの技能 (10%)、研究内容 (30%)。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業演習(福祉環境論)	秋 週1回 1単位
担当者：野口 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 専門演習Iから卒業研究IIで取り組んできた研究でやり残したことや、あるいは、これまでとは異なる角度から研究をとらえ直すなど、各自の関心に沿って研究を行います。教室にとどまらず、これまで取り組んできた研究の応用として、関連施設の見学や体験を取り入れ、研究を深めます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ これまで取り組んできた研究活動を振り返り、整理を行うとともに、それにとどまらない広い視野で探求します。</p> <p>3. 学びの意義と目標 社会に出て行く直前の段階であるため、この卒業演習を通して、社会人として必要とされる、コミュニケーション能力、課題発見力、創造力、実行力、積極性、責任感などをあわせて身につけることができるように授業を進めます。</p>	
評価方法	
出席状況・参加姿勢50%、レポート50%で評価します。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業演習(福祉倫理)	秋 週1回 1単位
担当者：左近 豊	
講義の目標及び概要	
福祉倫理に関するテーマを各自で探求し、卒業論文、卒業研究の完成に向けて発表、討論を行う。	
評価方法	
卒業論文、または卒業研究100%	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業演習(レクリエーション論)	秋 週1回 1単位
担当者：梅津 迪子	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) 「専門演習I・II」「卒業研究I」で学習したことを踏まえて、宮本常一『民俗学への旅』、松岡正剛『花鳥風月の科学』を読み合い、各自のQOL(生活の質=生活文化)を高める。一方、制作活動や芸術鑑賞も行う。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 「レクリエーションの本質」は生活文化を享受し豊かな充実した人生を送ることである。そのためには自由時間をどう使うかでその人の人生が決まってくる。物の見方(価値観)を養い、行動し、自己教育力を養う。</p> <p>(学びの意義と目標) 学生にとって4年間の「自由時間をどのように使ったか」は今後の人生を大きく変えることになるであろう。宮本常一が旅立ちの時、父から贈られた十か条は「物の見方」の参考になる。再度、各自でこれからの「生き方」を考えてみよう。</p>	
評価方法	
出席率の重視 50点 授業に臨む態度・意欲・行動 20点 研究発表・意見交換 30点 総合的に評価	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(Pop Culture) I	秋 週1回 1単位
担当者：K. O. アンダスン	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容:映画『Casablanca』、『The Third Man』についてより深く調査・研究し、オーラル・レポートと小論文の書き方を学ぶことに重きを置く。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ:この卒業研究Iは2011年度春学期、専門演習(Pop Culture)IIの継続である。</p> <p>3. 学びの意義と目標:調査・研究方法と小論文の書き方を学ぶ。</p>	
評価方法	
出席 10% 小テスト結果 30% 宿題(レポート)提出結果 30% 期末試験結果 30%	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究 (Pop Culture) II	春 週1回 1単位
担当者: K. O. アンダスン	
講義の目標及び概要	
この卒業研究は2011年度秋学期卒業研究Iの継続である。	
評価方法	
出席 10% 小テスト結果 30% 宿題 (レポート) 提出結果 30% 期末試験結果 30%	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究 (アイデンティティの社会学)	秋 週2回 2単位
担当者: 横山 寿世理	
講義の目標及び概要	
1. 内容 春学期の専門演習の継続で、社会調査のテーマの決定ならびに調査票の設計、実査、集計と分析、報告書の作成を行う。それぞれの段階に応じて課題が出るので、前半はグループワークが重要であり、後半は各自で分析と報告書の作成を進めることになる。	
2. カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科3年次秋学期開講の演習科目であり、専門演習 (アイデンティティの社会学) を修得していないと履修できない。	
3. 学びの意義と目標 春学期に探し当てたテーマとその仮説を検証するという一連の学習であり、春学期に身につけたゼミでの議論の仕方を実践する機会になる。各自グループ内での自分の役目を理解するとともに、自らも段取りよく調査を進めることが求められる。この調査結果を踏まえて卒業論文へ展開することも、大学4年間で学びを総括することもできるだろう。	
評価方法	
グループへの貢献と課題への取り組み (60%)、最終的に提出される報告書の内容 (40%) によって評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究 (アメリカ文化)	秋 週2回 2単位
担当者: 柴田 史子	
講義の目標及び概要	
◆内容 本演習は、専門演習で習得した原書講読と発表の力をさらに磨くとともに、学生一人一人が、自分のテーマを追究してレポートを書く作業をすることによって、卒論執筆への橋渡しをすることを目的とする。	
◆カリキュラム上の位置づけ 3年秋学期の必修科目であり、専門演習 (アメリカ文化) の履修者のみに受講が認められている科目である。	
◆学びの意義と目標 アカデミックな論文の書き方の習得を目指す。	
評価方法	
出席 (30%)、ゼミ発表 (10%)、中間報告 (4回) の提出 (各5%)、最終レポート (4000字以上) (40%)。期末テストは実施しない。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究 (異文化間教育 I)	秋 週1回 1単位
担当者: 佐藤 千瀬	
講義の目標及び概要	
1. 内容 卒業研究は、「専門演習 (異文化間教育I・II)」の延長線上にあり、これまでの学習成果をさらに発展させ、ディスカッションを重ねながら、各自の関心のあるテーマを深めていくことを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する方法を学ぶ。	
2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科専門科目で、「専門演習 (異文化間教育I・II)」に続く、3年次の選択必修科目である。	
3. 学びの意義と目標 ・研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。 ・卒業論文 (レポート) の書き方を学ぶ。	
評価方法	
平常点40% レポート15% 発表45%	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(英語学)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：加曾利 実	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆ 言語と文化について論じます。ソシュールの構造主義言語学について、言語について研究を深化させます。また、意味論の究極的目的と考えられる「比較文化論」についても、英語プリント教材を輪読することによって考究します。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 原則として、テキストの輪読形式で授業を進めていきます。卒業研究は、いわば「学業の仕上げ」と言えます。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ ソシュールの知識を得ることは、人間と言語の本質を考察する上で欠くことのできない、現代人必須の知識です。青春時代は、二度と来ません。頭の柔らかい間に、学問に励んで下さい。</p>	
評価方法	
<p>1. 予習・復習の実行度 (10%) 2. レポートの成績 (20%) 3. 定期試験の成績 (70%) 出席については、学生要覧を参照のこと。</p>	
教科書	
丸山圭三郎『言葉とは何か』ちくま学芸文庫	

卒業研究(英米文学)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：氏家 理恵	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉 「専門演習」に引き続き、前半はレポート合評会、後半は発表とディスカッションを行う。発表する際には事前にレジュメを作成し、担当部分のまとめ・調べてきたこと・考察を述べてもらう。なお、各自の卒業研究テーマについても発表する機会を持ち、ディスカッションを通してそれぞれの研究テーマ決定への足掛りとする。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 この科目は2年間続くゼミの一環である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 「専門演習」Ⅰ・Ⅱでは、作品を読みながら作品分析に慣れると共にレジュメの作り方や発表の仕方を身につけた。「卒業研究Ⅰ」では、引き続きレジュメやレポートの書き方、プレゼンテーションの仕方の指導を行う。また、授業最終時までに各自の卒業研究テーマを決定し、簡単な研究計画とレポート・卒業論文への準備をする期間とする。</p>	
評価方法	
<p>1. 平常点 30% 2. 課題 20% 3. 発表(レジュメ作成含む) 30% 4. 期末レポート 20%</p>	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(英米文学)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：氏家 理恵	
講義の目標及び概要	
<p>〈ゼミ〉での学びの集大成として、卒業研究レポートとその論集を作成する。まず、「卒業研究Ⅰ」で作成した各自の卒業研究テーマに関するレポートを題材にして、アウトライン作成・引用の仕方・注の書き方・画像の使い方など、全員に共通する注意事項をお互いに添削しながら確認する。また、数本ずつ合評をしていき、それぞれの課題を明らかにする。最後に、書式や表現なども含め、説得力のある論理的なレポート作成をするためのポイントの最終確認をしながら、卒業研究レポートを完成させる。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 2年間にわたる〈ゼミ〉の最終段階である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 これまで学んできたさまざまな知識とテクニックを駆使し、各自の研究テーマを深化させ、卒業研究レポートの完成を目指す。ディスカッション中心となるので意欲的な参加を希望する。また、2年間のゼミの集大成としての卒業研究レポートの完成に向けて努めてほしい。</p>	
評価方法	
<p>1. 平常点 40% 2. 課題 20% 3. 卒業研究レポート 40%</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(音楽創造論Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：村山 順吉	
講義の目標及び概要	
<p>「専門演習(音楽創造論Ⅰ・Ⅱ)」での学びのうえに、さらにそれを深め発展させながら各自の研究課題を設定することが、ねらいである。</p> <p>特に「専門演習(音楽創造論Ⅱ)」で立案したプログラムの実践を行いながら、個別或いはテーマに則したいくつかのグループごとに経過の報告と発表、検討を重ねながら進める。</p>	
評価方法	
研究課題設定に向けての取り組みの姿勢。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(音楽創造論Ⅱ)	春集中 1単位
担当者：村山 順吉	
講義の目標及び概要	
<p>「卒業研究(音楽創造論Ⅰ)」で設定したテーマに則して行なってきた研究をまとめ、それを、小論文・卒業演奏・卒業作品のいずれかで発表する。卒業演奏・卒業作品を選択した場合でも、それに至った過程をレポートにまとめ、提出すること。</p>	
評価方法	
テーマに取り組んだ姿勢と発表による。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(外国語教授法)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：長崎 睦子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 専門演習を通して決めた研究テーマに基づき、各自研究を始めていく。文献を多く読み、ブック・レビューとその発表を行いながら、同じゼミ生とのディスカッションを通して研究の方向性を模索し、着実に研究を進めていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 本講義の目的は(1)自分の研究テーマに関する適切な文献を探し読むこと、(2)具体的な研究計画書を作成すること、(3)卒業研究レポートの書き方を学ぶことである。以上のことを通して、研究の流れを理解する。</p>	
評価方法	
平常点(出席や授業への取り組み)25%、卒業レポート・テーマと見出しの発表30%(=15%×2回)文献調査と報告45%(=15%×3回)*評価内容は変更する場合がある。その場合は授業にて説明をするので確認すること。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(外国語教授法)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：長崎 睦子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 卒業研究Ⅰで提出した研究計画書を基に卒業研究レポートを完成させる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 各自が興味、疑問を持ち決定した卒業研究の議題についてさらに調べ、批評し、自分の考えをまとめ、論文を書く。研究議題に対する答えを論理的に述べる。大学での学びの集大成となるよう、卒業研究に真摯に向き合い、納得のいくレポートを完成させることを期待する。</p>	
評価方法	
平常点(出席や授業への取り組み)20%、研究の経過発表20%(10%×2回)、卒業研究の発表20%、卒業研究レポート40%*評価内容は変更する場合がある。その場合は授業にて説明をするので確認すること。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(カウンセリング論)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：長谷川 恵美子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 目的 どのように人間の心や行動を理解し、どのように検証し、どのように記述するのか。まずは、研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ履修後に履修する必修科目である。)</p> <p>3. 学びの意義と目標 心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。</p>	
評価方法	
配布される資料以外に、自らのテーマに関する資料を積極的に集め、知識の幅を広げられるよう積極的に参加すること。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(カウンセリング論)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：長谷川 恵美子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 目的 心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。 特に、自らの研究テーマを、どのようにまとめ、ひとに伝えるのかなど、よりよい報告の仕方や発表方法に関してディスカッションすることにより、発表技術の向上をめざす。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ履修後に履修する必修科目である。)</p> <p>3. 学びの意義と目標 心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。</p>	
評価方法	
授業への参加状況 報告発表	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(学習・教育心理学)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：小山 義徳	
講義の目標及び概要	
受講生が興味があるテーマに関して、これまでにどのような研究が行われてきたかをまとめることを目的とする。学期末には先行研究をまとめた内容を口頭で発表することを行う。	
評価方法	
出席を重視する。中間発表、最終発表、レポート等の提出物を含めた評価を行う。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(環境保全論)	秋 週2回 2単位
担当者：村上 公久	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 始めに全員で地球環境問題を扱った英文の報告書(以下の授業計画の6つの英文報告書)を学び、その中から各自がテーマを選んで、レポートをまとめる。 次に複数のグループに分かれてグループ毎に地球環境問題に関わる課題を設定し、解決への提言をまとめる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目「環境保全論」で学んだ内容を基に、グループ演習によって環境問題の解決への方途を提言する演習科目。</p> <p>3. 学びの意義と目標 専門科目「環境保全論」、「専門演習(環境保全論)」で得た知見を、グループで提言にまとめ発表する能力の獲得。</p>	
評価方法	
出席状況、各自のレポートとその発表、討論を通じてのグループへの貢献度、ゼミ全体への貢献度、学期を通じて学んだまとめとしてのパワー・ポイントによる発表、卒業研究最終レポート、を総合的に評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(教育文化論Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：寺崎 恵子	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容 専門演習(教育文化論Ⅱ)で学んだことを発展させる。研究テーマの設定方法、研究方法、そして研究成果発表の方法を身につけたい。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ 前の専門演習Ⅱから次の卒業研究Ⅱに結びつくように、自主的な研究の基礎を身につけるための科目である。</p> <p>3 学びの意義と目標 各受講生が根気よく研究を続けていく力を養う。仲間とのかかわりあいから、各自の学ぶべきことを見出していくおもしろさに気づくことができるように望む。</p>	
評価方法	
研究進展状況の報告(5点×12回=60点)、中間報告(15点)、まとめの報告(25点)を総合して評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(教育文化論Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：寺崎 恵子	
講義の目標及び概要	
1 内容 卒業研究(教育文化論Ⅰ)で学んだことを発展させて、各受講生の研究を深める。口頭発表や論文発表ができるように、研究内容をまとめる。	
2 カリキュラム上の位置づけ 卒業研究(教育文化論Ⅰ)を学んだ児童学科4年生を対象として開講される科目である。	
3 学びの意義と目標 孤独な研究や閉じこもった学びは不可能である。仲間と共に学ぶなかで、他者の意見を大切に自分の世界を構築する力を養いたい。	
評価方法	
研究進展状況の報告(5点×12回=60点)、中間発表(15点)、まとめの発表(25点)を総合して評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(キリスト教社会倫理)	秋 週2回 2単位
担当者：山口 博	
講義の目標及び概要	
本卒業研究では、学習の集大成としての研究テーマに取り組む。各自が今日にいたるまでの生涯の中で、最も興味のあるテーマを選び、その内容を客観的、学的に解析し後、キリスト教の立場から分析し、内的な洞察 (analysis reflection) を加えるものになりたい。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生諸子の個性と創造性を大切にしながら、問題に取り組む意欲を育む。 ・ あらゆる方法で文献にあたり資料を収集していく。 ・ コンピューターを道具としてインターネットの活用していく。 ・ 各自の興味あるテーマについて自由討論を行う。 ・ 輪番で発表してもらい、各レポートをワープロ文書とて蓄積していく。 ・ 研究活動等を通して互いの絆を固くしていく。 ・ 自らに課したテーマをより具体的に深め、考察力を高めていく。 ・ 結果よりも各自の取り組む姿勢と過程を大切にしていく。 	
評価方法	
出席状況、授業態度、発表の内容や授業参加の積極性等で、総合的判断をする。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(キリスト教文化)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：菊地 順	
講義の目標及び概要	
(1)内容 この授業は、受講者が卒業研究Ⅰで決めた各自のテーマにそって、そのレポートを作成を目指します。受講者は2回の中間発表と最後の完成されたものの発表とが期待されています。	
(2)カリキュラム上の位置づけ 可能ならば(自由ですが)、卒業論文を書くことが期待されていますが、この授業は、それへと至る「卒業レポート」の完成が目指されています。	
(3)学びの意義と目標 受講者の発表が主となりますので、扱うテーマは多様になる可能性があります。同時にいくつかの共通したテーマを決め、その2本立てで授業を進めていきます。右に記した「授業計画」はあくまでも参考です。	
評価方法	
出席状況とレポートを総合して評価します。割合はそれぞれ50%です。なお、出席というのは、授業に積極的に参加することを意味しています。授業のために課された課題などをしてこない場合は、減点になります。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(近現代文化①)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：清水 均	
講義の目標及び概要	
1、内容 春学期に開講された「専門演習Ⅱ」の継続であるが、ここで一度自らの研究テーマについて再検討してもらおう。その上でテーマの変更があれば十分に検討した上で研究発表に取り組んでもらうことになる。	
2、カリキュラム上の位置づけ 「専門演習Ⅱ」での研究発表、レポートを再検討した上で「卒業研究Ⅱ」への継続性を見定める。	
3、研究発表レポート(原稿用紙換算15枚以上)を課す。卒業論文執筆に対して、自分がこれに取り組む可能性があるかどうかを見定めてほしい。	
評価方法	
(1)出席点:40% (2)発表とレポート:50% (3)授業、質疑等への取組をこれに加味する	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(近現代文化①)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：清水 均			
講義の目標及び概要			
1、内容 「卒業研究Ⅰ」までの各自の研究の発展。研究の充実度によって「卒業論文」へと向かってもらう。			
2、カリキュラム上の位置づけ 「卒業研究Ⅰ」までのステップで展開してきた各自の研究の「仕上げ」となる。			
3、学びの意義と目標 大学での専門的な研究の総仕上げとしてレポート30枚(原稿用紙換算)以上を執筆することを目指す。これにより、卒業論文を執筆する者はそのベースを作り上げることになり、それ以外の者にとっては研究の「証」を得ることとなる。いずれにしてもこのゼミで「卒業研究Ⅱ」を履修し終えるということは、卒業後の人生において時代や社会を眼差す力を獲得することになるはずである。			
評価方法			
(1)出席状況50% (2)研究発表及び最終レポート50%			
教科書			
プリントを配布する			

卒業研究(近現代文化②)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：熊谷 芳郎			
講義の目標及び概要			
◆内容◆ 各自が関心のあるテーマの先行研究論文を実際に読み解き、その内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べることによって、参加者全体でディスカッションを行う。中には、まだ自分の問題が明確になっていない場合もあるであろうが、ともに実践記録や論文を読み進めることによって、自分の取り組むべき課題を発見していくことを目指す。			
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 専門演習Ⅱで概説的な文章の読み取りを通して、その分野の概略を理解することを体験した。3年生秋学期のこの講座では、概観的な理解から具体的な課題を発見していくことになる。			
◆学びの意義と目標◆ 目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養ってほしい。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。			
評価方法			
出席、発表、討議への参加状況(50%)、学期末レポート(50%)による。			
教科書			
授業の中で指示する			

卒業研究(近現代文化②)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：熊谷 芳郎			
講義の目標及び概要			
◆内容◆ 各自が関心のあるテーマの先行研究論文を実際に読み解き、その内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べることによって、参加者全体でディスカッションを行う。中には、まだ自分の問題が明確になっていない場合もあるであろうが、ともに実践記録や論文を読み進めることによって、自分の取り組むべき課題を発見していくことを目指す。最終的に学びの総括として研究発表会での発表、および最終レポートの完成につなげる。			
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 卒業研究Ⅰでおおよそ見出したそれぞれの研究テーマについて、先行研究に関する研究を進めるとともに、その整理に基づいて自らの認識を深め体系化する。			
◆学びの意義と目標◆ 目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養ってほしい。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。			
評価方法			
出席、発表、討議への参加状況(50%)、学期末レポート(50%)による。			
教科書			
授業の中で指示する			

卒業研究(近現代文学①)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：黒木 章			
講義の目標及び概要			
〔内容〕 鴎外文学を中心に1910(明治43)年問題を考える。 〔カリキュラム上の位置付け〕 専門演習に続き本格的な文学研究に取り組むために配置される科目である。			
1910年は大逆事件・日韓併合など日本近代史の上でも重要な出来事があり、近代文学史の上でも自然主義に抗して耽美派(谷崎や荷風)や白樺派(武者小路や志賀)が登場するなど重要な展開がみられる。ここでは鴎外の幾つかの小説を読むことを中心にしなからこの年に発表された重要な文学評論を重ねて文学と社会の問題を考える。			
〔学びの意義と目標〕 2010年は大逆事件や日韓併合100年の年として記憶されなければならない。日韓両国でもさまざまな記念行事があるであろう。この二つ出来事に深く関わった森鴎外のようなすを細かく検証することによって日本近代とは何だったのか、文学者(知識人)の責任とは何なのか、周辺の状況を確認しながらこのことを問うてみる。			
評価方法			
発表や質疑を大事にするので、小レポートや普段の授業参加態度を60%、学期末のレポートを40%とみる。			
教科書			
授業の中で指示する			

卒業研究(近現代文学①)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者: 黒木 章				
講義の目標及び概要				
<p>〔内容〕 担当者が始めの3回程度を使って森鴎外研究の例を示す。その後参加者が各自の取り組みを報告し、それをめぐって討議することを繰り返す。参加者は学期中に何度か発表・報告をしなければならない。</p> <p>〔カリキュラム上の位置付け〕 参加者が任意に取組む作品や作家の問題をそれぞれに提示し、それをもとに相互討議を行うことで問題や考察の深化を目差す。これによって参加者が研究方法を身につけて卒業論文が作成できるように実践的な訓練を行う。</p> <p>〔学びの意義〕 大学生活の集大成としての卒業論文の作成はその後の生き方に重要な意味を持つ。この演習における参加者の発表と相互の討議は自分の課題の発見、自分の長所・短所の確認に役立つ。いわば学問研究という方法による自立のための基礎作りになる。</p>				
評価方法				
<p>普段の授業参加態度を30%、報告内容とその後の取り組みを30%、学期末のレポートを40%とみる。</p>				
教科書				
プリントを配布する				

卒業研究(金融市場論)		秋	週2回	2単位
担当者: 柴田 武男				
講義の目標及び概要				
<p>「卒業研究(金融市場論)」では、金融市場に関する論文作成の指導を行う。まず、関連する論文の読解から初めて、専門論文を読みとる方法を学んで、次に、基本的なテーマの選定、論文の書き方を指導する。原則として、担当教員の金融市場論講義・専門演習を受けた上で選択して欲しい。金融市場というテーマ自体が幅広く、大きいので、銀行とか証券だけがテーマだと選択を狭くするつもりはない。幅広く受講生の関心のあるテーマで自発的に取り組んで欲しい。</p> <p>ただし、日頃新聞の経済記事を読み、金融問題についてある程度の知識を有していないと、論文作成は困難であることは留意して欲しい。多重債務者問題・貸金業規制法改正問題・株式の新興市場など金融市場を巡る様々な問題に日頃関心を持っている受講者であれば、大歓迎である。</p>				
評価方法				
<p>出席点(50%)およびレポート(50%)で評価する。卒業研究レポートの提出は、は単位認定の前提であることを留意すること。</p>				
教科書				
授業の中で指示する				

卒業研究(経営管理)		秋	週2回	2単位
担当者: 後藤 兼一				
講義の目標及び概要				
<p>演習の目標: 経営管理に関する一連の講義及び実習、さらに専門演習で学習した内容をもとに自分で決めた課題について実際に調査し研究することによって経営管理の考え方を自分なりに集大成することが本演習の目的です。最初に研究したい課題(テーマ)を明らかにし、次に何故その研究がしたいのか動機を明らかにし、最後に実際に調査し研究してみることによって、研究することの意味や価値を実感することを演習の目標とします。</p> <p>演習の概要: 演習で行う内容は大方次の通りです。まず何を研究したいのか(課題)、何故そのことを研究したいのか(動機)を明らかにします。次に、何を調べたのか(文献調査と現地調査)、何がどうなっているのか(実態と実体)、何がどのような仕組みになっているのか(構造と機能)、さらに何を細分化したのか(分析と解析)、そして何が分かったのか(本質と結論)を整理します。以上を詰めることによって、研究することの意味や価値を実感することを演習の目標とします。演習の特徴は、経営管理で使われている、用語を比較する形で行なわれるところにある。</p>				
評価方法				
<p>卒論ゼミでは演習を進めると同時に、学生同士及び教員との親睦をはかることをも大切にしている。学期末定期試験はない。従って評価は出席状況40%とレポート60%を総合して決める。</p>				
教科書				
授業の中で指示する				

卒業研究(言語①)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者: 小林 茂之				
講義の目標及び概要				
<p>〔内容〕 生成文法に基づいた比較統語論と通時統語論の入門書を講読するとともに、認知言語学などの諸理論を取り上げ、卒業研究を進展させる。 本演習では、「原理とパラメータ理論」に基づく比較統語論・通時統語論を取り上げるとともに、認知言語学に基づくアプローチを取り上げ、ゼミ参加者が卒業論文作成のテーマを探るのに役立つ。</p> <p>〔カリキュラム上の位置づけ〕 卒業研究を進展させ、卒業論文作成の準備をする。</p> <p>〔学びの意義と目標〕 現代言語学における生成文法研究と認知言語学をやや詳しく学び、言語研究・言語教育系への就職・進学するための準備をする。</p>				
評価方法				
<p>出席(30/100)、ゼミでの発表・報告(30/100)、ゼミへの参加度(質疑応答)(20/100)・単位レポート(20/100)。</p>				
教科書				
<p>Ian Roberts 『Diachronic Syntax』 Oxford University Press 大門正幸 『「主語」とは何か—英語と日本語を比べて』 中部大学出版局 George Lakoff and Mark Turner 『More than Cool Reason』 The University of Chicago Press</p>				

卒業研究(言語②) I	秋	週1回	1単位
担当者：川口 さち子			
講義の目標及び概要			
<p>(内容) 敬語・文法・語彙・アクセントなどを含む現代語のゆれ、日本語と外国語との比較対照などを扱う。テーマを各自決めて、実例を採取・分析し、発表・質疑応答を行う。分析する資料は、テレビ番組、雑誌、新聞、小説、アンケート調査、インタビューなど自由に選ぶこととする。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 卒業研究Ⅱに結びつくように自分のテーマをみつけ、更に深めていくこと。</p> <p>(学びの意義と目標) 課題を与えられてレポートを書くという形式ではなく、自分のテーマをみつけて、地道に研究していくという姿勢を身につけること。</p>			
評価方法			
調査発表・レポートの内容(60%)、討論への参加度(20%)、出席状況(20%)を総合して判定する。			
教科書			
プリントを配布する			

卒業研究(言語②) II	春	週1回	1単位
担当者：川口 さち子			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容</p> <p>「卒業研究Ⅰ」に引き続き、敬語・文法・語彙・アクセントなどを含む現代語のゆれ、日本語と外国語との比較対照などを扱う。テーマを各自決めて、実例を採取・分析し、発表・質疑応答を行う。分析する資料は、テレビ番組、雑誌、新聞、小説、アンケート調査、インタビューなど自由に選ぶこととする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「卒業研究Ⅰ」で扱ったテーマを各自深め、ある程度まとまった論文を書き、卒業論文へのステップとなるようにしたい。</p> <p>3. 学びの目標</p> <p>ゼミとしては、最後の課程となるので、各自まとまった論文と言えるレベルのものを書くこと。</p>			
評価方法			
調査発表・レポートの内容(60%)、討論への参加度(20%)、出席状況(20%)を総合して判定する。			
教科書			
プリントを配布する			

卒業研究(言語③) I	秋	週1回	1単位
担当者：黒崎 佐仁子			
講義の目標及び概要			
<p>【内容】</p> <p>自らの疑問点を明確にし、調査計画を立て、調査を実施し、その結果から根拠を求める練習をする。卒業研究Ⅰでは、調査結果や独自の考察を発表するだけでなく、先行研究に目を向けることや文章にまとめることも学ぶ。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】【学びの意義】</p> <p>卒業研究Ⅱに結びつくテーマを見つけること、更に、どのような資料で根拠を求めるかを各自で考えていく。</p>			
評価方法			
出席20%、発表40%、レポート30%、参加態度10%。			
教科書			
授業の中で指示する			

卒業研究(言語と社会) I	秋	週1回	1単位
担当者：D. バーガー			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容:このゼミでは言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語と社会」と並行するが、専門演習Ⅰ、Ⅱと同様に、より深く追求することができる。卒業研究Ⅰの主要課題は危機言語と言語復興である。主に、アイヌ語、琉球語、ハワイ語、アメリカ先住民の諸言語を始め、それぞれの社会において英語と日本語がその言語の危機状態に貢献する役割を果たすことを研究する。受講生は各課題について研究し、書面でも口頭でも発表する。学期末にその課題の中から1つ選び、または専門演習Ⅰ、Ⅱに調べたテーマを続き、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ:卒業研究Ⅰは専門演習Ⅰ、Ⅱの続きで、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。</p> <p>3. 学びの目標:このゼミの目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、このゼミは受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。</p>			
評価方法			
授業への出席；15% 授業での参加態度；20% それぞれの課題についてのレポート；10% その口頭発表；25% 卒業研究Ⅰ最終研究レポート；15% その口頭発表 15%			
教科書			
プリントを配布する			

卒業研究(言語と社会)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：D. パーガー	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容：卒業研究Ⅱの主要課題は差別語である。主に、日本とアメリカ社会における人種・民族差別語、性差別語、包括語（男女包括用語）について研究する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生は今までのゼミと同様に、各課題について研究し、書面でも口頭でも発表する。学期末にその課題の中から1つ選ぶか、または専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰで調べたテーマを引き続き調べ、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められている。卒業論文を書きたい学生はテーマを選び、研究を今学期中に始めるべきである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：卒業研究Ⅱは専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰの続きで、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。</p> <p>3. 学びの目標：このゼミの目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、このゼミは受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。</p>	
評価方法	
授業への出席；15% 授業での参加態度；20% それぞれの課題についてのレポート；10% その口頭発表；25% 卒業研究Ⅱ最終研究レポート；15% その口頭発表 15%	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：佐藤 啓介	
講義の目標及び概要	
<p>1) 内容 専門演習で身につけた知識と技術を用いて、実際に自分で関心のあるテーマを選び、卒業研究Ⅱで仕上げを目指し、また卒業論文につながるような研究を進めていきます。同時に、卒業研究Ⅰでは、研究を具体的に進めるのに必要な情報検索技術、研究を他人に発表するのに必要なパワーポイントなどの活用法についても、指導をおこないます。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目としての選択必修科目であり、2年間にわたるゼミの後半段階にあたります。</p> <p>3) 学びの意義と目標 これまで体験することのなかった「まとまった分量の研究」を遂行できる力と技術を習得し、それによって、社会人として求められる調査力・考察力・発表力と、国際人として求められるグローバルな視点を養うことを目指します。</p>	
評価方法	
発表点 (60%)、討論への参加度 (40%)	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：佐藤 啓介	
講義の目標及び概要	
<p>1) 内容 専門演習で身につけた知識と技術を用いて、実際に自分で関心のあるテーマを選び、卒業研究Ⅰで準備してきた研究の完成を目指します。卒業研究Ⅱでは、大きなテーマを一つの文章にまとめる文章技法、人に伝わる表現技法など、文章指導を重視します。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目としての選択必修科目であり、2年間にわたるゼミの最後の段階にあたります。</p> <p>3) 学びの意義と目標 これまで体験することのなかった「まとまった分量の研究」を遂行できる力と技術を習得し、それによって、社会人として求められる調査力・考察力・発表力・文章力と、国際人として求められるグローバルな視点を養うことを目指します。</p>	
評価方法	
発表点 (30%)、研究レポート (50%)、討論への参加度 (20%)	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(高齢者福祉論)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：古谷野 亘	
講義の目標及び概要	
<p>高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について、個人もしくはグループで卒業研究を行う者に、個別に指導する。また、卒業研究の成果を論文にまとめようとする者については、選考のうえ、必要に応じて個別に指導する。</p>	
評価方法	
平常点 (ゼミへの貢献度)	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(高齢者福祉論)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：古谷野 亘	
講義の目標及び概要 高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について、個人もしくはグループで卒業研究を行う者に、個別に指導する。また、卒業研究の成果を論文にまとめようとする者については、選考のうえ、必要に応じて個別に指導する。	
評価方法 研究成果をレポートにまとめて提出させる。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究(国際政治論)	秋 週2回 2単位
担当者：秋吉 祐子	
講義の目標及び概要 〈内容〉：本科目は専門演習での学習成果をさらに発展させることである。授業は二形態ある。A. 専門演習の自主研究をさらに進展させること。(1)各受講生の自主研究プレゼンテーション(プレゼン、PI・PII)、それに基づく質疑・応答、討論を行う。(2)レポート類作成(論文、フロアー評価レポート等)を行う。(3)ディベートを行う。(4)適時に講義・VTR活用授業を行う。B. 体験学習においては(1)農業体験：米作り(稲刈り)、(2)ヴェリタス祭参加(予定)。 備考：各授業のメニューや課題等はウェブサイトNet Commonsにて通知・相互通信する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉本科目は政治経済学科の選択必修専門演習の上級科目。 〈学びの意義と目標〉(1)上記テーマへの学習により人間社会の根本的在り方を模索する。(2)受講生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。(3)実社会でも有効な様々な能力・スキルを育成する。(AO・AV機器を活用した様々な形態の発表・発言能力と技術の育成。)	
評価方法 評価項目 プレゼン・レジュメ・司会・質疑/応答・討論・ディベート・レポート等60%、体験学習30%および授業態度10%。但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。	
教科書 授業の中で指示する 『日本の論点 2011年』文藝春秋社	

卒業研究(古典文学②)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：渡辺 正人	
講義の目標及び概要 本演習では、春学期に引き続き各自のテーマを深めてゆくこととする。 春学期は研究史を学ぶことを重視したが、今学期はそれに加えて研究史を批判的に読めるような姿勢を目指したい。	
評価方法 出席40%、発表40%、質問等授業参加の姿勢など20%で評価する。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究(古典文学②)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：渡辺 正人	
講義の目標及び概要 各自のテーマに基づき、読みを深めてゆく。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 専門のテーマを掘り下げ、理解を深め、自分の見解を示したい。 〈学びの意義と目標〉 (1)文化への深い理解をすすめる。 (2)論文を批判的に読み込む力をつける。 (3)方法論にそって、自分の考えを深め、まとめる。 の3項目は研究する態度である。	
評価方法 発表・資料作成80%、授業時の質問など20%による。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究(子ども家庭論) I	秋 週1回 1単位
担当者: 中谷 茂一	
講義の目標及び概要	
<p>目標: 「専門演習I・II」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポート・卒業論文作成を目標とする。</p> <p>概要: 自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。</p> <p>卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。</p>	
評価方法	
<p>(1) 卒業研究レポート内容</p> <p>(2) ディスカッション参加状況</p> <p>上記の総合評価による。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(子ども家庭論) II	春 週1回 1単位
担当者: 中谷 茂一	
講義の目標及び概要	
<p>目標: 「卒業研究I」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートを目標とする。</p> <p>概要: 自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。</p> <p>テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。</p>	
評価方法	
<p>(1) 卒業研究レポート内容</p> <p>(2) ディスカッション参加状況</p> <p>上記の総合評価による。</p>	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(コミュニティ政策)	春 週2回 2単位
担当者: 国分 道雄	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>本演習では、「専門演習」で各自が関心を持ったテーマを深化させ、研究を進める。文献購読や発表を行い、卒業研究レポートのテーマを確定する。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>コミュニティ政策学科の専門科目で、選択必修の演習科目である。「専門演習」に引き続き、専門知識の応用を学ぶ。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>コミュニティ政策について理解を深め、各自の問題関心のある領域で一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。</p>	
評価方法	
ゼミへの参加状況(出席、質問・討論の積極性、発表の完成度)50%と卒業研究レポート50%	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(算数 I)	秋 週1回 1単位
担当者: 佐藤 逸子	
講義の目標及び概要	
<p>算数における数学的な背景を理解し、数学的な見通しをもって算数を指導し、子どもたちの考える力・態度を育成し、子どもたちの豊かな発想を如何に引き出すかが教員としての力量となる。培ってきた算数力をさらに深めて、具現化を目指していく。</p>	
評価方法	
研究への態度及びレポートの内容を総合して評価する。毎回の出席が前提となる。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(算数Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：佐藤 逸子	
講義の目標及び概要 卒業研究(算数Ⅰ)をさらに発展させて、調査や文献検索を行い、各学生が理解を深めて生きたい事柄、例えば個々の児童に望ましい算数教育指導方法や教材開発に関して、研究を完成させることを目標とし、研究成果を互いに共有していく。	
評価方法 研究への態度・研究発表やレポートの内容を総合して評価する。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究(思想①)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：清水 正之	
講義の目標及び概要 各自が、卒業研究にむけて、テーマを設定できるよう、発表と討論を中心にすすめます。 またテーマに沿った参考資料の探し方、その扱い方を、学んでいきます。	
評価方法 出席状況、課題発表、期末レポートを総合的に評価する。課題発表へのとりくみを50%、出席30%、レポート20%とし、特に課題発表を重視する。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究(思想①)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：清水 正之	
講義の目標及び概要 1. 内容 思想をテーマに卒業研究をまとめる学生のための演習形式の授業です。各自の問題関心に沿った発表と討論を中心にすすめます。 2. カリキュラム上の位置づけ 卒業研究を仕上げるための準備的な位置づけの授業です。 3. 学びの意義と目標 卒業研究を仕上げ、自己表現を完全にちかづけるための目標設定、方法、態度、論理構成などを学びます。	
評価方法 出席(50%)と成果発表(50%)とによって総合的に評価する。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究(思想②)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：村松 晋	
講義の目標及び概要 参加者各自が、専門演習Ⅱ(思想(2))で取り組んだテーマを発展させることを目的とする。対象領域も専門演習Ⅱのそれに準ずる。	
評価方法 発表と期末レポートが全てである。 全授業数の三分の一以上を欠席した者には発表資格を与えない。 多忙な時期であることは理解するが、無断欠席した場合には、極めて大きく減点する。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究(思想②)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：村松 晋				
講義の目標及び概要				
最終学年の最後のゼミとして、名実ともに大学生活を総括する学びの場である。一人でも多くの人に、卒業論文を書いてほしいと希っている。				
評価方法				
発表と期末レポートが全てである。全授業数の三分の一以上を欠席した者には発表資格を与えない。多忙な時期であることは理解するが、無断欠席した場合には、極めて大きく減点する。				
教科書				
授業の中で指示する				

卒業研究(思想③)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：柳田 洋夫				
講義の目標及び概要				
<p>〈内容〉</p> <p>担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそも日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、〈日本人の心の歴史〉に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>専門演習での学びを踏まえつつ、それぞれのテーマのまとめに取りかかるための準備。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解する。さらに、これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。</p>				
評価方法				
出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。				
教科書				
授業の中で指示する				

卒業研究(思想③)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：柳田 洋夫				
講義の目標及び概要				
<p>〈内容〉</p> <p>担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそも日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、〈日本人の心の歴史〉に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>卒業研究Ⅰでの学びを踏まえつつ、それぞれのテーマの最終的まとめに向けて準備する。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解する。さらに、これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。</p>				
評価方法				
出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。				
教科書				
授業の中で指示する				

卒業研究(児童英語教育)Ⅰ		秋	週1回	1単位								
担当者：東 仁美												
講義の目標及び概要												
<p>1. 内容</p> <p>専門演習で勉強してきた英語教育の分野から、自分の関心のある分野を探し出し、その先行研究を始める。学期末課題としてそれらをレポートにまとめ、研究課題を見つけ、文献研究を始める。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>欧米文化学科専門科目群の演習科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>演習を通して、各自の卒業研究テーマを決定し、卒業論文の内容を明確にしていく。</p>												
評価方法												
<table border="0"> <tr> <td>授業への出席、参加</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>学期末課題</td> <td>20%</td> </tr> </table>					授業への出席、参加	20%	プレゼンテーション	30%	レポート	30%	学期末課題	20%
授業への出席、参加	20%											
プレゼンテーション	30%											
レポート	30%											
学期末課題	20%											
教科書												
プリントを配布する												

卒業研究 (児童英語教育) II	春 週1回 1単位
担当者: 東 仁美	
講義の目標及び概要	
1. 内容 原書講読をしながら、卒業論文のテーマ選び、研究方法の指導、論文作成にとりかかる。英語教育学の分野の中から、自分が興味を持てるテーマを選び、資料検索、データ集めを個別指導を交えながら行っていく。	
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。	
3. 学びの意義と目標 専門演習、卒業研究のまとめとして、自分のテーマを深めるとともに卒論執筆に向けての準備をする。	
評価方法	
授業への出席、参加	20%
資料購読、レポート	20%
プレゼンテーション	30%
卒業研究レポート	30%
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究 (児童学 I)	秋 週1回 1単位
担当者: 田澤 薫	
講義の目標及び概要	
1. 内容 専門演習 (児童学 II) の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って子どもをめぐる様々な主題に取り組むことで、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。	
2. 学びの意義と目標 子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。自分の問題関心を深める方法論を選んで子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。	
評価方法	
出席した上での積極的な参加 (発言) 20%	課題報告 30%
レポート 50%	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究 (児童学 II)	春 週1回 1単位
担当者: 田澤 薫	
講義の目標及び概要	
1. 内容 卒業研究 (児童学 I) で取り組んだ受講生各々の卒業研究を発展させ、子どもを研究の対象と捉えた活動の成果を「卒業研究レポート」としてまとめ、発表する。	
2. 学びの意義と目標 子どもを軸とした自らの関心に沿って、調べたり実践したりすることを通して考えることの具体的な方法を実践的に習得する。子ども研究の面白さ、奥深さ、難しさを体験的に学ぶ。自ら取り組んだ成果を大切に扱い、まとめ、人に伝える手法を実践しながら身につける。受講生同士の成果に関心をもって尊重しあい、学びあう経験をする。	
評価方法	
出席した上での積極的な参加 (発言) 20%	課題報告 30%
レポート 50%	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究 (児童教育学 I)	秋 週1回 1単位
担当者: 永井 理恵子	
講義の目標及び概要	
専門演習 I・II で修得した基礎的専門知識と研究技法をもとに、卒業研究 I では、各自の個別の研究課題を設定し、その研究を進める。指導形態は個別指導を主とし、適宜、ゼミナール形式での講義をもつ。卒業研究は大学生活の集大成であるから、課題設定は個人の興味関心を最優先に重んじておこなう。受講者は児童をとりまくあらゆる事象から課題を選ぶことができ、それを教育的に分析考察する。本ゼミナールは実技ではなく文献購読を中心とするため、そのことを承諾すること。	
評価方法	
平素の学習・研究意欲や態度を総合的に考えて評価する。出席回数のカウントなども柔軟に対応し、個別に学外に調査に出たりもする。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(児童教育学Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：永井 理恵子	
講義の目標及び概要	
<p>大学における研究活動の最終段階となる卒業研究(児童教育学Ⅱ)では、Iの時からおこなってきた研究課題を更に追究し、自らの課題に関する詳細な基礎的調査研究をもとに、自らの見解を述べるまで達成することを目標とする。卒業研究Iで選び、接近してきた各自の課題を、より一層ふかく掘り進め、その研究課題に関する豊かな知識をもったうえで、それに対して自分なりの教育的提言ができるところに到達することを目標とする。指導形態は主として個別指導。</p>	
評価方法	
平素の研究態度と、一定の成果。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(児童福祉実践論Ⅰ)	春 週1回 1単位
担当者：金谷 京子	
講義の目標及び概要	
<p>本演習では、事前の演習で積み上げてきた自己課題をまとめ、研究報告として完成させる手段を学ぶ。また、ボランティア実践を積み重ね経験をまとめて、報告書を作成する。</p>	
評価方法	
レポートと課題の発表をもって評価する。ボランティア実績も評価の対象とする。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(児童福祉実践論Ⅱ)	秋 週1回 1単位
担当者：金谷 京子	
講義の目標及び概要	
<p>本演習で、児童福祉実践論Ⅰで学習したことをもとに、卒業研究として演習報告書をまとめていく。ボランティア実績もさらに継続して積み上げていく。</p>	
評価方法	
レポートと課題の発表、およびボランティア活動のまとめをもって評価の対象とする	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(児童福祉論Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：池 弘子	
講義の目標及び概要	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 内容 各自が選択したテーマについて、専門演習Ⅱで調べてきたことを検討し、テーマをしばって卒業研究レポートにまとめる方向づけをする。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰ、Ⅱが基礎となる。 3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを書く準備をする。 	
評価方法	
(1)出席状況 40% (2)演習への参加度 30% (3)レポート 30%	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(児童福祉論)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：池 弘子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 各自が選択したテーマについて、専門演習Ⅰ、Ⅱで学び、卒業研究Ⅰで準備してきたことに基づいて、卒業研究にまとめる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰが基礎となる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを執筆する。</p>	
評価方法	
<p>(1)出席状況 20%</p> <p>(2)演習への参加度 20%</p> <p>(3)レポート 60%</p>	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(児童文学Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：松本 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>(1)〈内容〉このゼミは、毎回のテーマに合った作品を各自が持ち寄り、ディスカッションを行う形で授業を進める。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習ⅠとⅡで身につけた国語力をさらに向上させ、卒業研究としてまとめる準備をするためのゼミである。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉様々な児童文学を通して、日本語の豊かな語彙・運用力を身につけ、教員を目指す社会人として、自分の考えを自分の言葉で発表できるようになることを目標とする。</p>	
評価方法	
毎回の発表40%、レポート40%、卒業研究レジュメ20%で評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(児童文学Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：松本 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>(1)〈内容〉これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめる。授業は、それぞれの論文作成の経過報告とディスカッションで進められる。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習ⅠとⅡ、卒業研究Ⅰで身につけた国語力を卒業研究レポートとして形にするためのゼミ。また、卒業論文作成の準備となるゼミ。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉教員を目指す社会人として、自分自身の考えを的確な表現力で文章化する力を身につけることを目標とする。</p>	
評価方法	
口頭発表30%、卒業研究レポート50%、平常点20%で評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(児童臨床心理学Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：山田 麻有美	
講義の目標及び概要	
<p>(1)〈内容〉専門演習(児童臨床心理学)で習得した心理学的ないし科学的なものの見方をもとに、受講生各自は、興味関心のある研究分野を絞り、掘り下げていく。具体的には、各受講生が興味関心のあるテーマを決定し、そのテーマに関する文献や情報の収集、或いは観察を行い、その内容をレポートする。この一連のレポートを相互に紹介し合い、討論を重ね、各自の研究計画を作成する。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉児童学科専門科目で、専門演習Ⅱ(児童臨床心理学)を履修した者が受講する卒業必修科目である。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉受講生は、専門演習Ⅰ及びⅡで習得した心理学的なものの見方を用いて、自らの研究テーマを決定し、研究計画を立てていくのであるが、その過程で、将来社会人として要請される、課題解決の手順や方法の基礎などを身につけることが期待される。</p>	
評価方法	
各自で選んだ研究テーマの文献や情報の収集などの状況(60%)と、討論への参加度(30%)、出席(10%)の合計により評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(児童臨床心理学Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：山田 麻有美	
講義の目標及び概要	
<p>(1)〈内容〉受講生は、専門演習(児童臨床心理学)及び卒業研究Ⅰ(児童臨床心理学)において学習してきたことを集大成し、卒業論文作成の準備を行う。これまでに収集した文献や情報をもとに卒業研究Ⅰで立てた研究計画を再検討し、研究計画を実施していく。また受講生は、各自の研究の進捗状況を報告し、相互に意見を交換しあうことにより、各自の研究を更に深め、卒業論文の基礎となる自らの考え方や資料を整理し、まとめる。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉児童学科専門科目で、卒業研究Ⅰ(児童臨床心理学)を履修した者が受講する卒業必修科目である。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉大学4年間の学びの集大成としての卒業論文作成のための準備を行うことが目標である。この過程で、受講生相互の知見がより深まり、卒業後、社会人として要請される課題解決の手順や方法を身につけることが期待される。</p>	
評価方法	
具体的な研究計画の内容および研究の進捗状況(60%)と、討論への参加度(30%)、出席(10%)の合計により評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(社会科Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：川瀬 敏行	
講義の目標及び概要	
<p>卒業研究(社会Ⅰ)の続きとして、調査研究を継続し、卒業研究(卒業論文)として仕上げることを目指す。</p> <p>現地学習(1)(2)は、土曜か日曜に振り替えて実施予定です。</p> <p>後半に、教員採用試験対策として、社会科全体について取り上げる予定です。</p>	
評価方法	
参加状況、調査研究の結果に基づいて総合的に評価します。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(生涯学習Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：小池 茂子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 専門演習(生涯学習Ⅱ)の学習内容と踏まえ、各自の関心を論文に仕上げていくための基礎能力を養うことを目指し、人の書いた文章を批判的に読み、分析を加え、自分の意見をそれに加えて行くというテキスト批評の仕方を学ぶ。</p> <p>2. 学びの意義と目標 先行研究の文献を読み解く能力を養うことを目指す。</p>	
評価方法	
出席した上での積極的な参加(発言)20%、発表30%、レポート50%で総合的に評価する。	
教科書	
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会	

卒業研究(生涯学習Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：小池 茂子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめることを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する。授業は、それぞれの経過報告とディスカッションで進められる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科専門科目で、「卒業研究(生涯学習Ⅰ)」に続く、選択必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。卒業論文の書き方を学ぶ。</p>	
評価方法	
平常点 20%、卒業研究レポート40%、発表40%で総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会	

卒業研究(障害児心理Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：石川 由美子	
講義の目標及び概要	
<p>専門演習Ⅱ（障害児心理Ⅱ）を終了した方の受講となります。</p> <p>専門演習Ⅱで関心のあるテーマを見つけ出した方たちが、実際に研究デザインについて学び、自らのデザインを作成、発表、修正する過程を学んでいきます。これまでの専門演習の学びから実践での研究手法を学びたい方には、フィールドでのシングルケースデザインなどについて、実践を踏まえながらの学びを提供していきます。</p> <p>なお、ゼミでは障害児支援に理解のある幼稚園・保育園での観察学習、大学の発達相談での個別援助などを通しての学びにも力を入れたいと考えています。</p> <p>[カリキュラムの位置づけ]</p> <p>専門演習Ⅰ・Ⅱの学びの上に位置づけられる科目である。</p> <p>[教育の意義と目標]</p> <p>研究のための計画立案とその方法等について学ぶことができる</p>	
評価方法	
デザインの作成、発表、修正を評価の対象とします。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(障害児心理Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：石川 由美子	
講義の目標及び概要	
<p>障害児あるいは気になる子どもへの支援に関わるテーマで、各自が立てた研究デザインに基づき、具体的に実践をしてみる。文献研究、調査研究、観察研究、個別支援研究など、各自の計画に基づいた助言を行なっていく。</p> <p>データの整理、分析、結果、考察など、各自の研究デザインに沿って研究報告書の書き方を学ぶ。</p> <p>なお、ゼミでは、障害児支援に理解のある幼稚園・保育園での観察学習や大学の発達相談などでの個別援助での学びにも力を入れたいと考えています。</p> <p>[カリキュラムの位置づけ]</p> <p>卒業研究Ⅱを学習した上に位置づけられるものである。専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業演習Ⅰまでの学びの総仕上げとなる。</p> <p>[教育の目標と意義]</p> <p>研究デザインに基づいて、研究に必要な方法を実践することで研究論文を書くための基礎能力を身につける。</p>	
評価方法	
個人作業が多くなります。そのつど積極的に取り組んでいるか、報告書の内容などを評価の対象とします。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(声楽Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：藤田 明	
講義の目標及び概要	
<p>1) 内容</p> <p>専門演習で学んだことにも関する事柄と音楽によるより良い環境とは何かを研究し、それを踏まえながらこの演習では、学生自身が課題を見つけて研究する。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>歌唱表現や詩の朗読、語りのために必要なテクニックを更に深めていく。</p> <p>3) まなびの意義と目標</p> <p>この演習では、学生一人一人が自ら選んだ課題を教師の助言を受けながら研究していくので、今まで学んだ表現方法の応用がいかに生かせるかが問われる。</p>	
評価方法	
試験・発表50% 積極性30% 出席20%	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(声楽Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：藤田 明	
講義の目標及び概要	
<p>1) 内容</p> <p>卒業研究(声楽Ⅰ)で行った内容を更に進め、学生一人一人がさらに高度な表現が出来るように進めていきたい。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>卒業研究(声楽Ⅰ)で研究してきた音楽表現の集大成として学生自身が選んだ課題のまとめを行う。</p> <p>3) 学びの意義と目標</p> <p>今まで学んできた音楽表現を更に深め、学生自身が自信を持って小学校や幼稚園、保育所に行けるようになって欲しい。</p>	
評価方法	
試験・発表50% 積極性30% 出席20%	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(生活支援論) I	秋 週1回 1単位
担当者：田村 綾子	
講義の目標及び概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習や演習科目における学びを踏まえ、ソーシャルワーカーに必要な価値、知識、技術の統合を目指して各自が関心のあるテーマを設定し、研究に臨むことを奨励する。 ・文献講読の他、各自またはグループ単位での調査研究をおこない、研究成果を発表して意見交換する。 	
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究への主体的取り組みの評価として、プレゼンテーションとレポートの内容(50%)を重視する ・出席率(20%)及び参加姿勢(30%)を加味する。 	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(政治過程論)	秋 週2回 2単位
担当者：高橋 愛子	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉本来は春学期開講の「専門演習(政治過程論)」の延長線上に位置づけられており、本演習希望者は、春学期開講の上記「専門演習」を必修とする(但し特別の理由・事情のある場合、相談に応じる)。基本的に、学期の前半は共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の研究課題についての進捗状況を報告、議論する。報告と議論を重ねて次年度に取り組む「卒業論文」の土台・骨格の形成を図る。学期末に「小論文」の提出が求められる。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉3年次秋学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。</p> <p>〈学びの意義と目標〉基本的なテキストの読解力を得ること(要点を把握し、レジュメを作成し、プレゼンする)、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、独自の研究テーマへの理解を深めること。</p>	
評価方法	
第1に平常点(出席率)30%、第2に授業への「コミットメント」(発言頻度:毎回1回以上の発言を求める)(30%)、第3に学期終了時に提出する「小論文」(40%)。以上3点を総合して評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(政治経済学)	春 週2回 2単位
担当者：土方 透/田中 佳	
講義の目標及び概要	
<p>本科目は、政治経済学科で春学期に開講される唯一の「再履修用」ゼミである。履修は、原則として、9月卒業を目指す108P以上の学生に限られる。政治経済学科の専門演習を履修済みのこと(ただし科目は問わない)。</p> <p>本卒業研究で扱う具体的なテーマは、受講生との相談の上で決定する。受講生には一定の読書課題や調査課題が与えられるため、主体的な参加が求められる。文献の講読、報告、討議という一連の作業を経て、既存の社会システムを相対的・批判的に再検討するきっかけを提供することを目的とする。</p>	
評価方法	
ゼミへの参加度、課題への取り組み、研究発表の内容を総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(政治哲学)	秋 週2回 2単位
担当者：森分 大輔	
講義の目標及び概要	
<p>〈内容〉春学期開講の「専門演習(政治哲学)」の延長線上に位置づけられており、本演習履修者は「専門演習」を必修とする(但し特別の理由・事情のある場合、相談に応じる)。春学期における学習を前提として、新たなテキストの講読と議論を行う。基本的に、学期の前半は共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の進捗状況を報告、議論する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉3年次秋学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。</p> <p>〈学びの意義と目標〉基本的なテキストの読解力を得ること(読む、書く、話すという社会科学の必要な基本スキルの習得)、政治学的な関心を深めること、独自の研究テーマへの理解を深めることの三点である。</p>	
評価方法	
出席(20%)、授業貢献(30%)、ファイナルレポート(50%)の3点を総合して評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(精神保健福祉論) I		秋	週1回	1単位
担当者：相川 章子				
講義の目標及び概要				
1. 内容 専門演習Ⅱで深めた学びをもとに、各受講者の関心あるテーマにおいて、研究レポートおよび研究活動それぞれ選択したことについてまとめる。				
2. カリキュラム上の位置づけ 自らの感心ごとを具体化させ、まとめる応用的な位置づけである。				
3. 学びの意義と目標 自分自身の関心のあるテーマに真剣に取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスの中で、豊かな発想力、想像力、調査力、実行力、実践力を身につけ、知識を獲得し、自らの視点を身につける。				
*卒業研究レポートを選択した学生は、研究レポートの提出をする。				
卒業研究活動の実践を選択した学生は、卒業研究活動の実践とその振り返りレポートを提出する。				
*暫時、個別指導を行う。				
評価方法				
(1)出席状況 (30%)				
(2)ディスカッション等への参加や発表 (30%)				
(3)レポート (40%)				
教科書				
授業の中で指示する				

卒業研究(精神保健福祉論) II		春	週1回	1単位
担当者：相川 章子				
講義の目標及び概要				
1. 内容 卒業研究Iでしぼりこんだ各受講者の研究テーマについて、研究レポートおよび研究活動のそれぞれ選択した内容について主体的に調べ、作業をすすめ、まとめ、発表をする。				
2. カリキュラム上の位置づけ 卒業研究の総仕上げ。				
3. 学びの意義と目標 自分自身の関心のあるテーマに真剣に取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスの中で、論理的な考え方や思考の組み立てについて学ぶ。これまでに培った想像力や調査力、実行力に磨きをかけ、それらを整理し、表現することを学ぶ。				
*卒業研究レポートを選択した学生は、研究レポートの提出をする。				
卒業研究活動の実践を選択した学生は、卒業研究活動の実践とその振り返りレポートを提出する。				
*暫時、個別指導を行う。				
評価方法				
(1)出席状況 (30%)				
(2)ディスカッション等への参加や発表 (30%)				
(3)レポート (40%)				
教科書				
授業の中で指示する				

卒業研究(造形教育論Ⅱ)		秋	週1回	1単位
担当者：喜田 敬				
講義の目標及び概要				
1) 内容 本授業では、卒業制作と卒業研究レポートのうちの一つを選んで完成させる。定期的に研究、制作の経過報告を行う。また、制作を選択した受講者は、作品の教育的効果等に関する説明文書を作品に添付することが期待される。				
2) カリキュラム上の位置づけ 児童学科4年生の必修科目である。				
3) 学びの意義と目標 卒業研究ないしは卒業制作の完成させることで、独自の視点から児童教育に造形教育が果たす役割について考えることを目標としている。				
評価方法				
出席状況 20%				
個人発表 20%				
卒業制作作品ないしは卒業研究レポート 60%				
教科書				
プリントを配布する				

卒業研究(ソーシャルワーク論) I		秋	週1回	1単位
担当者：助川 征雄				
講義の目標及び概要				
1 卒業研究テーマの設定指導 (個別、集団)				
2 卒業研究の個別指導				
評価方法				
論文(中間レポート)の成果、平常点などで評価する。				
教科書				
授業の中で指示する				

卒業研究(ソーシャルワーク論) II 春 週1回 1単位
担当者: 助川 征雄
講義の目標及び概要 個別研究テーマにそった個別指導をさらに進化させる。また、中間、最終報告会なども行う。
評価方法 研究論文(レポート)を提出させ、その成果により評価する。
教科書 授業の中で指示する

卒業研究(地域圏研究ロシア) 秋 週2回 2単位
担当者: 飯島 康夫
講義の目標及び概要 1. 概要 476年、西ローマ帝国が滅んだ後、ローマ教会は800年頃から、東の教会から離れ始める。この結果、1054年、東と西の教会は分裂。さて、東ローマ帝国は1453年まで存続。ローマ・カトリック教会を柱とする西欧とギリシア正教会を擁するロシアという対立図式が出来上がる。ルネサンス以降、西欧は目覚しく発展し、やがてロシアは西欧に習い、近代化を進めようとするが、その一方で、もう一つのキリスト教をいただく国としての自負、西欧に劣るはずがないという自信も保ち続ける。西欧より後れているという意識と西欧に優ると意識——これら矛盾した二つの意識がロシア思想史の全体を貫いている。これらを紹介すること。 2. 目標 ドストエフスキーを通じて隣国ロシアの宗教・文化・思想に深く解れて理解すること。 3. 期待する理解度 原典ドストエフスキーを日本語で輪読し、ロシアの文化・宗教・習慣について、卒業研究論文の基礎となる論文を提出、加筆、修正の後、一定の推準の理解に深めること。
評価方法 出席率(50%)と卒業研究論文の完成度(50%)による。
教科書 授業の中で指示する ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟上、中、下巻』新潮文庫

卒業研究(地域福祉論) I 秋 週1回 1単位
担当者: 牛津 信忠
講義の目標及び概要 〈内容〉専門演習IIでテーマ設定して書き上げたレポートをもとに、それをさらに掘り下げて、専門的な研究領域を持つことを示す卒業レポートを作成して行くための準備を行う。 〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習で研究した内容をさらに質量ともに高度化させて、自分の見解をまとめて行く。 〈学びの意義と目標〉専門演習で研究した地域福祉の課題を体系的に学び進め、章立て、節立てを明確にし、それぞれについて個別指導を受けながら全体のレポート構成を固めていく。そのプロセスで他の受講者からの批判検討を自ら咀嚼して行く努力をし、それによる自己研鑽を図る。
評価方法 テーマに即した発表とその発表時における質疑応答、さらに学期末最終レポートによって評価する。授業の折の発表及び質疑応答を30%、最終レポートを70%として総合評価を行う。
教科書 授業の中で指示する 牛津信忠著『社会福祉における相互的人格主義II』久美出版

卒業研究(地域福祉論) II 春 週1回 1単位
担当者: 牛津 信忠
講義の目標及び概要 〈内容〉卒業研究Iで各自が設定したテーマの内容をさらに深く掘り下げて、地域福祉の独自の専門的な研究領域を持つことを目指し、それについての卒業レポートを作成して行く。 〈カリキュラム上の位置づけ〉卒研Iで研究した内容をさらに質量ともに高度化させて、卒業にあたり、独自の(地域福祉)研究を卒業レポートにまとめる。この成果をもって卒業研究とする。 〈学びの意義と目標〉地域福祉の課題を体系的に学び進め、個別指導を受けながらテーマに応じたレポート構成を固め、当該課題の解明と論理的な纏めを行う。また研究が一応纏まった段階で、各自にそのつど発表を求める。このなかで他のメンバーとの討論を経て、内容のさらなる充実をはかる。それにより相互の意見交換の中で創造的な行為が出来る人材を養うことをも目的とする。成果は、研究室に保存し、後輩の閲覧に供する。
評価方法 テーマに即した発表とその発表時における質疑応答、さらに学期末最終レポートによって評価する。授業の折の発表及び質疑応答を30%、最終レポートを70%として総合評価を行う。
教科書 授業の中で指示する 牛津信忠著『社会福祉における相互的人格主義』久美出版

卒業研究(日本教育史Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：石津 靖大	
講義の目標及び概要	
1. 内容 本年度の演習は、これまでに取り組んできた演習と諸々の専門学習を点検し、共同研究を重ねながら各々の実習課題を把握する。平行して必要な資料や教材を準備し、課題へ向っての対策を実践的に立てる。実習終了後は従来の専門演習の研究を継続してゆく。したがってその主たる内容は、小学校教員採用試験における教職教養と専門教養の傾向対策の研究となる。	
2. カリキュラム上の位置づけ 教育実習ならびに教職研究との関連に留意するところの学科の専門科目としての演習である。	
3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための基礎的な知識の傾向と対策を研究して、教師としての肝どころをより	
評価方法	
平常点（出席、発表ならびに討議、態度に基づき総合的に判断）にて評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(日本政治思想史)	秋 週2回 2単位
担当者：吉田 博司	
講義の目標及び概要	
1. 内容 近代日本の政治家及び思想家の研究指導をします。学生のテーマ設定、報告、討論の時間です。	
2. カリキュラム上の位置 卒業研究は学生の主体的な勉強の深化を目指す専門科目です。	
3. 学びの意義と目標 歴史に興味をもち、人間への深い洞察を養って下さい。	
評価方法	
論文報告と討論評価による。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(日本文化Ⅱ)	秋 週1回 1単位
担当者：村松 晋	
講義の目標及び概要	
大学生生活を総括するため、4年の秋学期に特に設けられているゼミである。履修者はその意味を強く自覚した上で、毎回、真実に参加を続けること。内容、進行方法は卒業研究Iに準ずる。	
評価方法	
授業参加と発表により評価する。 全出席回数数の三分の一以上の欠席者は単位を与えない。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(人間関係論Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：小山 義徳	
講義の目標及び概要	
履修者の興味のあるテーマに関する先行研究に基づき、調査・実験・観察等の手法を用いて、自分が立てた仮説の検討を行う。そして、その結果を、ほかの人に伝わりやすい形でまとめ、期末に口頭発表を行う。	
評価方法	
出席を重視する。中間発表及び期末発表の内容を含めて評価を行う。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(比較憲法)	秋 週2回 2単位
担当者：石川 裕一郎	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 春期の「専門演習(比較憲法)」を踏まえ、受講者各々が各自のテーマを設定し、調査・研究・発表・討論を重ねることによって完成度の高い論文を仕上げます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本学のみならず現下の日本の多くの大学において3年次に設置されている演習科目、いわゆる「ゼミ」の後半期です。いうまでもないことですが、学生にとっては大学での研究(「学び」ではない)の中核に位置します。</p> <p>3. 学びの意義と目標 具体的な意義と目標は、法律上は「成年」であるところの各受講者のモチベーションに依拠しますが、とにかく事実を観察し、ひたすら読書をし、公権力や社会的権力から一方的に搾取されない賢い市民＝国民＝労働者となることを目指します。</p>	
評価方法	
論文報告・作成(50%)に加え、毎回の授業における討論への参加状況(50%)等を中心とした授業への貢献度を総合的に勘案して評価します。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(比較政治学)	秋 週2回 2単位
担当者：松尾 秀哉	
講義の目標及び概要	
<p>内容) 本演習では、1) 共通の事例研究を通して研究の具体的手法を学んだ後、2) 受講者個々のテーマを設定し、その報告と参加者の議論、指導を行なう。共通テーマは受講者と相談するが、「新しい社会運動」「政党システムの変容」などを考えている。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ) 専門演習の履修を前提に、履修者の研究を指導する。白紙の段階から研究計画を立て、調査を進め報告することを通じて、社会科学的発想を身につける。</p> <p>学びの意義と目標) 先行研究の批判、さらに他者との討論を通じて、批判的思考力を高める。また、資料収集とその整理を通じて、客観的な分析力を身につける。</p>	
評価方法	
出席と討論への参加(50%)、必要な回数の報告(50%)を必須とする。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(比較文化 アジア①) II	春 週1回 1単位
担当者：渡辺 正人	
講義の目標及び概要	
<p>各自のテーマを深め、読みを進めてゆきたい。特に問題点をさぐりながら、解決してゆく方向を学んでゆきたい。具体的には卒業論文を意識しつつ、読みを深めるつもりである。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 専門のテーマを掘り下げ、理解を深め、自分の見解を示したい。 (学びの意義と目標) (1) 文化への深い理解をすすめる。 (2) 論文を批判的に読み込む力をつける。 (3) 方法論にそって、自分の考えを深め、まとめる。 の3項目は研究する態度である。</p>	
評価方法	
出席40%、発表40%、質問等授業参加の姿勢20%で評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(比較文化 アジア②) II	春 週1回 1単位
担当者：濱田 寛	
講義の目標及び概要	
<p>卒業論文執筆に向けた実践的な指導を行う。授業の形態は「演習発表(個人発表)」が中心となる。問題の所在、調査の方法、結論に到る考察の在り方、等々について詳細な検討を行うため、発表担当者には十全な準備を求めることになる。90分の授業運営については、60分程度の発表、30分程度の質疑応答で構成する。30分に満たない、あるいは準備不足の発表については再度の発表を設定することになろう。各自2回の発表担当を目指したい。</p>	
評価方法	
演習発表…20% 演習参加度…40% 学期末レポート…40%	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(比較文化)Ⅱ	秋 週1回 1単位
担当者：稲田 敦子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>比較文化論を問題関心の領域とし、「専門演習」および「卒業研究」Iでとりあげた文献を終身にして、論文の主題を決定し、章立ての内容をつめる。</p> <p>これまでの演習の集大成として、ゼミ論文集を作成するため、各履修者の主題についての個別指導、中間発表、草稿の執筆を経て、論文を完成する研究態度が身につくようにしたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>比較文化の専門演習および卒業研究の集大成として、各自の問題意識の醸成を促進するとともに、論文を作成する基本作業としての資料検索および草稿段階の論理構成を学び、論文を完成させることを目標とする。</p>	
評価方法	
(1)資料購読(25%) (2)テーマ別発表(25%) (3)ゼミレポート(25%) (4)参加度(25%)を総合して算出する。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(比較文化 欧米)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：菊池 有希	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>卒業研究Iでは、専門演習I及び専門演習IIで学んだことを土台にして、ゼミ生各人の問題意識を卒業研究というかたちまでに、発展・成熟させてゆく作法を学んでゆく。具体的には、自身の研究テーマについての先行研究に当たりつつ、自身の考えに客観性を付与してゆく作業が中心となるであろう。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>卒業論文・卒業レポート執筆のための準備運動という位置づけになる。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>卒業研究においては、自身の意見・解釈をいかに他者に対して説得的に語ってゆくか、ということが大事なコンセプトとなる。地道な調査と緻密な論理的思考をぜひ身に付けて欲しいと思う。</p>	
評価方法	
平常点20%+発表30%+レポート50%で算出する。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(福祉環境論)Ⅰ	春 秋 週1回 1単位
担当者：野口 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。レポート作成、発表、ディスカッションを繰り返し、研究の進め方についての理解をいっそう深めながら、各自の研究を充実させ、卒業研究レポートや卒業論文に向けた基礎固めを行います。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>これまで専門演習で学んできたことを基礎として、個人で自立して研究を行い、4年生の卒業研究Ⅱや卒業論文まで継続します。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>研究の中身を充実させ、着実に研究を進めていきます。そして、学生同士で主体的にディスカッションを行い、自分の言葉で成果をまとめていくことを目標にします。</p>	
評価方法	
出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(福祉環境論)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：野口 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。卒業研究Iに引き続き、レポート作成、発表、ディスカッションを繰り返し、研究の進め方についての理解をいっそう深めながら、各自の研究を充実させ、卒業研究レポートの完成または卒業論文の基礎固めを行います。</p> <p>また、各自の研究とは別に、数回グループ研究を行い、学生主体でディスカッションや見学会などの企画を行います。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>卒業研究Iで取り組んだ研究をより充実させ、卒業研究、卒業論文としてまとめます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>これまで学んできたことを基礎として、スパイラルアップしながら、いっそう研究を充実させて行きます。そして、研究の意義や面白さ、充実感を体験していただきたいと思います。</p>	
評価方法	
出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(福祉倫理) I	秋 週1回 1単位
担当者：左近 豊	
講義の目標及び概要 福祉倫理に関するテーマを各自が探求し、卒業論文、卒業研究の作成のために研究発表、討論をおこなう。	
評価方法 研究レポート 100%	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究(福祉倫理) II	春 週1回 1単位
担当者：左近 豊	
講義の目標及び概要 福祉倫理に関するテーマを各自で探求し、卒業論文、卒業研究の作成のために発表と討論を行う。	
評価方法 研究レポート100%	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究(フランス文学) I	秋 週1回 1単位
担当者：鹿瀬 颯枝	
講義の目標及び概要 この授業は、講義科目ではなく専門演習後の総仕上げとなる卒業研究ですから、引き続き、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思えます。 既に「専門演習(フランス文学)」の終了前に各人の卒業研究テーマが提出されているので、変更のない限り、それに沿って指導していきます。それぞれが関心を持ったテーマについて十分に研究が成されるよう、参考文献などの紹介、レポート添削、中間発表などを充実させていきます。全員が満足のいくような研究レポートを仕上げられるように願っています。	
評価方法 授業への積極的な参加度50%、研究発表+研究レポート50%	
教科書 プリントを配布する	

卒業研究(フランス文学) II	春 週1回 1単位
担当者：鹿瀬 颯枝	
講義の目標及び概要 この授業は、講義科目ではなく専門演習後の総仕上げとなる卒業研究ですから、引き続き、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思えます。 既に「専門演習(フランス文学)」の終了前に各人の卒業研究テーマが提出されているので、変更のない限り、それに沿って指導していきます。それぞれが関心を持ったテーマについて十分に研究が成されるよう、参考文献などの紹介、レポート添削、中間発表などを充実させていきます。全員が満足のいくような研究レポートを仕上げられるように願っています。	
評価方法 授業への積極的な参加度50%、研究発表+研究レポート50%	
教科書 プリントを配布する	

卒業研究(保育実践論Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：相川 徳孝	
講義の目標及び概要	
<p>1. 目的 「卒業研究」は「専門演習(保育実践論Ⅰ、Ⅱ)」の延長線上にあり、いままで学んできたことを基に各自が研究テーマを決め、集大成することを目指すものである。そのために演習を通して提出されたレポートをそれぞれが個別に検討するとともに、全員での討論材料として提供し、互いに討論し合いながら授業を進めていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 各自の子どもや保育に対する興味から自己課題、研究方法について見出すことを目標とする。</p>	
評価方法	
演習への参加(30%)とレポート(70%)	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(保育実践論Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：相川 徳孝	
講義の目標及び概要	
<p>1. 目的 いままで行ってきたことを基に各自が研究テーマを決め、集大成することを目指すものである。そのために演習を通して提出されたレポートをそれぞれが個別に検討するとともに、全員での討論材料として提供し、互いに討論し合いながら授業を進めていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科必修の課目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 多角的な角度から子どもを見つめ、保育者として必要な実践力を養うことを目標とする。</p>	
評価方法	
レポート課題提出(80%)と討論への取り組み(20%)	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(法思想史)	秋 週2回 2単位
担当者：加藤 恵司	
講義の目標及び概要	
各自与えられたテーマに従って、進級論文を作成し、提出する。卒業論文に向けて訓練し、指導する。	
評価方法	
専門演習履習と同じ。	
教科書	
授業の中で指示する 加藤恵司『法・思想・歴史』ジーオー企画出版	

卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：和田 光司	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)本講義では、専門演習で養成したプレゼンテーション能力を基礎として、これの実践的發展を志す。従来と同様細かい評価表により学生相互に批評を行う。また実社会での基礎スキルと見なされているパワーポイントの習得に努める。テーマとしては、各学生が欧米文化の中から自らの関心に合うものを自由に選択し、各自の知的関心を高める。 (カリキュラム上の位置)自由研究の入門 (学びの意義と目標)パワーポイント技術の習得、歴史研究方法の理解</p>	
評価方法	
出席・授業参加への積極性(50%)、発表内容(50%)	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：和田 光司	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) 本講義では、卒業研究Ⅰに続いてプレゼンテーション能力の一層の実践的発展を志す。従来と同様細かい評価表により学生相互に批評を行う。また実社会での基礎スキルと見なされているパワーポイントの習得に努める。テーマとしては、各学生が欧米文化の中から自らの関心に合うものを自由に選択し、各自の知的関心を高める。状況が許せば記念論集を製作する。</p> <p>(カリキュラム上の位置) 卒業研究Ⅰの発展 (学びの意義と目標) パワーポイント技術の向上、自由研究による知的関心の育成</p>	
評価方法	
自分の発表の準備を行う。構想を立て、資料を集め、読解し、分析し、パワーポイントを準備する。発表前にはリハーサルを行う。日ごろからコンピューターに親しみ、スキルアップを目指す。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(理論社会学)	秋 週2回 2単位
担当者：土方 透	
講義の目標及び概要	
<p>専門演習(理論社会学)の成果をふまえ、卒論の完成へ向けて指導を行う。</p>	
評価方法	
日々の準備、毎回の参加内容。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(歴史①)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：東島 誠	
講義の目標及び概要	
<p>◆講義内容◆ 各自が関心のあるテーマの先行研究論文を、複数読み比べることが、一つの基本文献に取り組んできた「専門演習」と、最も異なる点である。複数の論者の〈差異〉を追究することで、必ずや第三の新しい論が立ち現れてくるであろう。それが卒業論文への第一歩である。まだ自分のなかで問題が明確になってない場合でも、ともに図書館を渉猟することによって、ぜひとも自分の取り組むべきテーマを発見してほしい。</p> <p>◆カリキュラム上の位置と目標◆ 専門演習Ⅱで、実際に「史料」をもとに歴史を考える端緒についたわけだが、つづく卒業研究Ⅰでは、これまでの歴史家がどのように「史料」から歴史を考えてきたか、数多くの論文に触れてほしい。</p> <p>◆学びの意義◆ 取り組むべきテーマを発見したとき、先人たちはその問題をどのように考えようとしたのか、に学んでほしい。そして、その作業を体験することを通じて、よりよい問題解決の方法を自ら模索してほしい。</p>	
評価方法	
出席、発表、議論への参加(以上50%)、および学期末レポート(50%)による。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(歴史①)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：東島 誠	
講義の目標及び概要	
<p>◆講義内容◆ 各自の関心に基づく自由発表の指導を通じて、卒業論文を完成させるために必要な調査力・分析力の鍛錬を行なう。議論に参加すること、議論を組み立てていくことの、難しさと楽しさを味わってほしい。</p> <p>◆カリキュラム上の位置と目標◆ 4年生はいよいよ卒業論文を書き上げる年次であるが、春学期の段階では、まだテーマを絞り過ぎないほうがよい。幅広い研究文献や史料に触れる豊かな時間としてほしい。</p> <p>◆学びの意義◆ 自分の研究を論文にまとめるという作業は、自分の中だけで完結する営みでは決してない。研究論文は、それを読む人があってはじめて研究論文たりうるというよい。つまり論文とは、パブリックなものなのである。卒業研究Ⅱの演習の場は、自分の主張が、自分とは異なる価値観を持つ他の参加者に届くかどうかを試す、絶好のチャンスである。同じ趣味や関心を持つものにしか通じない、〈隠語〉の世界に閉じこもってはいはならない。そのような意味で、この訓練は卒業後、社会に出ても役立ててほしい。</p>	
評価方法	
出席、発表、議論への参加(以上50%)、および学期末レポート(50%)による。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究(歴史②) I	秋 週1回 1単位
担当者：川崎 司	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 「専門演習」で身につけた実力を発揮する時がいよいよ来た。たとえテーマを決めかねていても、迷いの歳月は決してむだにはならない。一生懸命求めれば、必ず自分の道が見えてくる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 「卒業論文」の作成が当面の目標となる。就職など諸活動との調和を計りたい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 「卒業論文」には相当の時間と集中力を要する。一時も早いスタートを望む。</p>	
評価方法	
発表の内容と出席状況を重視する。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(歴史②) II	春 週1回 1単位
担当者：川崎 司	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 大学における学びの総仕上げとして、できれば全員が「卒業論文」に挑んでもらいたい。就職活動とは決して行き違うことはない。(社会)もあなたが「大学」という恵まれた天地で何を学んできたのか注目している。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 「卒論論文」の作成とは、自分を徹底して見つめる作業だ。その切実な体験があるかどうか。あなたは人生の分岐点にさしかかっている。今こそ未知の世界へと進み出ようではないか。</p>	
評価方法	
発表内容と出席状況を重視する。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究(レクリエーション論) II	春 週1回 1単位
担当者：梅津 迪子	
講義の目標及び概要	
<p>(内容) 「卒業研究I」で蓄積した研究を論文として完成できるようにする。これまで発表した研究範囲を絞り、さらに深く掘り下げる。一方、豊かな生活文化を享受するために制作活動も体験する。(カリキュラム上の位置づけ) 論文作成ばかりでなく、自己のQOLを追求すること、豊かな感性と他者への配慮、幅広い教養やコミュニケーション力を体験活動(経験)を通して身につける。 (学びの意義と目標) さまざまな体験を通して、自分の生き方の方向を定め「何に価値をもつか」を考える。また、豊かな人間性と生活の質を高める能力を身につける。</p>	
評価方法	
出席率の重視 50点 授業に臨む態度・意欲・行動力20点 発表・意見交換・課題提出 30点 総合で評価する	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究 I (管理学)	秋 週1回 1単位
担当者：清澤 達夫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 卒業研究Iの目的は、「専門演習」で養ってきたドラッカー経営思想のより一層の深化である。その結果が、卒業研究レポートとしてまとめられ、大学在学中のメモリアルにさせていただくことを願っております。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 上記レポートにまとめるための基礎準備と経営管理に関する輪読を、ドラッカーの『マネジメント』を通じて行なっていきます。</p> <p>3. 学びの意義と目標 この過程において自ら計画したものを調査し、論理的にまとめる能力を身につけていきます。</p>	
評価方法	
配点は、ゼミの出席(60%)とゼミでの参加・討議(40%)をもって、総合的に評価します。	
教科書	
授業の中で指示する P.F. ドラッカー/上田惇生『マネジメントー基本と原則[エッセンシャル版]』ダイヤモンド社	

卒業研究 I (キリスト教社会倫理)	春 週1回 1単位
担当者：佐野 正子	
講義の目標及び概要	
<p>内容：「人権」をキーワードに、コミュニティにおける倫理的諸問題を取り上げる。具体的にはさまざまな社会倫理の問題（いじめ、高齢者問題、企業倫理、部落差別、野宿労働者、外国人労働者、派遣切り、無縁社会と無縁死）を取り上げる。各学生がテーマを決め、研究をまとめて発表し、そのテーマのもとに討論をおこなう。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：3年生必修科目</p> <p>学びの意義と目標：コミュニティにおける社会倫理的諸問題を具体的に探求することにより、問題点を把握し、よりよいコミュニティのあり方についての理解を深めることを学びの目標とする。</p>	
評価方法	
出席を重視し、各学生の発表内容や討論の参加度、学期末レポートなどを総合的に判定し評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究 I (金融論)	春 週1回 1単位
担当者：鈴木 真実哉	
講義の目標及び概要	
<p>専門演習I・IIにおいて学んだことを基礎として、さらに応用的・発展的な学習を進めてゆく。最終的には卒業論文の作成につながるようにする。</p>	
評価方法	
演習での発表・レポート・出席等を総合的に考慮して評価する。無断欠席は単位の放棄とみなすことがある。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究 I (経済学)	春 週1回 1単位
担当者：石部 公男	
講義の目標及び概要	
<p>1. 目的 経済学に関連する内容について、各自が研究対象とするテーマを選び、毎回の授業でそれを発表する形式をとります。これにより卒業論文の科目ではないが、これに近い学習成果を期待するので、論文作成に準ずる能力の養成を目的としている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ この科目はいわゆる講義科目ではありません。経済学または経済事象に関係のある事柄について、講義科目としての経済学や関連領域の各科目を学習し、さらに経済学の演習を履修したものが、原則として履修できる科目です。したがって3年次生の履修を前提としている。また更なる研究を目指すものが卒業論文を書く基礎として位置づけている。</p> <p>3. 学びの意義と目標 研究対象について、概ね1万字以上の文章を書かせ、科学的客観的に物事を判断できる能力と文章作成能力の養成を目的とする。</p>	
評価方法	
日常の研究発表内容と態度および出席率50% 卒業研究としての論文内容50%の合計で評価。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究 I (公共哲学)	春 週1回 1単位
担当者：谷口 隆一郎	
講義の目標及び概要	
<p>【この演習の狙いと目的】は、(1)公共・民主的的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにあります。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していきます。(2)論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。演習の課題等については、私の「公共哲学」のシラバスも参照してください。</p> <p>【演習の進め方】(1)1年かけて、多くの文献を精読・精解する。(2)文献をレジメにまとめ報告・議論する。(3)卒業論文のテーマにつながるトピックを決める。</p> <p>研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやっていきたいと考えています。</p>	
評価方法	
小論文1本(4000字以上)、レジメ、授業貢献度、出席率で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。合宿を何度か実施する。	
教科書	
授業の中で指示する 川崎修・杉田敦『現代政治理論』有斐閣	

卒業研究 I (コミュニティ・ビジネス論) 春 週1回 1単位
担当者：瀬名 浩一
講義の目標及び概要 (内容) 2009年度、2010年度ゼミでまとめたテキスト『コミュニティ・ビジネスが社会を救う』『コミュニティを復活させるビジネス』を輪読することにより、保育園の建設、生協組織による在宅介護ネットワーク、病児保育のネットワーク化など福祉ビジネスのほか、環境ビジネス、街づくり会社など民間企業、NPO、住民と公共がいかに連携してコミュニティが直面している問題を解決してきたか10件の具体的ケースについて研究する。 (カリキュラム上の位置づけ) 卒業研究 II への準備段階 (学びの意義と目標) 参加する住民のスピリット、組織の作り方、資金調達の方法などを学ぶことによりPPP (パブリック・プライベート。パートナーシップ) の有効性を理解できる。
評価方法 レジュメの作成 30%、プレゼンテーション 40%、小論文30%
教科書 授業の中で指示する

卒業研究 I (情報倫理) 春 週1回 1単位
担当者：竹井 潔
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 卒業研究Iでは、専門演習で行ってきたことをさらに発展させていく。 ◆学びの意義◆ 情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく
評価方法 平常点40%、レポート60%
教科書 授業の中で指示する

卒業研究 I (政治学) 春 週1回 1単位
担当者：川添 美央子
講義の目標及び概要 各自の関心に従って、現代日本の政治に関する問題を選び、調査のうえ発表し、最終的にはレポートを書いてもらう。
評価方法 平常点 (出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等) と、学期末提出のレポートを1:1の比率で評価する
教科書 授業の中で指示する

卒業研究 I (地域社会論) 春 週1回 1単位
担当者：大高 研道
講義の目標及び概要 1. 内容 現代的課題克服の主体研究が中心テーマとなる。本演習では、「専門演習」での学びを通して醸成された知見にもとづいて選択されたテキストにもとづいて、各自が関心のある課題について、自由に報告・議論する。その上で、卒業レポートのテーマを確定し、調査方法論および論文執筆の基本的技法について学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の必修科目である。専門知識の応用を学ぶと同時に、卒業研究レポートの作成に向けた理論検討および調査を実施する。 3. 学びの意義と目標 最終的には、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや市民社会組織の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。
評価方法 ・ゼミへの参加状況 (報告内容、討論時の積極性:50%) およびレポート (50%)。 ・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は大幅な減点の対象となる。
教科書 授業の中で指示する

卒業研究 I (地域福祉)	春 週1回 1単位
担当者：大塚 健司	
講義の目標及び概要	
(1)内容 介護保険の創設、社会福祉基礎構造改革（措置から契約へ）等福祉の大きな流れの中で、社会福祉法に地域福祉の推進が位置づけられました。 この授業では、専門演習（地域福祉）で学んだ地域福祉の考え方や各自がテーマに沿って自分で調べた市町村の地域福祉推進計画等を基礎に、さらに、計画の進捗状況やモデル的な地域福祉の取り組みについて調べ、論議をしていきます。その中から課題や問題点を見つけ、研究を深めて、論文にまとめあげるようにしていきます。	
(2)カリキュラム上の位置づけ 演習科目である。専門演習I、II（地域福祉）に引き続いた科目である。	
(3)学びの意義と目標 課題や問題点の発見、論点整理、まとめを身につける。	
評価方法	
レポート提出内容、発表、論議参加状況80%、出席20%により評価	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究 I (日本経済論)	春 週1回 1単位
担当者：大森 達也	
講義の目標及び概要	
卒業研究Iの目的は、専門演習IIで選んだ各自の課題についての卒業研究レポートを作成する準備を進めることである。	
評価方法	
(1)研究計画書の作成 (20%) (2)文献リストの作成 (20%) (3)各中間発表 (20%、合計40%) (4)発表とディスカッションへの参加 (20%)	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究 I (法学)	春 週1回 1単位
担当者：渡辺 英人	
講義の目標及び概要	
「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければならない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2012年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。このゼミを通して、大学三年生に相応しい卒業研究を指導する。これを基に四年生になったら「卒業論文」を執筆して欲しい。	
評価方法	
1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究 I (まちづくり学)	春 週1回 1単位
担当者：平 修久	
講義の目標及び概要	
1. 内容 大学周辺地域を対象にして、活性化計画もしくはまちの改善計画を検討する。具体的内容を取上げ、詳細な計画を作成する。これらの作業を通して、計画作成の流れを学ぶ。	
2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。	
3. 学びの意義と目標 専門演習で修得した知識、作業経験を活かし、さらに、まちづくりに関する知識を深める。まちに対する観察力を深め、フィールドワークを行うことにより、考える力を身につけること。	
評価方法	
出席 (30%) 及び授業への参加度合い (発表、グループ作業など、40%)、レポート (30%) により評価する。	
教科書	
大江正章『地域の力—食・農・まちづくり』岩波新書	

卒業研究Ⅰ（リスク対策論）	春 週1回 1単位
担当者：標 宣男	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容 新聞紙上に現れた様々なリスク事象、例えば科学技術システムの事故、医療事故あるいは健康リスクをもたらすハザードなどについて調査し、その原因及び防止対策を検討する。その際、そのリスク事象を組織事故としてとらえることを試みる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、コミュニティー政策学科の専門科目における、選択必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 自分で問題を考え、答えを探ることを学ぶ。</p>	
評価方法	
レポートの内容およびレポートを聞いている時には質問の有無により総合的に評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究Ⅱ（管理学）	秋 週1回 1単位
担当者：清澤 達夫	
講義の目標及び概要	
<p>1. 目的 卒業研究Ⅱの目的は、自ら関心のある営利・非営利組織に関わるテーマを経営管理学の視点から研究・調査して論文にまとめて、最後のゼミで各自発表できる能力を身につけていくことです。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 論文にまとめるための基礎準備と経営管理に関する輪読を、卒業研究Ⅰに引き続きドラッカーの『マネジメント』で行なっていきます。</p> <p>3. 学びの意義と目標 この過程を通じて、自ら計画したものを調査し、論理的にまとめ上げる能力を身につけていきます。</p>	
評価方法	
配点は、提出された論文（60%）とゼミでの参加・討議（40%）をもって、総合的に評価します。	
教科書	
授業の中で指示する P.F. ドラッカー/上田惇生『マネジメントー基本と原則[エッセンシャル版]』ダイヤモンド社	

卒業研究Ⅱ（キリスト教社会倫理）	秋 週1回 1単位
担当者：佐野 正子	
講義の目標及び概要	
<p>内容：卒業研究Ⅰに引き続いて、コミュニティーにおける社会倫理的諸問題を取り上げる。卒業研究Ⅰにおいて各自が選んだテーマについて具体的調査をおこない事例をもちこんで、研究を深めて発表をおこない、1万字のレポートにまとめる。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：3年生の必修科目</p> <p>学びの意義と目標：よりよいコミュニティーを形成するためには、どこに問題があり、どのように解決していったらよいかを考察することによって、コミュニティーのあり方についての理解を深めることを学びの目標とする。各自のテーマを研究し、発表し、討論をおこない、レポートにまとめるという作業を通して、問題を分析する力、発表する力、まとめる力など、社会に出てから必要とされる能力をも養うことも目標としている。</p>	
評価方法	
出席を重視し、各学生の発表内容や、討論への参加度、学期末レポートを総合的に判定し、評価する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究Ⅱ（金融論）	秋 週1回 1単位
担当者：鈴木 真実哉	
講義の目標及び概要	
<p>専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて学んだことを基礎として、さらに応用的・発展的な学習を進めてゆく。最終的には卒業論文の作成につながるようにする。</p>	
評価方法	
演習での発表・レポート・出席等を総合的に考慮して評価する。無断欠席は単位の放棄とみなすことがある。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究Ⅱ (経済学)	秋 週1回 1単位
担当者：石部 公男	
講義の目標及び概要	
卒業研究Ⅰに継続し、同様の内容とする。各人のテーマに沿った研究論文に取り組みながら授業では進捗状況に応じて各自内容を発表。	
評価方法	
平常点と提出論文の内容により評価。	
教科書	
プリントを配布する	

卒業研究Ⅱ (公共哲学)	秋 週1回 1単位
担当者：谷口 隆一郎	
講義の目標及び概要	
【この演習の狙いと目的】は、(1)公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにあります。そのために、それらに関して、世界の大学の公共哲学の授業で読まれている良質な内容の多くの文献を精読していきます。(2)論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。演習の課題等については、私の「公共哲学」のシラバスも参照してください。	
【演習の進め方】(1)1年かけて、多くの文献を精読・精解する。(2)文献をレジメにまとめ報告・議論する。(3)卒業論文のテーマにつながるトピックを決める。	
研究したり合宿に高原へ行ったりと楽しくゼミをやっていきたいと考えています。	
評価方法	
小論文1本(4000字以上)、レジメ、授業貢献度、出席率で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。合宿を何度か実施する。	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究Ⅱ (コミュニティ・ビジネス論)	秋 週1回 1単位
担当者：瀬名 浩一	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>「コミュニティ・ビジネスの現場」を履修し、まちづくり、福祉、環境、などコミュニティ・ビジネスの現場を支える経営者、利害関係者の講演から、コミュニティ・ビジネスの現場では「誰を助けるのか?」、「何をしているのか?」など地域経営の実情を知る。また、将来「社会起業家」として立ち立つために必要な起業家精神・組織づくり・資金調達などについて知れた内容を手がかりとして、自分の住んでいる地域についてコミュニティ・ビジネスの起業可能性を1万字以上のレポートに纏める。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>卒業論文への準備過程</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>1年生の予備演習、2年生の専門演習で学んできたテーマを、3年生で卒業研究の集大成し、4年生で卒業論文に取り組むベースとなる。</p>	
評価方法	
レジメの作成 30%、プレゼンテーション 40%、小論文30%	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究Ⅱ (情報倫理)	秋 週1回 1単位
担当者：竹井 潔	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆</p> <p>工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれてきた。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆</p> <p>卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで行ってきたことを継続し、さらに発展させていく。</p> <p>◆学びの意義と目標◆</p> <p>情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。</p>	
評価方法	
平常点40%、レポート60%	
教科書	
授業の中で指示する	

卒業研究Ⅱ (政治学)	秋 週1回 1単位
担当者：川添 美央子	
講義の目標及び概要 各自の関心に従って、現代日本の政治に関する問題を選び、調査のうえ発表し、最終的にはレポートを書いてもらう。	
評価方法 平常点（出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等）と、学期末提出のレポートを1:1の比率で評価する。	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究Ⅱ (地域社会論)	秋 週1回 1単位
担当者：大高 研道	
講義の目標及び概要 1. 内容 卒業研究Iにおいて設定したテーマをさらに深め、関連する領域において活動を展開する市民社会組織（NPO、社会的企業、協同組合、ボランティア団体等）についての調査を実施し、その成果を卒業研究レポートとしてまとめる。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の必修科目である。先行研究の批判的・創造的な検討を試みる卒業研究レポートは、大学における学びのひとつの集大成として位置づけられている。 3. 学びの意義と目標 最終的には、各自が関心のある社会的経済領域において一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。	
評価方法 ・ゼミへの参加状況（報告内容、討論時の積極性:50%）およびレポート(50%)。 ・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は大幅な減点の対象となる。	
教科書 プリントを配布する	

卒業研究Ⅱ (地域福祉)	秋 週1回 1単位
担当者：大塚 健司	
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 1、目的 介護保険の創設、社会福祉基礎構造改革（措置から契約）等福祉の大きな流れの中で、社会福祉法に地域福祉が位置づけられました。この授業では、専門演習（地域福祉）で学んだ地域福祉の考え方や各自がテーマに沿って自分で調べた市町村の地域福祉推進計画等を基礎に、さらに、計画の進捗状況やモデル的な地域福祉の取り組みについて調べ、議論し、「卒業研究I（地域福祉）」に引き続き、討論し、論文作成能力の向上を目指す。 2、カリキュラム上の位置づけ 演習科目である。「卒業研究I」に引き続き、調査、研究する。 3、学びの意義と目標 課題問題点の発見、論点整理、まとめを身につける。	
評価方法 討論への参加、論文の発表、提出された論文の内容80%、出席20%により評価	
教科書 プリントを配布する	

卒業研究Ⅱ (日本経済論)	秋 週1回 1単位
担当者：大森 達也	
講義の目標及び概要 卒業研究Ⅱの目的は、卒業研究Iで進めてきた卒業研究レポート準備をさらに進め、卒業研究レポートを完成することである。	
評価方法 (1) 12,000字程度のレポート提出 (30%) (2) 中間発表 (20%) (3) 最終発表 (30%) (4) 発表とディスカッションへの参加 (20%)	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究Ⅱ (法学)	秋	週1回	1単位
担当者：渡辺 英人			
講義の目標及び概要			
<p>「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければならない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2012年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。このゼミを通して、大学三年生に相応しい卒業研究を指導する。これを基に四年生になったら「卒業論文」を執筆して欲しい。</p>			
評価方法			
<p>1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)</p>			
教科書			
授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ (まちづくり学)	秋	週1回	1単位
担当者：平 修久			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容 一人ひとりの受講生の興味のあるまちづくり、あるいはまちの問題について各自研究を行う。テーマとしては、(1)都市開発・整備、(2)都市問題、(3)地域コミュニティの活性化・維持、(4)安全なまちづくり、(5)福祉のまちづくり、(6)まちの環境保全・再生・創造、(7)まちのイベント、(8)都市行政などを想定している。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。また、まちづくりに関する総まとめの授業である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 自ら課題を設定し、調査し、レポートを作成できるようにすること。</p>			
評価方法			
出席 (20%)、授業への参加度合い (発表や討議など30%)、レポート (50%) により評価する。			
教科書			
授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ (リスク対策論)	秋	週1回	1単位
担当者：標 宣男			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容 卒業研究Ⅰと基本的には同じ内容。 ただし調査の対象を新聞以外の雑誌、インターネット情報に広げる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、コミュニティー政策学科の専門科目における、選択必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 自分で問題を考え、答えを探ることを学ぶ。</p>			
評価方法			
レポートの内容およびレポートを聞いている時には質問の有無により総合的に評価する。			
教科書			
授業の中で指示する			

卒業研究(比較文化 アジア②)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：濱田 寛			
講義の目標及び概要			
<p>(内容) 日本と中国に関わる「比較文化」「比較文学」を対象とした演習である。また、広く「東アジア」における文化現象の考察も対象とする。上記の条件において、受講生の自由なテーマによる調査・研究発表を行う。演習発表後には成果としてのレポート報告を行う。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 本演習での学習を通して、テーマ設定・問題提起・問題解決の具体的な方法を習得し、将来の「卒業論文」執筆に向けての準備のための演習科目である。</p> <p>(学びの意義と目標) 必要な情報をどのようにして習得すべきか。またその情報をいかに活かすか。そしてそれをいかに提示すべきか。研究発表に不可欠な事項を、各自のテーマを考察する過程を通して学ぶ。</p>			
評価方法			
出席点:20% 演習発表:50% レポート:30%			
教科書			
プリントを配布する			